



令和7年度 ディスカバー 農山漁村の宝

中国四国 取組事例集

農林水産省
中国四国農政局



発刊にあたって

「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」は、内閣官房及び農林水産省が、強い農林水産業」、美しく活力ある農山漁村」の実現のため、農山漁村の有するポテンシャルを引き出すことにより地域の活性化、所得向上に取り組んでいる優良な事例を選定し、全国への発信を通じて他地域への横展開を図るもので、今年度（令和7年度）で12回目となります。

中国四国農政局管内では147件の応募があり、「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」として6団体が全国選定されました。

また、中国四国農政局では、応募のあった団体及び個人の中から、他の地域の参考となるような優良な事例を、中国四国農政局「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」として10団体と1名を選定するとともに、今後の活躍が期待できる事例を、「地方奨励賞」として27団体と3名を選定しました。

今年度、応募のあった団体及び個人の事例について、その地域の「農山漁村（むら）の宝」として広く発信するとともに、身近な地域の取組として紹介するため、事例集を作成しました。

各地域において参考にいただき、農山漁村や農林漁業への関心を深めていただくきっかけになれば幸いです。

※ 「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」の情報は、中国四国農政局のホームページをご覧ください。

URL: <https://www.maff.go.jp/chushi/nouson/kaseika/discover.html>



令和8年3月

中国四国農政局農村振興部農村計画課

目 次

○ 「ディスカバー農山漁村 ぐら)の宝」全国選定 及び 中国四国農政局 「ディスカバー農山漁村 ぐら)の宝」 の取組概要		1
○ 中国四国管内各県の取組事例		
鳥取県		5
島根県		15
岡山県		29
広島県		41
山口県		47
徳島県		57
香川県		75
愛媛県		85
高知県		97

受賞団体のロゴマークについて



「ディスカバー農山漁村 ぐら)の宝」第12回選定)有識者懇談会において、地域の活性化や所得向上に取り組んでいるとして選定された優良事例 (全国30事例)



全国の選定事例に準じて、中国四国農政局 「ディスカバー農山漁村 ぐら)の宝」選定委員会が選定した他地域の参考となる優れた地域活性化の優良事例



中国四国農政局 「ディスカバー農山漁村 ぐら)の宝」選定に準じて、中国四国農政局各県拠点を選定した今後の活躍が期待される優良事例

「ディスカバー農山漁村の宝」の概要

趣旨

「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」とは、「強い農林水産業」、「美しく活力ある農山漁村」の実現のため、農山漁村の有するポテンシャルを引き出すことにより地域の活性化や所得向上に取り組んでいる優良事例を選定し、全国に発信するものです。

対象となる取組

地域において、新たな需要の発掘・創造や埋もれていた地域資源の活用を行うことにより、農林水産業・地域の活力創造につながる、次の①から③のいずれかに該当する取組とします。

- ① 美しく伝統ある農山漁村の次世代への継承
- ② 幅広い分野・地域との連携による農林水産業や農山漁村の再生
- ③ 国内外の新たな需要に即した農林水産業の実現

選定方法

有識者懇談会において総合的に審査し、優良事例を選定します。さらにその中からグランプリ、優秀賞及び特別賞を選定します。



過去の選定事例はこちらから

<https://www.discovermuranotakara.com/sentei/select-map.php>



ロゴマーク

農村をイメージした「稲穂」と漁村をイメージした「海・波」、農山村をイメージした「山」をモチーフにしたデザイン。

〔制作者：濱中 幸子氏（グラフィックデザイナー）〕



第12回ディスカバー農山漁村の宝 全国選定一覧

全国で454件の応募があったなか、中国四国農政局管内からは6団体が全国の優秀事例に選ばれました。

優秀賞 ビジネス・イノベーション部門

大山乳業農業協同組合 鳥取県琴浦町 P.12

鳥取発！未利用資源で酪農家をサポート

下水汚泥から生成されるバイオ炭を、家畜糞尿を使った堆肥の水分調整剤のおが粉の代替として活用し採草地に施用。炭素の土壌貯留を図ってCO₂排出抑制。J-クレジット制度に登録。



特別賞

郷土のお宝味覚牽引賞

株式会社あぐりてらす阿知須 山口県山口市 P.51

阿知須特産品の「寒漬」を風景、文化とともに次世代へつなぐ

明治以前から作られてきた大根の「寒漬」が地元大手漬物メーカーの廃業で供給が急減。生産風景と食文化を次世代へ継承すべく寒漬づくりに取り組む。出前授業を行い学校給食にも提供。



農泊賞

一般社団法人そらの郷 徳島県美馬市、三好市、つるぎ町、東みよし町 P.67

世界農業遺産を活用した農山村の活性化

世界農業遺産認定の「にし阿波の傾斜地農耕システム」による伝統農法、食文化や歴史を観光資源とした体験型教育旅行を実施。受入家庭の掘り起しや研修も行う。インバウンドにも対応。



その他優良選定地区

下町水土里会 鳥取県八頭町 P.11

元気に農地とふる里を守り、こころ豊かな暮らしを

集落の農業施設や農地の維持・管理、自然環境保全を担う集落営農組織。非農家や団体も巻き込み地域活性化に取り組む。有機農業を推進し、町の「オーガニックビレッジ宣言」を後押し。



三高みんなの食堂プロジェクト 香川県東かがわ市 P.82

香川県立三本松高等学校、農事組合法人福栄中央

学食を地域食堂に、そして住み続けたいまちへ

危機的状況だった高校の学食を、生徒の主体的活動と地元農業法人の協働により復活。食材の有効活用や地産地消などの取組で、単なる学食から地域交流・食育の場に発展。



高知農業高等学校畜産総合科3年 加工班 高知県南国市 P.104

畜産農家を救えプロジェクト

コロナ禍で激減した外食需要の影響を受けた、地元産地鶏肉の消費促進活動を経て立ち上げたプロジェクト。畜産物を使った商品開発、食育活動に取り組み、畜産農家支援を展開。





第12回ディスカバー農山漁村の宝 中国四国農政局選定地区一覧

中国四国農政局管内から応募のあった147件より、
次の10団体と1名を 中国四国農政局『ディスカバー農山漁村の宝』として選定しました。

白谷工房 鳥取県日南町) P.13

廃棄される木材に新たな価値を創造する

建物・家具等の廃材を利用した寄せ木細工のアクセサリや生活雑貨など製作・販売。地域産業の創出に貢献。幅広く森林教育(木育)を実施し、森林資源の価値を見直す活動を推進。



株式会社さんべ開発公社 鳥根県大田市) P.21

星空と日の出、山頂に向かう暗闇の空中散歩

閉鎖したスキー場のリフトを使って日の出前に三瓶山(大平山)に登り、地元食材を使った朝食を山頂で食べる「天空の朝ごはん」が人気。天空の星降るリフトなど新しい企画も始動。



大茅地区活性化協議会 岡山県西粟倉村) P.37

地域に誇りを持ちいきいきと暮らそう

大幅な人口減と高齢化進展を受け設立。源流の自然を生かし関係人口を生み出そうと、棚田の法面や畦道へ芝桜を植栽。「おおがや芝桜公園」の集客活動や、古文書保護など文化活動も行う。



広島県立庄原実業高等学校 広島県庄原市) P.46

輸出リスクを減らせ！「GAP認証ナシ酢」の製造

香港へ輸出できない規格の梨の活用方法を研究。果皮に豊富に含まれる機能性成分を生かした果実酢を、地元醸造会社と連携して完成させ販売。



株式会社ときつ養蜂園 山口県山口市) P.51

ミツバチが導く、農薬を使わない食といのちの未来

ケミカルフリー環境で残留農薬不検出の高品質なはちみつを生産し、加工・直接販売。周辺の農地・山地で多様な作物を育ててミツバチに優しい環境づくりと里山再生にも取り組む。



徳島県立小松島西高等学校 TOKUSHIMA^{おから}雪花菜工房

藻場の再生で広がるネットワークとその探究活動について 徳島県小松島市) P.62

地元関係者と連携し海の課題を解決。未利用魚・ブダイ使用の食品の開発・販売。藻場のCO₂吸収量可視化の研究成果で、高校生として初の『ブルーカーボנקレジット』を申請・受理された。



徳島県立城西高等学校神山校 まめのくぼプロジェクトチーム

高校生が挑戦まめのくぼ再生プロジェクト 徳島県神山町) P.70

地域の耕作放棄地「まめのくぼ」の諸課題を環境と食農の観点で解決を目指す。地元関係者も参加。「まめのくぼ」の一部を借受け再生。在来種の小麦などを栽培し6次産業化にも取り組む。



岸田 智子 香川県三木町) P.83

人・馬・農地をつなぐ“Restart with Legacy”

耕作放棄や鳥獣被害が深刻な中山間地域で、軽量で扱いやすい葉草や牧草に着目し農地を再生。さらに6次産業化や食品残渣の馬用飼料へのアップサイクルにも取り組み地域を活性化。



NPO法人うちぬき21プロジェクト千町棚田チーム 愛媛県西条市) P.92

つなぐ棚田遺産～千町棚田を後世に～

市民、高校、地域企業、子ども食堂等団体及び市と連携。耕作放棄地を再生し、米、梅、ゆず、山菜の栽培・加工に取り組む。放置竹林整備、石垣修復、棚田ライトアップなどの各種活動を実施。



安芸 釜あげちりめん井」楽会 高知県安芸市) P.102

じゃこ食文化で郷土愛を育むじゃこ！！

安芸沖で獲れるちりめんじゃこなど地域食材のPRによる、地域産業の振興や郷土愛の向上を図る取組。サミットを開催し安芸市をじゃこの聖地として全国へPR。毎月15日は「じゃこの日」



有限会社はたやま夢楽 高知県安芸市) P.103

人口20人の限界集落に年間1,700人を呼ぶ土佐ジロー

地鶏「土佐ジロー」を肉用として飼育・加工し、全国の飲食店や個人消費者へ販売。取引相手に産地や特徴を説明して納品。宿泊施設も運営し土佐ジロー講座付きの宿泊プランを開設。



第12回 全国選定証授与式、交流会の様子

選定証授与式 農林水産省 講堂 (令和7年12月19日)
交流会 総理大臣官邸 (令和8年1月20日)



(社)そらの郷
藤井委員と



今村委員が試食
高知農業高等学校
畜産総合科3年加工班
林座長と



三高みんなの食堂プロジェクト



委員に説明



向笠委員と懇談 →



(株)あぐりてらす阿知須 林座長と



下町水土里会



大山乳業農業協同組合 藤井委員と



官邸の階段で記念撮影

中国四国農政局選定証授与式

中国四国農政局管内各県拠点主催で選定証授与式を行いました



白谷工房



株式会社さんべ開発公社



大茅地区活性化協議会



広島県立庄原実業高等学校



株式会社ときつ養蜂園 前列右)
(株)あぐりてらす阿知須、地方奨励賞の皆さんと



山口県内受賞者の
意見交換会を開催



徳島県立小松島西高等学校
TOKUSHIMA雪花菜工房



徳島県立城西高等学校神山校
まめのくまプロジェクトチーム



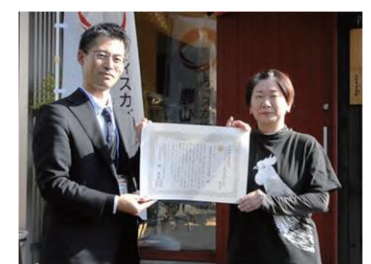
岸田 智子 氏



NPO法人うちぬき21プロジェクト
千町棚田チーム



安芸 釜あげちりめん井」楽会



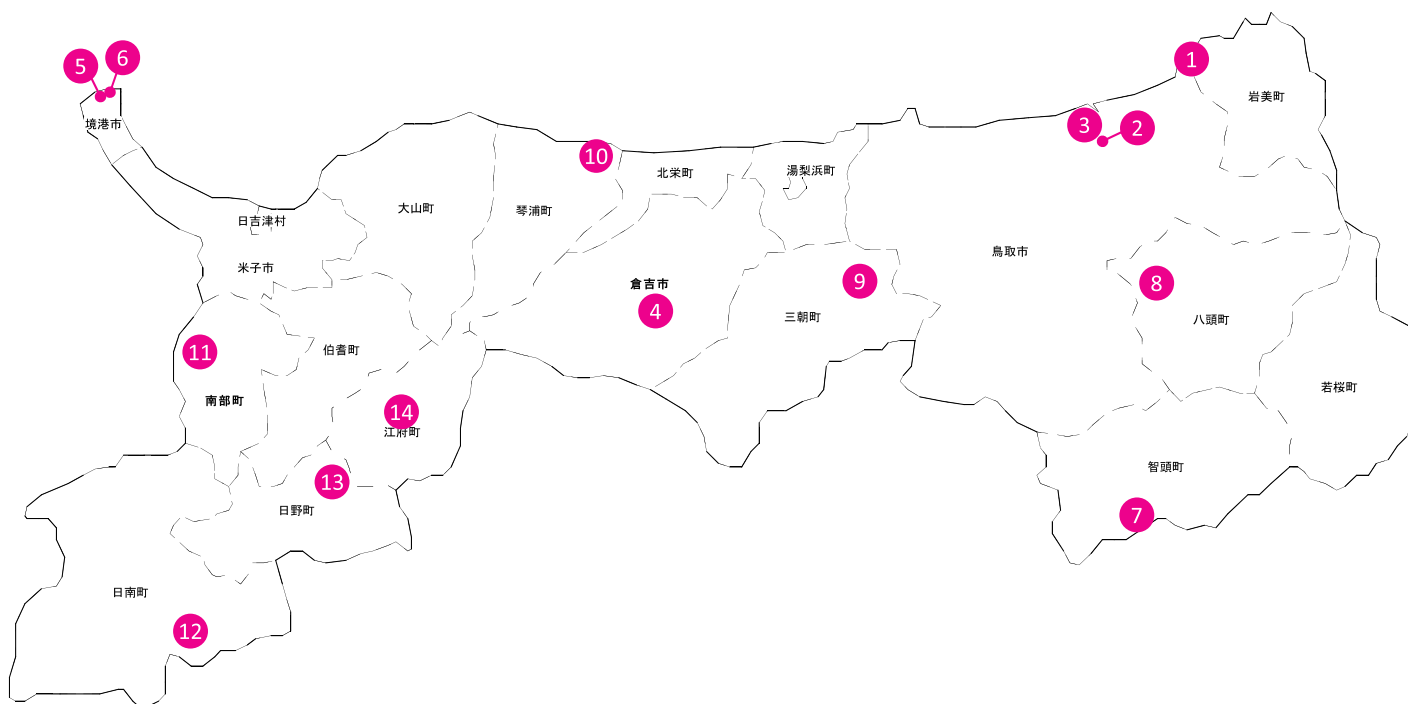
有限会社はたやま夢楽

鳥取県

ディスカバー農山漁村 むらの宝」第12回選定) 応募団体等 一覧 鳥取県)

No	選定 団体	部門	市町村	団体名/氏名	該当する取組		
①	地方 奨励賞	団体	鳥取市	株式会社タシマボーリング	水産業	女性の活躍	多様な分野との連携
②		団体	鳥取市	とっとり水土里の女性会	荒廃農地対策	女性の活躍	農村環境・景観保全
③		団体	鳥取市	結梨	農業	6次産業化	食育・教育
④		団体	倉吉市	倉吉市体験型教育旅行誘致協議会	農泊		
⑤		団体	境港市	特定非営利活動法人 未来守りネットワーク	環境保全 農林水 産業・食品産業)	食育・教育	
⑥		個人	境港市	濱野 政和	水産業	官民共創	食育・教育
⑦	地方 奨励賞	団体	智頭町	特定非営利活動法人自然体験まるたんぽう	移住 定住	食育・教育	関係人口の創出
⑧		団体	八頭町	下町水土里会	環境保全 農林水 産業・食品産業)	農福連携	食育・教育
⑨		団体	三朝町	三徳レンジャー	農業	6次産業化	学生・若者の活躍
⑩		団体	琴浦町	大山乳業農業協同組合	農業	企業との連携	環境保全 農林水 産業・食品産業)
⑪		団体	南部町	南部町エゴマ販売促進協議会	農業	荒廃農地対策	関係人口の創出
⑫		団体	日南町	白谷工房	企業との連携	雇用	関係人口の創出
⑬		団体	日南町 日野町 江府町	日野郡鳥獣被害対策協議会実施隊	鳥獣被害防止	高齢者の活躍	
⑭	地方 奨励賞	団体	江府町	農事組合法人宮市	農業	スマート農林水産業	移住・定住

応募団体等所在市町村図（鳥取県）



地方
奨励賞

かぶしきがいしゃ

株式会社タシマボーリング

井戸掘り技術とマサバで水産未来と地域活性掘り起こす！

概 要

- 井戸や温泉の掘削など、各種ボーリング工事を専門に手掛けていたが、井戸掘り技術を活かし地下海水を活用したマサバの陸上養殖を令和3年4月から展開している。
- 「さばみちゃん」をはじめとしたブランドサバの発信により、地域のみならず全国での販路拡大を目指す。
- 規格外サバを地元プロサッカーチーム寄宿舍の食材に提供するなど有効活用により、広告連携を実現している。
- キャリア教育の場として、小学生から大学生の体験学習を積極的に受け入れている。



プロサッカーチームへの規格外サバ提供



高校生職場体験



ブランドサバの「さばみちゃん」

〒680-0871 鳥取市吉成南町二丁目8-15(本社) 0857-53-1767
 〒681-0073 岩美郡岩美町大字大谷2182-484 (地下海水井戸陸上養殖センター)
 E-mail: dtashimab@aioros.ocn.ne.jp



関連情報はこちら ▶

みどり じょせいかい
とっとり水土里の女性会

女性のパワーで豊かな水土里資源を次の世代へ！

概 要

- 平成29年度に設立。現在の会員50名。
- 土地改良区をはじめとした農業農村整備組織は、依然として男性が多くを占めているため、当女性会は、女性が力を十分に発揮することで、地域に新しい風を吹き込み、より多様な視点から水土里の保全と活用を目指す。
- スキルアップを目的とした研修会の実施や、耕作放棄地での作物栽培を通じて農地の再生や景観保全、砂丘地農業の継承に取り組む、その成果を地域や全国に発信。



サツマイモ収穫後にみんなで

成 果

- 女性のスキルアップにより土地改良区の業務改善が図られ、女性の活躍に寄与している。
- 耕作放棄地の解消や景観保全に貢献している。
- サツマイモの植え付けや収穫には、子どもや男性、他県の女性会も活動に参加し、交流が広がっている。
- 農業農村整備分野における全国で4番目の本会の設立により、他県に同様の女性会や全国初となるブロック単位の女性会が設立され、全国的な女性の交流や仲間づくりの輪を広げることができた。



道路法面の植栽活動

〒680-0911 鳥取市千代水4丁目37番地
 0857-38-9500 yoshimura@totirengogonet.or.jp

ゆいりん 結梨

梨と柿の6次産業化で鳥取を元気に！

概要

- 鳥取大学の学生団体で、鳥取県産果樹の知名度向上と規格外の梨や柿を活用した商品開発・販売活動を目的に令和3年に設立。令和7年度は46名で活動。
- 県内6か所の農家と交流を持っており、学生は農薬散布以外のほぼすべての農作業を行うことで労働力を、農家は果樹栽培の知識や技術を提供し合う。
- また、交流農家から規格外の梨や柿の提供を受け、県内企業と協力して商品開発を行うなど、6次産業化にも取り組む。



農作業の様子



梨葉スイーツの販売



子供たちとの収穫体験

成果

- 未利用資源の梨の葉に着目した「梨葉プロジェクト」に取り組んでおり、耕作放棄地の梨の葉を活用した「梨葉ビスクレットサンド」などの商品化を通じ、耕作放棄地の活用とともに、県内高校生や企業等と連携した新たな名産品づくりに挑戦。
- 子供たちとの収穫体験など、地域との継続的な交流を図ることや、SNSでの情報発信やイベント出店を積極的に行うことで、鳥取果樹の知名度向上や活動の認知向上に貢献。SNS効果で、今年度の結梨新メンバーの加入も増加。

〒680-1417 鳥取市桂見929-7 bank upアジト内
0857-37-3373 yuiline.totto@gmail.com

関連情報はこちら ▶



くらよしいけんがたきょういくりょこうゆうちきょうぎかい 倉吉市体験型教育旅行誘致協議会

いなかといいなか セキガネたいけん

概要

- 平成19年度に協議会を設立。現在の会員37名。
- 過疎化・高齢化が進む中山間地域において、地域資源を活用した教育旅行誘致や観光誘客促進に取り組み、地域活性化や受入家庭等の所得向上を目指す。
- 民泊を利用した田舎暮らし体験ツアーを商品化し、令和6年度は都市部や海外から年間約1,000人の農村生活体験、民泊体験の受入を行っている。



在日外国人高校生との交流

成果

- 受入家庭の収入増や、受入時の食材購入・温泉施設利用などで地域経済に貢献している。
- 鳥取県の教育旅行誘致の一翼を担っている。
- 体験者や受入家庭の人々の笑顔、体験者からの感謝の手紙などで、改めて「人の交流」の素晴らしさを実感している。



インバウンド民泊体験

〒682-0411 倉吉市関金町関金宿1139
0858-45-1122 taiken@sekigane.com

関連情報はこちら ▶



とくていひえいりかつどうほうじん さきも
特定非営利活動法人 未来守りネットワーク
 海～川～山をつなぐ（環境の保護・再生・中山間地域）再生

概 要

- 中海再生プロジェクト「よみがえれ中海」をテーマに、地元若手企業人が環境保護・教育・地域再生を目的に平成16年に設立。
- 中海の水質浄化、魚介類の産卵・育成場や稚魚のすみかとなる藻場を再生させるため、アマモ類の種子採取や移植イベントを定期的に開催。
- 中海で異常繁殖した海藻類を除去・加工し、出雲国由来の海藻肥料として活用（SDGs）。日野町では、約10年前から海藻肥料を使った「海藻米」の田植えや稲刈りイベントを実施。



海藻米の稲刈りイベント



小学生への環境講演



アマモ種子の採取・移植イベント

〒684-0004 境港市大正町38
 0859-47-4330 jim@npo-sakimori.net

関連情報はこちら ▶



はまの まさかず
濱野 政和

水産の街として、自らが地域の軸となり、みんなを巻き込む旋風のような動きで多人数へアプローチ

概 要

- ベニズワイガニ生産者たちが平成17年に結成した「境港ベニガニ有志の会」に飲食店として参画し、平成21年から会長。
- 料理人の知識を生かし料理教室、未就学児のベニガニ食育活動をはじめ、「さかいみなと中野港漁村市」など水産振興の実働部隊として活動。また、メディアにも積極的に露出。
- 地元の高校での調理実習や魚食普及の指導により、生徒達とのつながりを継続しており、生徒達と各種イベントに参加。



未就学児食育 かに集会



未就学児食育 えのは集会



Sea級グルメ講演

成 果

- まぐろ集会、かに集会、魚の解体ショー等の実演により、未就学児等の食育活動に貢献。
- 高校で魚食普及を指導する中、「LOCAL FISH CAN2022」において、指導する高校生が最優秀賞を受賞。
- 沿岸漁業活性化のため、漁業者と連携して「さかいみなと中野港漁村市」を平成25年から開催し、沿岸漁業の知名度向上や漁業者の収入アップに貢献。

〒684-0023 鳥取県境港市京町6（味処美佐）
 0859-42-3817 h-march@gaea.ocn.ne.jp

関連情報はこちら ▶



地方
奨励賞とくていひえいりかつどうほうじん しぜんたいけん
特定非営利活動法人自然体験まるたんぼう

親子で体験する「ちづ暮らし」と「森のようちえん留学」

概 要

- 令和5年度に法人設立。森のようちえん部門、森のがっこう部門、視察研修部門の3事業を実施運営。
- 教育移住の促進に取り組むとともに、移住がかなわない方々に智頭町の魅力や良さを知ってもらうため、森のようちえん体験と智頭暮らし体験を提供。
- 体験参加者をサポートするため、町内の宿泊施設、リモートワーク施設、藍染工房、カフェ、野菜農家と連携。

成 果

- 森のようちえん体験や智頭暮らし体験の提供により、教育移住の促進や、子育て世代の関係人口拡大に貢献。
- 町内の関係者と連携し、観光情報の提供や滞在サポートを行うことにより、体験参加者の満足度が向上。
- 親子で智頭町の豊かな自然環境を感じながら、給食や藍染めを楽しみ、また、子供たちだけで森へ通い、様々な自然体験や仲間との課題解決を経験することで成長を実感。



藍染工房による藍葉のたたき染めを体験



町内カフェの手作り給食



地元野菜のお味噌汁作りに挑戦

〒689-1442 八頭郡智頭町大屋160
0858-71-0033 marutanbou.tizu@gmail.com

関連情報はこちら ▶

しまちみどりかい
下町水土里会

元気に農地とふる里を守り、こころ豊かな暮らしを

概 要

- 集落の農業施設や農地の維持・管理、自然環境保全を担うため、平成19年に集落営農組織を設立。非農家や団体も巻き込み、多面的機能支払交付金を活用し、地域内外の団体と連携して農村コミュニティ及び地域の活性化に取り組む。
- 令和元年から有機農業を推進し、一部エリアは環境省の「自然共生サイト」の認定を受ける。耕畜連携による堆肥利用や、バイオマス発電のメタン発酵消化液の液肥利用に取り組み、有機農産物は学校給食や多様なチャンネルを通じて販売。
- 女性部が不耕作田を活用し、高齢者施設や障がい児童施設と農業体験交流を実施。

成 果

- 有機農産物は、付加価値が評価され取引を拡大。コウノトリが有機栽培田に飛来するなど、生物多様性が回復しつつある。
- 高齢者や障がい児童との農業体験交流により、多様性を尊重した地域共生社会づくりに貢献。
- 集落外の大学生、消費者グループ、環境団体などとの地域協働による交流活動を通じて農村関係人口が拡大。
- 本会の取組が後押しとなり、八頭町は令和7年10月19日に「オーガニックビレッジ」を宣言。



有機栽培田に飛来したコウノトリ



障がい児童施設の子供たちとの農業体験交流



八頭町オーガニックビレッジ宣言

〒680-0471 鳥取県八頭郡八頭町船岡603

みとく 三徳レンジャー

三朝の美味しいお米 全国に届け隊

概要

- 平成21年4月に発足した鳥取大学生で構成する学生団体。
- 鳥取県中部の三朝町三徳地区で休耕田を借りて米を生産。収穫した米、米粉及び米粉を使用したパウンドケーキ等をイベント、道の駅、インターネットなどで販売。
- 農作業や販売活動、6次産業化の実践に挑戦しながら、地域の方との交流に力を入れ、地域の中で農業をすることの楽しさや難しさを学んでいる。



田植えの風景



キュリー祭（三朝町）での販売



レンジャー集合

成果

- 再生紙マルチを利用した雑草抑制、鶏糞等の有機肥料の利用など、環境負荷低減の取組を実践することで温室効果ガス削減に貢献。
- 三徳地区の集会や神社の祭り、水路清掃にも積極的に参加し、販売イベントでは、三朝温泉観光大使として三朝温泉の魅力も発信しており、三朝町の発展・振興に貢献。

〒680-1417 鳥取市桂見929-7
mitokuranger.mail@gmail.com

関連情報はこちら ▶



だいにんにゅうぎょうのうぎょうきょうどうくみあい

大山乳業農業協同組合

鳥取発！未利用資源で酪農家をサポート

概要

- 酪農現場では堆肥の水分調整材として使われるおが粉の価格高騰や調達困難が深刻化する一方、下水污泥から生成されるバイオ炭の有効活用が模索されていたため、企業間連携によりバイオ炭をおが粉の代替として堆肥に活用する取組を開始。
- 家畜ふん尿にバイオ炭を混ぜた堆肥を採草地に施用し、炭素の土壌貯留を図ることでCO₂排出を抑制。令和6年度、J-クジツ制度に登録。



リン酸が多く含まれるバイオ炭



堆肥の切り返し時にバイオ炭を混合



バイオ炭を混合した堆肥を施用

成果

- バイオ炭混合堆肥により、資材コスト削減のほか、土壌の浸透性や保水性が向上し、匂いの軽減pH調整などの効果を確認。飼料用作物の健全な生育と収量の安定化も期待。
- 本取組により、CO₂の排出抑制とともに化学肥料の削減も見込まれ、環境保全と生産性向上の両立に貢献。
- 年間200トン超のCO₂削減が見込まれ、J-クレジットの取得・販売による酪農家への利益還元も実施予定。

〒689-2393 東伯郡琴浦町大字保37-1
0858-52-2211 homepage@dainyu.or.jp

関連情報はこちら ▶



なんぶちょう はんばいそくしんきょうぎかい
南部町エゴマ販売促進協議会
 遊休農地を活用して地域活性化

概要

- イノシシ被害の拡大で遊休農地が増加傾向にあり、被害を受けにくいエゴマ栽培を通じて、遊休農地の有効活用を図る。また、健康食品としてエゴマ油を生産販売することで、地域の活性化を目指している。
- 平成30年に協議会を設立し、南部町の地域振興作物として町の支援を受けている。平成31年から無農薬栽培を行い、肥料の統一により品質の均一化を図っている。



定植作業



鳥取大学生との脱粒作業



販売商品（なんぶの雫 エゴま油）

成果

- ふるさと納税返礼品、ネット販売、とっとり花回廊等に販路を拡大。今後は健康食品として認知度を高め、地域住民の消費拡大や生産者の増加等により地域農業の振興を図る。
- 労力のかかる収穫作業では、鳥取大学の農村ボランティアと交流して人手を確保するなど交流人口の拡大を図っている。

〒683-0351 西伯郡南部町法勝寺341
 0859-66-3121 sakura_hosshouji_1@yahoo.co.jp



しろいたにこうぼう
白谷工房
 廃棄される木材に新たな価値を創造する

概要

- 平成24年に設立し、日南町の奥地・白谷地区にある廃園となった保育園に寄木細工のアトリエを構える。
- 建築現場などで出る木材の廃材を利用して寄木細工のアクセサリや日用品などを製作・販売するとともに、都市部の企業等と連携して商品開発を行っている。
- 寄木細工のワークショップの開催、SDGs教育や修学旅行の受入れを通じて地域内外の方々に交流・学びの場を提供し、森林の多様な価値や日本の伝統的なものづくり技術を伝えている。



白谷工房の中村代表

成果

- 廃材を利用して寄木細工のアクセサリや日用品などを製作・販売し、地域の雇用を創出するとともに、都市部の企業等と連携して商品開発を行うなど地域の産業創出にも貢献している。
- 寄木細工の体験等で親子連れや大学生などの若い世代が工房を訪れることにより地域の賑わいを創出するとともに、関係人口や交流人口が拡大するなど波及効果を生んでいる。



「交流・学びの場」の寄木細工のワークショップ

〒689-5671 日野郡日南町福塚1002-1
 0859-83-0180 nakamura@shiroitani-koubou.com

関連情報はこちら ▶



ひのぐんちようじゅうひがいたいさくきょうぎかいじっしたい 日野郡鳥獣被害対策協議会実施隊

地域住民と連携して農作物を守る

概要

- 平成25年12月に日野郡3町（日南町、日野町、江府町）で「日野郡鳥獣被害対策協議会」を設立。
- 平成26年4月に実施隊を設置し、実行部隊として「捕獲」に頼らず地域住民が「地域ぐるみで被害を減らす」体制の構築や対策の講習、普及活動を行っている。
- 侵入防止柵を設置する集落へは、設置前基本研修や施工研修を行うとともに、施工時には手本を見せるなど、柵の設置による被害減少の効果を感じられるよう取り組んでいる。



集落講習会の様子

成果

- 実施隊による集落講習会などの実施地区は、令和5年度末時点で日野郡全集落の約8割にのぼり、地域住民の意識が「捕獲」から「どのようにして被害を減らすか」に変容し、適切に対策を行えば効果があることが理解された。
- 侵入防止柵の設置総延長が取組当初より4倍以上増加したことで、農作物被害の減少につながっている。



ワイヤーメッシュ現地施工研修

〒689-4503 日野郡日野町根雨140-1
0859-72-1399 hino-choju@sea.chukai.ne.jp

地方
奨励賞

のうじくみあいほうじん みやいち 農事組合法人 宮市

地域の農地は地域で守る。

概要

- 平成7年設立。宮市集落を中心に、離農や高齢化で営農継続が困難となった農地を引き受け、面積を拡大。
- 日野特別栽培米研究会、奥大山プレミアム特別栽培米研究会に参加し、水稻の特別栽培に取り組む。
- 地域の福祉施設や水工場の食堂へ出荷。道の駅など直売所では独自のパッケージで販売。ふるさと納税の返礼品にも出品。
- データ駆動型農業を目指しており、アグリノートやザルビオを活用。今後はドローンを導入し、たん水直播やドローン可変施肥に取り組み、規模拡大を図る。



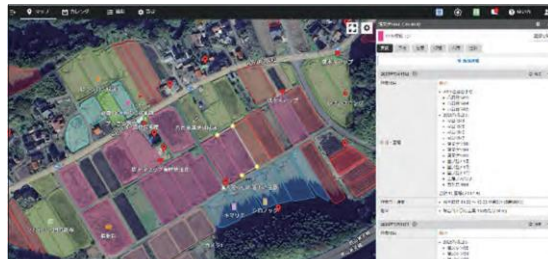
食味コンテスト受賞



学生ボランティアとの獣害対策作業

成果

- 個人での営農継続が困難となった農地を集積し、地域の生産基盤の維持に貢献。
- 特別栽培農産物認証を取得し、特別栽培米コシヒカリを生産。良食味米生産にこだわり施肥設計を研究しており、多くの食味コンテストで受賞し、江府町の良食味米として認知度が向上。
- 学生ボランティアなど関係者と共同で獣害対策作業を行うなど、関係人口を創出。
- 今後の規模拡大に向け、省力化やDX化を加速。



電子圃場管理+栽培記録

〒689-4421 日野郡江府町宮市150-1
0859-72-3753 miyaichi7121@gmail.com

関連情報はこちら ▶

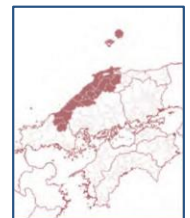
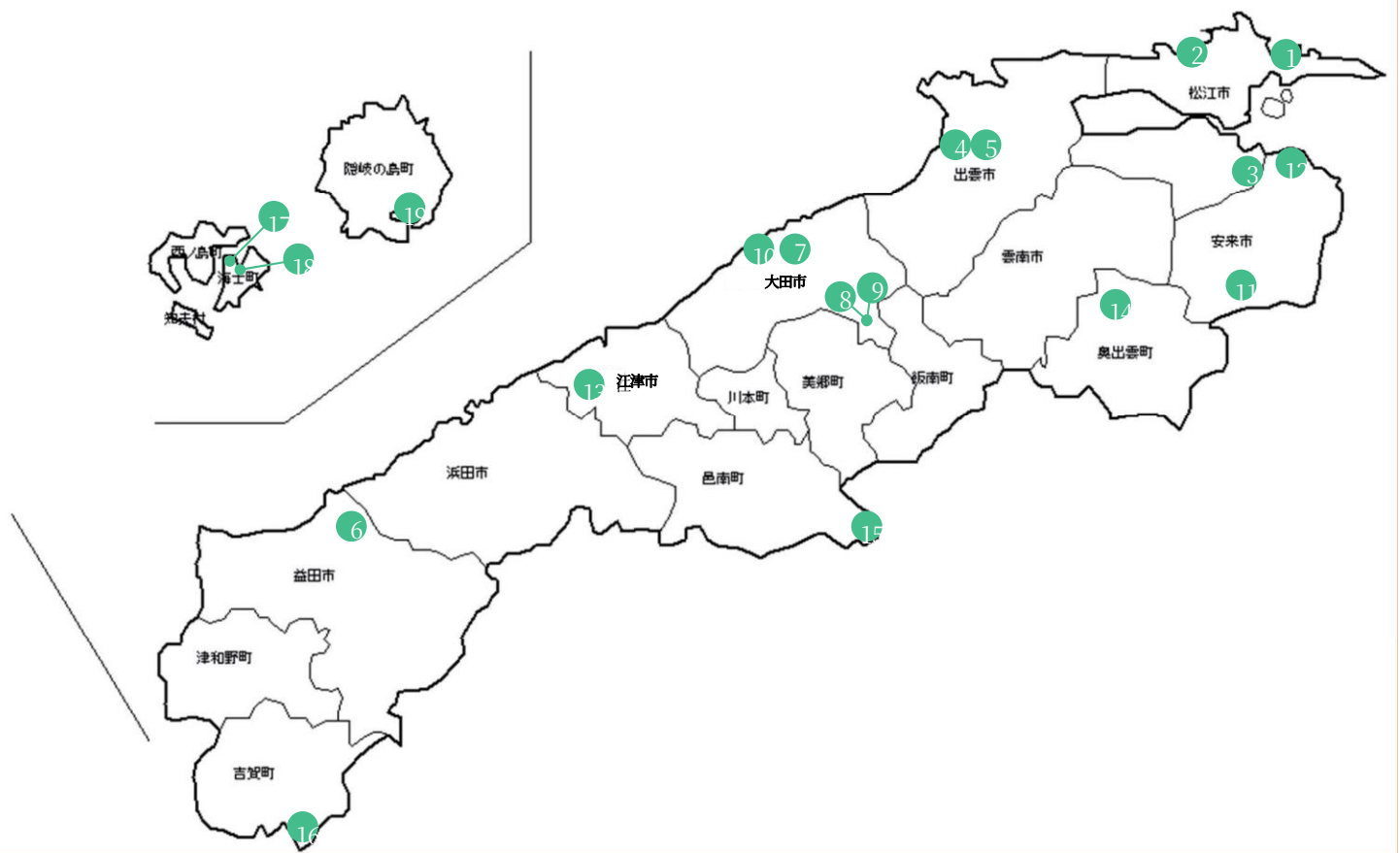


島根県

ディスカバー農山漁村 むらの宝」第12回選定) 応募団体等 一覧 島根県)

No	選定 団体	部門	市町村	団体名/氏名	該当する取組		
①		個人	松江市	青戸 裕司 (ゲストハウス かたゑ庵)	農泊	移住 定住	多様な分野との連携
②	地方 奨励賞	団体	松江市	株式会社Mitsu Fisherman's Factory	6次産業化	移住 定住	関係人口の創出
③		団体	松江市	畑ほし柿生産組合	伝統の継承	教育機関との連携	関係人口の創出
④		団体	出雲市	株式会社オリーブ園 夢創庭	農業	6次産業化	荒廃農地対策
⑤		団体	出雲市	高松地区農地保全協議会	荒廃農地対策	教育機関との連携	食育 教育
⑥		団体	益田市	田ノ原牧場	6次産業化	地産地消	
⑦		団体	大田市	石見銀山アスパラ生産組合	農業	スマート農林水産業	企業との連携
⑧		団体	大田市	株式会社さんべ開発公社	企業との連携	地産地消	関係人口の創出
⑨		団体	大田市	志学まちづくり協議会 お母さんのふるさとキッチン	農村文化体験	地産地消	女性の活躍
⑩		団体	大田市	宅野地域農地保全会	農業	荒廃農地対策	教育機関との連携
⑪		団体	安来市	シバザクラの会	棚田保全	移住 定住	関係人口の創出
⑫		個人	安来市	原田 吉郎	農業	伝統の継承	食育 教育
⑬		団体	江津市	跡市環境保全組合	農村文化体験	その他	
⑭		団体	奥出雲町	有限会社トム	農業	農福連携	高齢者の活躍
⑮		団体	邑南町	上田平佐棚田保全会	農業	棚田保全	関係人口の創出
⑯		団体	吉賀町	農事組合法人立河内絆	農業		
⑰		団体	海士町	一般社団法人海士町観光協会 島食の寺子屋	地産地消	食育 教育	学生 若者の活躍
⑱		団体	海士町	海士町学校給食共同調理場	企業との連携	地産地消	食育 教育
⑲		団体	隠岐の島町	隠岐ふるさと直売所協同組合	6次産業化	地産地消	移住 定住

応募団体等所在市町村図（島根県）



あおと ゆうじ
青戸 裕司 (ゲストハウス かたゑ庵)
ありのままの漁村を歓交地に！

概要

- ジオパークを生かした環境負荷のないアクティビティの提供や築100年の古民家を改装したゲストハウスでの宿泊、過去には、地域住民の自宅で夕食を提供する「民食」も実施。
- 海を生かしたカヤック体験、陸を生かしたタンデム自転車レンタルの他、インバウンド向きに近所の寺での禅体験やベジ寿司ワークショップ、竹藪での竹のワークショップ等を開催。
- ジオガイドの会、(一社)松江観光協会、島根大学、県境を越えて(一社)境港観光協会等と連携した取組。



6年間の取組の足跡



特注品の3人乗りカヤック



カヤック撮影、自転車レンタル等のオプション

〒690-1315 松江市美保関町片江396
0852-55-8600 info@kataean.com

関連情報はこちら ▶



地方
奨励賞

かぶしきがいしゃ みつ ふいっしやーまんず ふあくとりー
株式会社 Mitsu Fisherman's Factory
漁村の未来、獲る創る売る新しい漁師像へ

概要

- 漁業者の高齢化や収入不安など、地域漁村の衰退を危惧した小笹代表が、他業種から水産業未経験者をスカウトし、地元住民と共に漁業の立て直しを図るため、令和4年に事業を開始。
- 地域の基幹産業との協業によって、「獲る・創る・売る」を合言葉に、新しい漁師像を目指した働き方“漁師2.0”を確立。
- 地域連携プロジェクトやイベントへの参加、地域資源のブランド化の他に、地元小学生に対する漁業体験会の開催等、地域の活性化や食育につながる新たな価値を創出。



小笹代表（中央）と仲間たち



船上活締めの様子



さばの塩辛（左側）をはじめとする加工品

〒690-0411 松江市鹿島町御津402
0852-61-9193 mff0303@hotmail.com

関連情報はこちら ▶



はた がきせいさんくみあい
畑ほし柿生産組合
 伝統をつなぎ 人をつなぐ 天空のほし柿の里

概要

- 昭和30年に「畑乾柿（ほしがき）生産組合」を結成し、共同出荷体制の構築、販路開拓等に取り組む。
- ほし柿づくりの歴史や取組に関する出前授業の開催（小学校）、11月には生産現場の見学やほし柿づくりの体験を実施（小、中学校）。
- 平成21年からは「柿の木オーナー制度」を開始。
- シーズン以外の「柿小屋」は、「柿小屋コンサート」、「1日限定レストラン」、「柿小屋ナイトミュージアム」等として活用。



柿小屋が橙色に染まる集落の風景



小学3年生を対象とした出前授業



1日限定の柿小屋レストラン

〒699-0103 松江市東出雲町上意東816
 0852-52-5824

関連情報はこちら ▶



かぶしきがいは える むそうてい
株式会社オリーブ園・夢創庭
 幸せの雫 出雲産オリーブオイル

概要

- 高齢化・後継者不足により、ぶどうハウスの廃園や休耕園が増加していたことから、平成26年に廃園等を有効活用し、地域の活性化を目的にオリーブの栽培を開始。
- 収穫後、自社工場で24時間以内に搾油した良質なエキストラバージンオリーブオイルを商品化。
- 令和4年に出雲市の推奨商品「おいしい出雲」に認定登録され特産品として販売。



オリーブ園の様子



収穫前のオリーブの実



オリーブの搾油とオリーブオイル商品

成果

- 平成26年に植栽した92本から始め、廃園・休耕園を再活用し、令和6年時点で栽培面積を4.5ha、2,100本に拡大。
- 収穫量は令和2年の300kgから令和5年には2,400kgに拡大。
- 年間を通じて曇りや雨が多い中、島根県におけるオリーブ栽培は、県内外の関心も高く、視察の問い合わせがあるなど地域の活性化に寄与。

〒699-0822 出雲市神西沖町1687-11
 0853-43-1218 itoga@itoga1218.jp

関連情報はこちら ▶



たかまつちくのうちほぜんきょうぎかい
高松地区農地保全協議会
 こどもたちとの連携～農地を守る高松の宝～

概 要

- 令和2年に農林水産省の実施事業である多面的機能支払交付金制度を活用する活動組織として設立し、その後、合併・広域化を進め、町内会、小学校、幼稚園等の団体を含む令和7年度構成員が681（人・団体）に達し、そのうち7割が非農家。
- 農用地・水路等の保全、地域美化活動や田んぼダムに取り組む。
- 高校生との水路補修や小学校・幼稚園と連携した農業体験の場を提供。

成 果

- 水路補修は、高松地区の老朽化している農業施設（用水路等）の現状を高校生に知ってもらうとともに、共同作業による地域住民との関係が深化。
- 毎年行う未耕作農地での農業体験は、農地が地域の資源であることを再認識する場となっており、小学生や幼稚園児の食育にも貢献。



高校生との水路補修 側壁の補修



小学生との田植え体験



幼稚園児との田植え体験

〒690-0876 松江市黒田町432-1
 0852-32-4141 miyake@shimanedoren.or.jp

たのはらぼくじょう
田ノ原牧場

牛と人の共生が創り出す 日本の原風景が産み出す

概 要

- 夫婦で山地酪農を学び、平成29年に妻の地元にI、Uターン。耕作放棄地や山を開拓し、放牧地、採草地に再生。ジャージー牛2頭の放牧から始め、現在は夫婦それぞれ、兼業で働きながら和牛2頭、ジャージー牛8頭を飼育。
- 令和6年には乳製品製造業の許可を取得し、牛乳とチーズの製造、販売。
- 地元の保育園、小学生、高校生、林業関係団体、社会人等、年間50名前後の見学者を受け入れ、地域の魅力を発信。

成 果

- 約5haの耕作放棄地と約1haの竹林を放牧地に再生。放牧牛が笹やタケノコを食べることにより、竹林の拡大防止に繋がる。
- 再生力の強い匍匐系の多年草を放牧地に定着させることで、里山の景観の維持管理を省力化。
- 牛乳の他にチーズ3種（モッツアレラ、フロマージュブラン、カチョカヴァロ）を製造、販売。
- 海外産の飼料に依存しない飼養体制を構築。



夕方の放牧地で草を食む牛たち



牧場見学を行った際の様子



山の中で開催したオカリナ演奏会の様子

〒699-3674 益田市大草町826-1
 0856-23-4422 mokke1989@yahoo.co.jp

関連情報はこちら ▶



いわみぎんざん せいさんくみあい 石見銀山アスパラガス生産組合

石見銀山アスパラガスをバトンに！つなげ！大田市の未来へ！

概要

- 大田市農業の担い手不足が顕在化していた折、平成16年に生産組合を設立。先進地視察先の香川県でアスパラガス高畝栽培に出会い、身体的負担の軽減、所得の安定確保が実現できる方法と考え、令和2年度からハウス建設及び植栽をスタートさせた。



大田市長と新規就農者と語る会



アスパラガス×バスツアー



大田市内スタンプラリー

成果

- 農業者の高齢化を克服するため、高畝栽培を導入することにより、従来の露地栽培に比べて作業負担の軽減と効率的な生産が実現できた。関係4者（農業者、JA、市、県）が連携し組織的に取り組んだ結果、アスパラガス専用選果場の建設が実現し、品質の均一化と作業効率の向上が図られた。
- 令和6年度に大田市の魅力発信のため、バスツアーを企画し、全国からの参加者が収穫体験、有名シェフによる本格料理を楽しんだ。同7年度には、「おおだ味わいラリー」を企画し、市内飲食店22店舗の協力の下、アスパラガスを使用した料理を提供し、市民へその魅力を発信した。

〒694-0064 大田市大田町大田イ651-1

0854-84-9058 r-moriyama.gin@ja-shimane.gr.jp

関連情報はこちら ▶



かぶしきがいしゃ かいほうこうしゃ 株式会社さんべ開発公社

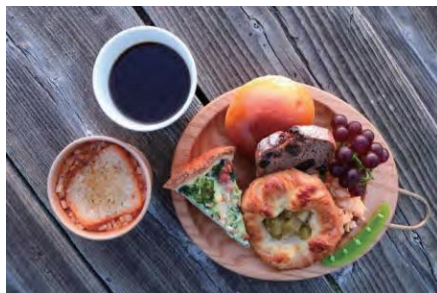
星空と日の出、山頂に向かう暗闇の空中散歩

概要

- 平成28年から始めた「天空の朝ごはん」は、観光リフトを活用し、標高854mの三瓶山山頂で日の出を鑑賞。地元9事業者が連携し、地元食材によるコラボ朝食を提供し、人気を集める。
- 令和5年からは夜のイベント「天空の星降るリフト」も実施し、暗闇体験、山頂での天体解説、生演奏など静寂と星空に包まれる幻想的な体験を提供。
- 三瓶山のわさび田見学・わさび飯ランチ、石見神楽団との交流、GI認証を受けた在来種の三瓶そば畑や田園風景を巡るE-BIKEガイドツアーなど、新しい企画を次々と始動。



山頂でのこだわりの朝食で日の出鑑賞



地元食材にこだわった朝食



光や音がほとんどない天体観測会

成果

- 「天空の朝ごはん」では、地元飲食店スタッフの説明により地域食材の良さが伝わり、参加者との一体感と高い満足度を生み出している。
- 「天空の星降るリフト」では、新たな観光価値を創出する他に例のないイベントであり、国内初の取組として中小機構からも高い評価を得ている。
- イベント申込人数や宿泊客数の増加を通じて地域経済に貢献するとともに、「さんべツアーズ」として旅行業務を開始し、地域観光の担い手としての体制整備を進めている。

〒694-0222 大田市三瓶町志学2072-1

0854-83-2011 nagao@sanbe-tours.com

関連情報はこちら ▶



志学まちづくり協議会 お母さんのふるさとキッチン

そばがつなぐ、人とまちと未来。

概要

- 地域の未来を真剣に考えようと「志学未来会議」を立ち上げ、小学生から高齢者まで多様な世代が集まり、地域の10年後を見据えたビジョンをもとに、志学地域づくり計画を策定。
- その一環として、在来種である「三瓶そば」のGI認証取得に着手し、そば文化の掘り起こしとそば打ち体験の商品化を通して地元女性の活躍の場を広げ、地域内外の人々をつなぐ新たな交流の場づくりを進めている。



志学未来会議の様子



三瓶そばゼミナールの開催



様々な体験会・外国人への体験教室の開催

成果

- 廃れつつあった蕎麦文化を掘り下げ商品化を目指し、「三瓶そばゼミナール」を立ち上げた。三瓶そばについて学んだことで、昔から普通にある蕎麦に価値があることを知り、栽培やそば打ちをする人が増えた。
- 三瓶そばゼミナールの生徒が近隣のイベントで指導者となり体験会を運営。地域の女性を中心に居場所づくりや小さな雇用を産み、観光客向けの体験会でも指導者として活躍している。
- 三瓶そばや本活動に気軽に関われるよう月一マーケットを開始し、地場産品の販売場所ができた。

〒694-0222 大田市三瓶町志学2065-2
0854-83-2167 mc-shigaku@city.oda.lg.jp

関連情報はこちら ▶



宅野地域農地保全会

地域の農地を未来へつなぐ

概要

- 平成26年、同じ悩みを抱える農家が「次世代へ農業をつなぐ」という共通の思いから農地保全会を設立。個人で実施していた「小学生へのお米の授業」が地域の共感を呼び、農地保全会の取組へと発展した。
- 耕作放棄地を活用し、地域の非農家の女性や小学生を対象にしたワークショップ・授業を通じて、地域農業の継承と新しい生産品種のブランド化を図っている。

成果

- 農業に触れる機会がなかった人達が、食や自然に関心を持つとともに、地域のコミュニティ形成に貢献している。
- 米づくりを体験した子ども達が地域の自然や伝統文化への理解を深めている。
- 地域の伝統芸能「子ども神楽」から着想を得て「宅野神楽米（たののかぐらまい）」を開発。ブランド化を進めるとともに、地元高校生がパッケージを作成し、道の駅で販売を開始した。



畑のワークショップ



小学校のお米の学校



宅野神楽米のパッケージ

〒699-2302 大田市仁摩町宅野876
0854-88-3181

かい シバザクラの会

『今日もえーひだ』～シバザクラの里永田～

概要

- 棚田畦畔へのシバザクラ植栽活動により、草刈作業の省力化と農村景観を活かした都市間交流の輪を広域に展開し、更なる地域の活性化を図ることを目的にシバザクラの会を設立。
- 農家、非農家、縁故者等50人を構成員とし、令和6年度までにシバザクラ10万本、花桃500本を水田畦畔等160aに植栽。
- 春の「猿隠高原シバザクラ祭り」は、SNS等で積極的に情報発信を行い、色鮮やかなシバザクラの花絨毯と地元の味のおもてなしで、県内外から約5,000人の来場者が訪れる。



集落を彩るシバザクラの花絨毯



みんな笑顔の猿隠高原シバザクラ祭り



シバザクラのライトアップ

成果

- 集落の女性を中心とした植栽活動は、次世代の若者、集落から転出した子、ボランティア等の参加で地域の活力を高めるとともに、近隣集落への横展開に結び付いている。
- インターンシップの受入をきっかけに、集落の魅力に惹かれた学生2名が大学卒業後、集落の新たな担い手として定住した。
- 「シバザクラの里猿隠高原比田米®」の販路拡大により、令和6年度は、米穀販売店への販売、安来市のふるさと納税の返礼品を中心に約8,000kgを販売し農家所得の向上に貢献した。

〒692-0733 安来市広瀬町東比田1041
0854-34-0336 a-sengoku@dojyokko.ne.jp

関連情報はこちら ▶



はらだ よしろう 原田 吉郎

地域の誇りを活力へ 次世代へつなぐ亀治米伝承田！

概要

- 亀治米は、安来市の偉人「広田亀治」が150年前に育種開発し、昭和初期まで西日本一帯で栽培され、台湾の蓬莱米のルーツにもなったが、他品種の普及によって姿を消した。
- 住民による地域づくりの有志グループ内の3名が7gの種もみを手入れし栽培を開始。そのうち荒島小学校の伝承田（2a）の管理を令和3年に継承し、地域の歴史的資源の保存活動を展開。
- ミニ育苗キットを見童に配布し、家族とともに苗づくりを行う仕組みを作ったり、他の生産者等との交流を進めている。



亀治米の田植え作業



登熟期を迎えた亀治米



亀治米を使用したクラフトビール「荒島」

成果

- 亀治米の作付面積は、2.5aから37.5aに拡大。
- 伝承田での活動には5年間で延べ約140人が参加し、令和6年の収穫量は、令和3年の1.2倍（403kg/10a相当）に増加。
- 令和6年から地元醸造事業者と連携し、亀治米を使用したクラフトビールを共同開発し、180リットルを販売。
- 地域のまちづくりメンバー、児童の家族等に地域連携の輪が拡大。

〒692-0003 安来市西赤江町山根567
090-7132-2374

あといちかんきょうほぜんくみあい
跡市環境保全組合
 伝えるまち、関わる若者、つながる未来

概 要

- 地域資源であり町のシンボルでもある旧跡市小学校の利活用を「HIGH-幸」プロジェクトと銘打ち、少子高齢化により管理が難しくなった地域環境を、住民・学生・外部人材が協働する場とした。
- 伝統文化の継承や耕作放棄地の再生、資源循環の仕組みづくりなど、地域の環境保全に取り組み次世代へつなぐ活動を展開。



「跡市ビジョン」の検討会



伝統文化「花田植え」



「跡市AITABI」の活動で作成した竹灯籠

〒695-0152 江津市跡市町625-1
 0855-56-2107 atoichimatidukuri@gmail.com

関連情報はこちら ▶



ゆうげんがいしゃ
有限会社トム

田舎だからできないではなく、田舎だからできること

概 要

- 平成4年に設立した法人で、社員2人、パート2名、バイト2名、計6名で構成。
- 島根県の山奥にて、ドライエディブルフラワー（食べられる押し花）を製造し、国内、海外の有名なパティスリーや高級ホテルなどに販売して、お菓子や料理などに使用されている。
- 地域の30～80代（70代が多い）の女性に押し花作成を委託し、高齢女性の雇用の場としている。
- B型事業所に押し花作成を依頼。



自社開発の押し花機により押し花に加工



ドライエディブルフラワーの四葉のクローバー



ドライエディブルフラワーを使用したゼリークリームソーダ

〒699-1511 仁多郡奥出雲町三成663-1
 0854-54-0577 yasawa@tom-ltd.com

関連情報はこちら ▶



うえだひらさたなだほぞんかい

上田平佐棚田保存会

棚田から広がる大きな和と輪

概 要

- 棚田を地域資源として活かすため、平成11年1月に上田平佐棚田保存会を立ち上げ、農地保全と都市と農村の交流による関係人口の創出、地域の営農意欲の維持を目的として棚田オーナー制度をスタートし、26年間継続中。
- ポリシーは、おもてなしをしない。スタッフとオーナーが協力し、田植えや稲刈り、収穫祭等（年4回）の体験交流行事を実施。

成 果

- 平成11年に8組9区画、9aの棚田オーナーからスタートし、令和7年度には30組33区画、33aに拡大。
- 棚田オーナーのほとんどが広島在住の方で、体験交流を通じて県外に人の輪が拡大中。
- 棚田オーナーには、収穫祭で玄米を配り地元のお米を宣伝。地元のお米を「上田平佐棚田米」として販売し農業所得が向上。



田植えの様子



稲刈りの様子



昼食交流会の様子

〒696-0601 邑智郡邑南町上田2621番地1
090-7775-1982 tanada_year@yahoo.co.jp

のうじくみあいほうじん たちごうちきずな

農事組合法人 立河内絆

深めよう絆 繋げよう未来へ

概 要

- 高齢化していく地域の将来を考えほ場整備を決断し、平成30年に法人を立ち上げ（現在の組合員数は26戸）、清流高津川上流に位置することを踏まえ、除草剤の削減を目的にアイガモ農法に取り組む。
- 田植えの10日後、10aあたり10羽のアイガモのヒナを放鳥。
- 令和2年度に有機JASと島根県のGAP（生産工程管理基準）認証制度の「美味しまね」を取得、令和4年度にはより高い水準の「美味しまねゴールド」を取得。

成 果

- アイガモ農法の面積は、地域の協力により平成30年度の3.6haから令和6年度には約2.4倍の8.8haに増加し、令和7年度には全ほ場で有機JAS取得。
- 収穫された有機JAS米は、町内の学校給食に使用されており、令和7年度からは新たに保育園にも提供されることになった。将来を担う子供たちに食べてもらうことが誇りになり、アイガモ農法が組合員の生きがいにもなっている。



到着後のアイガモのヒナの様子（5月中旬）



電柵ネットを張る様子（5月中旬）



害虫駆除と除草作業をするアイガモ

〒699-5514 鹿足郡吉賀町立河内833
080-1912-2165 m.honda6@titan.ocn.ne.jp

いっばんしゃだんほうじんあまちょうかんこうきょうかい しましょく てらこや

一般社団法人海士町観光協会 島食の寺子屋

「その日を形にする」和食料理人学校が離島で地産地消

概要

- 安価な冷凍加工品が島外から島内飲食店に流入し、結果として島らしい食事が消滅しかけていた。また、高齢化が進むとともに飲食店の担い手不足も課題となっていた。そこで、島内産品の地域内循環促進が打開策であると定め、地産地消に特化した和食の料理学校「島食の寺子屋」を立上げ、食や人材に関する地域課題解決に取り組む。
- 1年間のカリキュラムで島外から受講生を呼び寄せ、授業料や家賃を原資に運営している。

成果

- 飲食店運営事業として、島内飲食店「離島キッチン海士」にて団体観光客に島内産食材のみを使った料理を提供し、島内産品の消費につなげている。卒業後に島内飲食店に就職するルールをすることにより、担い手不足解消に寄与している。
- 海士町内の学校給食に提供することで、学校給食の地産地消率向上と生徒との交流給食で食育に寄与している。



令和7年度1年間コース受講生



「離島キッチン海士」での実践授業



島内の学校給食での小中学生との交流

〒684-0404 隠岐郡海士町大字福井1365-5
08514-2-0101 tsunemitsu@oki-ama.org

あまちょうがっこうきゅうしょくきょうどうちょうりじょう

海士町学校給食共同調理場

みんなの想いをカタチにする学校給食

概要

- 産地偽装など食の安全性が重要視された平成14年頃、海士町では地場産物も含め、担い手不足による一次生産者の減少と「食」の問題が大きくなっていった。これを機に行政・生産者・栄養士・調理員など生産から消費まで、学校給食に関わる組織全体のチームづくりを進め、「地場産物で安心安全」「ふるさとの味」「思い出に残る給食」を提供し続けることに力を入れ始めた。
- 海士町産にこだわった「みんなの想いをカタチにする給食」で食材仕入れ町内産使用率12年連続県内No.1。

成果

- 学校給食と生産者の連携が進む。
- 毎日の地場産食材と生産者の紹介等を積み重ねることによりふるさとを想う気持ちを育む。
- 島内各事業所と連携し、地場産物を活用。積極的に魚介類を活用することで自給率が向上。
- 平成25年に町内産使用率74%で県内1位となり、その後も70%から80%代をキープしている。



食材会議で島内食材の現況を共有



生産者との交流給食、感謝状授与



海士産weekで地元産を積極的に使用

〒684-0403 隠岐郡海士町海士944
08514-2-1487 kyusyoku@town.ama.shimane.jp

関連情報はこちら ▶



おき ちよくばいしょきょうどうくみあい いちば
隠岐ふるさと直売所協同組合（あんき市場）

安心・安全な隠岐産品をお届けする「あんき市場」～隠岐の島の暮らしを次世代へ繋ぐ～

概 要

- 平成22年に設立した協同組合（平成28年法人化）。隠岐諸島在住1次・2次・3次産業の個人及び団体160者で構成。
- 「あんき」という言葉は隠岐の方言で、「安心」「安全」「居心地が良い」などという意味がある。
- 離島にあって、小規模な生産者が個々で販売するには輸送費などが本土生産者と比較すると大きなハンディとなる。そこで1次・2次・3次産業生産者等が集まって販売場所を開設し島内外に販売することで地域活性化を図ることを目的に設立した。



あんき市場店舗入り口



あんき市場店内



島外での販売促進活動

成 果

- 設立時25名だった組合員数が令和6年には160者、販売額は102,261千円となり、地域活性化に貢献できている。
- 組合員の増員にも取り組み、U・Iターン新規就農者・新規漁業就業者や起業者のアンテナショップ的役割も果たしている。
- 隠岐の将来を担う生産者（組合員）や商品が多様化することで購買が活性化し「あんき市場」の魅力が高まり、国境離島である隠岐の島での生活が持続可能となる一助となっている。

〒685-0014 隠岐郡隠岐の島町西町八尾の一 48-11
 0851-22-8633 oki-ankiichiba@tea.ocn.ne.jp

関連情報はこちら ▶



岡山県

ディスカバー農山漁村 むらの宝」第12回選定) 応募団体等 一覧 岡山県)

No	選定 団体等	部門	市町村	団体名/氏名	該当する取組		
①		団体	岡山市	IPU環太平洋大学サステナブルブランドプロジェクト 扇野ゼミ)	ジビエ	地産地消	学生・若者の活躍
②		団体	岡山市	おかき戦隊瀬戸南じゃ〜 岡山県立瀬戸南高等学校)	6次産業化	企業との連携	学生・若者の活躍
③		団体	倉敷市	清心里山教室	地産地消	環境保全・農林水産業・食品産業)	教育機関との連携
④		団体	倉敷市	特定非営利活動法人こうのさと	荒廃農地対策	復興	多様な分野との連携
⑤	地方 奨励賞	団体	新見市	草間カルスト里山の会	農業	6次産業化	地産地消
⑥		団体	赤磐市	AKAIWA農業盛り上げ隊	農業	学生・若者の活躍	関係人口の創出
⑦		団体	真庭市	中津井せんだんの会 遺産保存部	伝統の継承	農村環境・景観保全	多様な分野との連携
⑧	地方 奨励賞	団体	美作市	FARM RESORT あわのわ 東栗倉農泊推進協議会)	農泊	農村文化体験	関係人口の創出
⑨		団体	美作市	美作市農林産物販路開拓会議もち麦部会	農業	輸出	官民共創
⑩	地方 奨励賞	個人	矢掛町	山部 美由紀	6次産業化	伝統の継承	食育・教育
⑪		個人	新庄村	白井崇来人、幸	農業	農泊	環境保全・景観保全
⑫		団体	西栗倉村	大茅地区活性化協議会	棚田保全	教育機関との連携	農村環境・景観保全
⑬		団体	西栗倉村	合同会社セリフ	農業	荒廃農地対策	農福連携
⑭		団体	吉備中央町	JA岡山加茂川ぶどう部会	農業	輸出	移住・定住
⑮		団体	吉備中央町	新山地区活性化推進協議会	高齢者の活躍		

応募団体等所在市町村図（岡山県）



あいぴーゆーかんたいへいようだいがく

I P U環太平洋大学

サステナブルブランドプロジェクト (扇野ゼミ)

地球課題を学びに変える「I P Uジビエ」

概要

- 令和3年に「SDGs」と「ウェルビーイング」を基盤とするサステナブルブランドプロジェクトが設立。この中で、大学周辺で捕獲された野生鳥獣を地域資源として活用する「I P Uジビエ」に取り組む。
- フィールドワークで捕獲・解体を体験するほか、ジビエ料理を開発し、学内カフェやキッチンカーにより地域イベント、オープンキャンパス等で開発したジビエ料理やレザー商品を販売。



捕獲、と殺、解体を現場で体験するフィールドワーク

成果

- 出張販売やイベント出店が、人と人が出会い。交流し、地域の絆が深まる場となり、地域課題の解決と学生の成果につながった。
- キッチンカーによる販売は、限られた時間と人員で効率的かつ正確に提供するための生産性向上トレーニングの場となった。
- テレビ・新聞・WEBで農山漁村における若者参画のモデルとして紹介された。



キッチンカーを活用したジビエの普及促進

〒709-0863 岡山市東区瀬戸町観音寺721 フィロソフィア棟 扇野研究室
090-4808-5181 m.ogino@ipu-japan.ac.jp

関連情報ははこちら ▶



せんたいせとなん

おかき戦隊瀬戸南じゃ〜 (岡山県立瀬戸南高等学校)

おかやまけんりつせとみなみこうとうがっこう

技術開発と交流で地域活性化を目指して！

概要

- 地域イベントでカラフルなツナギの「おかき戦隊瀬戸南じゃ〜」が生徒開発の「瀬戸内おかき」を販売するなど、地域特産品のPRに取り組む。
- スマート農機を活用した「多数回中耕除草技術の実用化試験」に地域と連携し取り組み、その研究成果の発表や中学生向けの実演を実施。
- おかやま農業女子のイベントへの参加、農家や製造会社での実習、見学など多様な機関との連携・交流を図る。



地域の販売会で歌を披露



おかやま農業女子との交流



中学生に中耕除草作業を実演

成果

- 同校が開発した商品をヒントに、地元の製菓会社が味噌おかきを開発し、輸出するなど地域企業の新商品開発にも貢献。
- 令和6年「醤油ざらめおかき」を開発。令和7年の創立100周年記念式で披露、販売開始。
- 「R7全国農業高校収穫祭」のチラシやポスター等に、3年生6人がキービジュアルとして掲載。

〒709-0855 岡山市東区瀬戸町沖88
086-952-0831 setomina@pref.okayama.jp

関連情報ははこちら ▶



せいしんさとやまきょうしつ

清心里山教室

竹の魅力を再発見！食べて作って遊ぼう

概要

- 毎月、地域の小学生親子を対象に、清心中学校・清心女子高等学校の竹林を活用したイベント「清心・竹ワークショップ」を学校と共同で開催。
- タケノコ掘り、竹細工教室、門松作り、草木染めなど里山環境を活かした体験を提供。ボランティアスタッフとして、地元の中・高・大学生が参加。体験では、竹から箸・皿・コップを手作りしての野外炊事を行い、使用後は竹炭の材料にするなど、資源循環の学びにつなげている。



子どもたちに大人気の竹バームクーヘン

成果

- 年々イベント参加者が増加し、令和6年度の参加者は581名。
- ノコギリで竹を切る、火を焚いて食事を作る体験など、自然での体験が農村振興の維持や環境保全に取り組む理解につながる。
- 参加した小学生親子をサポートする学生の社会貢献や里山の環境整備が進むなど、大きな成果となっている。



竹工作に取り組む参加者



完成した門松

〒701-0115 倉敷市二子1200（清心中学校・清心女子高等学校）
086-462-1661 kuroda@nd-seishin.ac.jp

関連情報ははこちら ▶

とくていひえいりかつどうほうじん
特定非営利活動法人こうのさと

みんなでひろげよう祝福のワ

概要

- 新型コロナ感染拡大で地域コミュニティが縮小する中、令和3年に妊産婦や子育て世代の孤立を防ぐために設立。
- 子どもとお母さんが畑作業を行う「みんなで畑活」を開催。
- 令和5年4月にはオルナティブスクール「竹林のスコレー」を開校。田畑、山林、耕作放棄地を含む約3haのフィールドで、体験重視の「学びの場」を提供。

成果

- 活動開始以来、これまで妊産婦さん865名（令和7年7月現在）に有機栽培野菜をプレゼント。
- 岡山県の支援事業で「倉敷穂井田竹灯籠まつり」を開催。放置竹林の間伐、間伐材から竹灯籠を製作。開催後は竹炭として農地の土壌改良資材に活用するなど循環型社会を実現。
- 平成30年西日本豪雨で耕作放棄地となった田を借り、土砂や瓦礫の撤去、水路の再整備をして復活させ、有機農業で米を栽培。



親子で畑活、夏野菜の鉢上げと植え付け



スクールに通う子どもたちと一緒に田植え



倉敷穂井田竹灯籠まつり

〒713-8112 倉敷市玉島陶2970
080-3873-5523 info@konosato.org

関連情報ははこちら ▶



地方
奨励賞くさま さとやま かい
草間カルスト里山の会

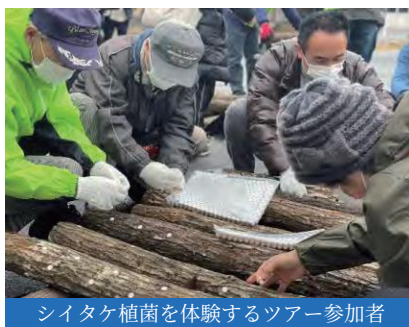
くらしやすい里、ささえ合う里、まごころ豊かな里、草間

概 要

- 令和3年に地域の課題解決を目的に、草間地区の全戸による里山の会を設立。
- 各種イベントに合わせて、地元農産物・加工品の販売を行う里山マルシェを開催。地域の特産品の桃、ぶどうを利用したコンポートを製造。百貨店での販売やふるさと納税の返礼品など、新たな販路を開拓。
- 地元農産物（大根やさつまいも）の収穫体験などの受入や公立大学との交流を通じた新商品を開発。



里山マルシェを手伝う大学生



シイタケ植菌を体験するツアー参加者



大学と開発した「そば粉クッキー」

成 果

- 里山マルシェでの地元特産品の提供により、草間地区への観光客が増加。
- 地域の食材を使った「さとやま弁当」や「けんちんそば」は、体験ツアー参加者からも高評価。
- 大学との連携による「そば粉クッキー」の商品化など、地域の活性化に寄与。

〒719-2641 新見市草間7471-1
0867-74-9001 kusa_eco2641@yahoo.co.jp

関連情報はこちら ▶

あ か い わ の う ぎ ょ う も あ たい
AKAIWA農業盛り上げ隊

赤磐を知って・買って・広めて盛り上げて！

概 要

- 新規就農の仲間が集まり、平成30年に情報交換の場として農業盛り上げ隊を立ち上げ。
- 偶数月の第1土曜日に農家の交流と農産物の宣伝を兼ねた、「あかいわマルシェ」を精力的に開催し赤磐産をPR。

成 果

- マルシェの活動を通じ、農業者をはじめ、料理店や子ども食堂など多様なつながりができ、新たな商品開発や販売のきっかけになった。
- PRにより、マルシェを訪れたバイヤーから仕入れの依頼があり、県内外に赤磐産の農作物の販売拡大のきっかけとなった。



マルシェ開催の様子



マルシェで吹奏楽イベントを開催



特産品の桃で商品開発したジャムなど

〒701-2222 赤磐市町苅田324（赤磐市市民活動支援センターどんぶらこ内）
086-956-3710 akaiwakodomo@trad.ocn.ne.jp

なかつい かい いさんほぞんぶ
中津井せんだんの会 遺産保存部

悠久の里中津井地区の遺産整備・保守・伝承・発信

概要

- 佐井田城址で開催の新春ウォーキングは、手作りののぼり旗や甲冑姿で武将や足輕に扮して歩くなど、子供から大人まで楽しめるイベントを開催。
- 登山道や周辺の木々等の環境整備の他、国指定史跡の「大谷古墳」や「定古墳群」付近の清掃作業も実施。また、令和6年度は、「中津井史跡探訪ウォーキング」を開催。



新春の佐井田城址のウォーキング



手作りののぼり旗



中津井史跡探訪のウォーキング

〒716-1421 真庭市下中津井1000
080-1917-8436 mori.ukanya205@gmail.com

関連情報はこちら ▶



地方
奨励賞

ふあーむりぞーと
FARM RESORT あわのわ (東栗倉農泊推進協議会)

岡山のとっぺんで里山の休日を自由自在に楽しむ

概要

- 地元の事業者と連携し、地域資源を活かした様々な体験メニューとグランピングができる一棟貸しの宿を組み合わせた滞在型ツアーを提供。
- 地域全体を体験フィールドとして、魚のつかみ取りや農業体験、たき火をしながら地元食材で作る本格的なBBQなど、利用者が楽しめるメニューを提供。令和6年度から、日常から離れ心身を癒すリトリート体験の開発や絶景の展望台での屋外映画会など、新たな魅力づくりに取り組む。

成果

- 懐かしさや素朴さといった田舎の雰囲気を感じながら、おしゃれさや快適さを備えた施設として若者やファミリー層を中心として宿泊数が増加。
- 民宿、カフェ、農家、川魚養殖業者等が連携し、新たなプログラムや宿泊内容を強化することにより、地域と宿泊者との更なる交流が深まった。



民家貸切でグランピング



地域全体を体験フィールドとして活用



絶景展望台でのアウトドアシネマ鑑賞会

〒707-0401 美作市後山1431-1
090-1181-7851 info@awano-wa.com

関連情報はこちら ▶



みまさかのうりんさんぶつ はんろかいたくかいぎ むぎぶかい
美作市農林産物販路開拓会議 もち麦部会
 もち麦ごはんでも人も街も豊かにする！

概要

- 美作市農業政策課は、農家の所得向上や担い手不足解消、市民の健康増進を目的に、平成30年にβ-グルカンが豊富なもち麦の生産と普及を進める「もち麦部会」を設立。
- 令和元年から、高機能もち麦品種「フクミファイバー」の作付けを開始。令和7年から、オリジナル商品「もち麦くんキング」を販売。全国物産フェアや展示商談会へ参加し、新たな販路開拓を推進。
- 令和8年度の輸出開始に向け、輸出の勉強会を開催。



フクミファイバーのもち麦くんキング

成果

- もち麦商品が市民の食卓や学校給食での利用が広がり、特産品として定着。
- 全国規模のECサイトでの販売や関東圏を中心に展開する高齢者施設での利用がスタート。
- 付加価値を高めたもち麦商品の販売により、農家の所得向上を実現。



全国物産フェアの様子

〒707-8501 美作市美来1番地
 0868-72-6694 nogyo@city.mimasaka.lg.jp

関連情報はこちら ▶

地方
奨励賞

やまべ みゆき
山部 美由紀

干柿の可能性は無限大！～地域の伝統の味を未来へ～

概要

- 土井農園の代表として、矢掛町特産の「最上干柿」に取り組む。
- 若年層をターゲットに、干柿の規格外品を活用したオリジナル商品を開発。商談会への参加、研修会での事例発表等を実施。
- 地元小学生へ干柿作り体験授業を行い、干柿の歴史や農業の面白さ等を伝える。
- おかやま農業女子の会長を務め（令和5～6年）、10周年記念イベントの開催など、活動をけん引。



地域全体に広がった父考案の干柿製法



ヒット商品：ほしがきちょこ

成果

- 各種イベントや商談会等に参加し販路を拡大。事業継承時から売上は約5倍。
- 開発した商品が各種の賞を受賞したことにより、干柿の可能性が広がり、購入者も増加。
- 農業女子の取組により、様々な事業者間のつながりが広がる。
- 季節の風物詩として、干柿場の様子が映像やメディアに取り上げられ、地域への訪問者が増加。



地元小学生と干柿作り体験授業

〒714-1227 小田郡矢掛町小田2992
 0866-83-0626 info@doi-nouen.com

関連情報はこちら ▶



うすい たかきーと みゆき
臼井 崇来人、幸

日本で最も美しい村、サルナシ村へようこそ！

概要

- 平成25年にサルナシ畑を譲り受け、栽培を開始。高齢化により管理できない畑や休耕地を活用し、栽培面積を拡大。
- 平成29年に農園カフェをオープンし、サルナシスイーツの開発・提供、イベント出店に取り組む。
- その後、サルナシの減少など厳しい状況の中、平成13年設立の「新庄村サルナシ栽培研究会」の再生のため、令和6年に臼井夫妻が役員に就任し、生産拡大に取り組む。



サルナシ収穫をみんなと

成果

- サルナシ栽培の輪が広がり、研究会の会員は29戸に増加（令和5年19戸）。
- サルナシを使ったサルナシ茶、カステラ、パイ、キッシュなどの新商品を開発し、令和6年度の新作は70商品。
- 令和7年に新庄村で開催された「全国さるなし・こくわサミット」に合わせ、地元の道の駅で全国のサルナシ商品を販売。



サルナシをつかった新商品

〒717-0201 真庭郡新庄村3429-3
090-7906-1157 bosquericofamily@gmail.com

関連情報はこちら ▶



おおがやちくかつせいかきょうぎかい
大茅地区活性化協議会
地域に誇りを持ちいきいきと暮らそう

概要

- 平成2年に「地域に誇りを持ちいきいきと暮らす」ことを目標に協議会を設立。
- 源流の自然を生かし、再び関係人口を生み出す「花と文化のふるさとづくり」として、棚田の法面や畦道に芝桜を植え付けた公園を整備。
- 地域資源を活用し、夏休み親子川イベント、押し花教室、女性部による昼食会、通信制高校の受け入れ等を実施。また、大学生の協力により古文書の漫画化、動画化等を実施。



毎年多くの人が訪れる芝桜公園



令和7年春、休息所前の芝桜誕生



「郷土食」をお年寄りより引き継ぐ

〒707-0501 英田郡西粟倉村大茅867
090-7371-9809 kozai.y.m@gmail.com

関連情報はこちら ▶



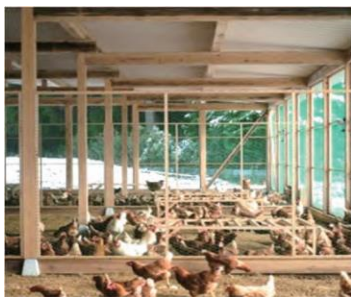
ごうどうかいしゃ

合同会社 セリフ

地域の未利用資源を活用する資源循環型平飼い養鶏

概要

- 令和4年に合同会社を立ち上げ、令和6年より耕作放棄地を再生し養鶏業(鶏舎1棟)を開始。
- 地域の未利用資源となっていた規格外の米や麦、米ぬかを中心に、豆腐工場で発生するオカラなどの廃棄物を餌に活用する資源循環型の有精卵を生産販売。
- 発生する鶏糞を堆肥化し、提携農家が田畑に活用することで有機農業に取り組む。



西粟倉産の間伐材で建てた木造鶏舎



直販店舗での接客の様子



黄身は鮮やかなレモンイエロー

成果

- 令和7年に鶏舎を増築し、飼養羽数は1200羽（令和6年から約2倍）。
- スーパーマーケットや道の駅、有機食料品店、レストランなど全国的な取引となりそのうち、ミシュランガイド掲載の4店舗もある。
- 耕作放棄地を活用した事業モデルの横展開として、他の地区への参入など準備中。

〒707-0506 英田郡西粟倉村知社258番地1
080-6927-1038 hada@serif.ltd

関連情報はHPから ▶



じえい えい おかやまかもがわ

ぶかい

JA岡山加茂川ぶどう部会

大規模な園地整備と手厚い新規就農者支援により早期経営安定に貢献

概要

- 平成17年に「JA岡山加茂川ぶどう部会」を設立し、組織的な出荷に取り組む方針の下、ハイブリッドメガ生産団地を整備。
- 県、町、JA、農業公社が連携し、新規就農者の研修から就農までサポートする体制を整備。
- ぶどうの成園化までの未収入期間において、新規就農者に対し農業公社が保有する成園を5年間貸し出しするなど支援。

成果

- 部会員44名のうち、研修制度を活用した新規就農者が10名。
- 岡山大学との「遅出し出荷技術の研究成果」により、従来の加温栽培とあわせた貯蔵を行うことで7月から12月までの長期間出荷が可能となり、高品質化、安定出荷による所得向上を実現。
- JA岡山との協力の下、岡山市場以外の東京、横浜、大阪等の大市場へ販路を拡大。



ハイブリッドメガ生産団地



ぶどう専用冷蔵庫



新たなデータ管理システムを備えた選果場

〒709-2331 加賀郡吉備中央町下加茂22-1
0867-34-1012 takebe@ja-okayama.or.jp

関連情報こちら ▶



にいやまちくかっせいかすいしんきょうぎかい

新山地区活性化推進協議会

「ほほえみの里」再生！！

概 要

- 平成3年に新山地区の振興と発展を目的に、活力ある住みやすい地域社会の確立と福祉増進を目指し、町の新山地区全員を対象に協議会を立ち上げた（構成員は220名）。
- 活性化活動として、「サロン山の学校」（毎週水曜日）や軽スポーツフェアの開催、各所イベントへの参加。
- 令和元年6月から小さな拠点事業として、「新山ほほえみ笑店」の運営を中心に展開。

成 果

- 公共交通がない中で、高齢化を理由に免許証を返納した人などを対象に、サロンへの参加、診療所、郵便局等への移動に限り無償送迎サービスを行い、地区民から高評価を得ている。
- 食料品、雑貨を中心に地域から小売店がなくなったため開店した「新山ほほえみ笑店」は、高齢者の買物支援に大変役立っている。



利用者の体操風景



自分の好きなものを買う利用者



無償送迎車

〒709-2673 加賀郡吉備中央町尾原508
0867-35-9933 hohoemi@kibi.ne.jp

広島県

「ディスカバー農山漁村 むらの宝」第12回選定）応募団体 一覧（広島県）

No	選定 団体	部門	市町村	団体名	該当する取組		
①	地方 奨励賞	団体	広島市	株式会社中矢建設 白木ジビエセンター ももんしゃ	鳥獣被害防止	地域の活性化	
②		団体	竹原市	吉名じゃがいもプロジェクト	農業	企業との連携	食育・教育
③	地方 奨励賞	団体	福山市	GooHats	学生・若者の活躍		
④		団体	三次市	石原ひまわりまつり実行委員会	6次産業化	教育機関との連携	関係人口の創出
⑤		団体	庄原市	広島県立庄原実業高等学校	農業	輸出	企業との連携

応募団体所在市町区（広島県）



地方
奨励賞

かぶしきが いしゃなかやけんせつ
しらき
株式会社中矢建設
白木ジビエセンター ももんしや
「いのちのわ」

概要

- 広島市から有害鳥獣駆除補助業務を請け負い、捕獲した鳥獣を焼却処分していたが、「命を粗末にしない、地産地消活動を行ない地域の雇用や活性化にも繋げたい」と思い、白木ジビエセンターももんしやをオープン。
- 有害鳥獣の駆除、有害鳥獣の駆除個体数管理、有害鳥獣のジビエ利用、地元野菜などの販売、地元お好み4焼き店とコラボ、地元パン屋とコラボし地域を元気にし、地域の方を雇用し、地域活性化を図っている。



中矢代表と地元ももんしや従業員

成果

- 広島市有害鳥獣駆除の補助業務を請け負い、各駆除班との連携をスムーズにし、被害農家の負担軽減や捕獲数増加のため、罠用餌の補充や稼働状況を確認することで捕獲数が増加した。
- 「ももんしや」は、シカ肉を使った総菜やシカ・イノシシの精肉を販売する専門店。購入した総菜は、店内のイートインスペースで食べることも可能。ペットフードも生産・販売。
- ジビエ肉料理の研究をし、より多くのジビエ利用を目指し、売上も伸びつつあり、地域の方の雇用を増やした。



ももんしやメニューとイノシシお好み焼き

〒739-1303 広島市安佐北区白木町志路2663-2
082-828-0460 h7kazu23@gmail.com

関連情報はこちら ▶



よしな
吉名じゃがいもプロジェクト
吉名じゃがいもの認知度アップを目指しています

概要

- SNS等を利用し、じゃがいも植え付けから収穫までを体験する参加者を募集。
- 収穫したじゃがいもは、市内及び近隣市町の活動応援協賛店で料理に提供したり、規格外じゃがいもを使った加工品（かりんとうやドーナツ）を地域の飲食店と共同開発。



地元企業と共同開発した商品

成果

- 地道にPRを続けることで、新たに多くの人に参加してもらうようになった。その中から農業に興味がある方へは、近隣じゃがいも農家を紹介し新規就農になる取り組みも行うようになった。
- 竹原市ケーブルテレビで活動の体験などを放送。行政やJA、地元企業の協力も得られるようになった。吉名学園の生徒と一緒に育てたじゃがいもが、生徒たちが考案した「レモじゃが炒め」のレシピとともに、ふるさと納税返礼品に採用された。



ちびっこ芋ほりの模様



収穫したじゃがいも

〒725-0013 竹原市吉名町2827-1
zhisuiyoutian@gmail.com

関連情報はこちら ▶



地方
奨励賞

ぐーはっつ
GooHats
1人1推し農家

概 要

- 福山市立大学公式「農業盛り上げサークル」。学生目線での農業体験、取材を通じて、農家の魅力を発信。
- 福山市の「（一社）わかいふぁーむ」と連携。とうもろこしの販売収益の一部をインドネシアの高校生への奨学金として寄付する「とうもろこし奨学金プロジェクト」を実施。
- 福山市のいちご農家取材。そのイチゴを使ったスムージーを開発し、福山ばら祭りで販売。



とうもろこし奨学金プロジェクトの様子

成 果

- とうもろこしの販売を通じて、消費者が生産者につながる機会を創出。また、福山の農業と国際協力を結びつける活動により、地域活性化と国際支援の架け橋となる。
- スムージーと一緒にレシピチラシを配布することで、家庭でも気軽に作れるようになり、地産地消の推進に貢献。また、販売や情報発信を通じて多様な関係者と連携し、地域資源の活用と農業活性化に寄与。



イチゴスムージーの販売

〒721-0964 福山市港町二丁目19番1号

関連情報・連絡先はこちら ▶



いしはら じっこういいんかい
石原ひまわりまつり実行委員会
皆で“ワッショイ”ひまわりを結の宝に32年

概 要

- 農地と我が家の庭先に咲いた、ひまわり観賞巡り・人と語りづくり等、住民の主体性を発揮した集落にぎわいづくり。
- 集落内にIターン者が14人おり、斬新さと創造的な言動及び行動によりまつりを継続。
- 乳幼児から小学生までの児童がひまわりの種まき、まつりのバザースタッフを担い、熟年者が、篠竹鉄砲づくり・石焼味噌汁づくり・切り絵など趣向を凝らした昭和の遊び体験指導を行なう。



一面のひまわり畑



来訪者と笑顔の交流

成 果

- 来訪者が令和7年度には1000人を超える見込み。
- 君田中学校生徒が地域課題学のために、ひまわりまつり会場でアンケート調査を行ない、もち麦・霧里（きりり）ポーク・アスパラのキャラクターを創作し、梱包袋に貼りつけ出荷しブランドイメージを向上。
- 実行委員会32年の歴史と実績があるが、責任を明確にした持続性の高い組織とすることを課題として、法人化（一般社団等）によるまつり展開ができるよう検討中。



・もち麦 ・霧里（きりり）ポーク ・アスパラ

創作した特産品のキャラクター

〒728-0404 三次市君田町石原151
090-9061-5165 kogawa.mtr@p1.pionet.ne.jp

関連情報ははこちら ▶





ひろしまけんりつしょうばらじつぎょうこうとうがっこう

広島県立庄原実業高等学校

輸出リスクを減らせ！「GAP認証ナシ酢」の製造

概要

- GAP認証を得た梨を香港へ輸出しているなか、選果の際、輸出規格に満たない梨が多い事が課題となっており、解決に向けた研究を実施。
- 梨の果皮に果肉の約12倍の値であるポリフェノールが含まれている事が判明し、果皮の機能性成分を生かした加工品の開発を目指して、食酢製造を130年以上続ける地元の製造会社と連携し果実酢の製造を行い、飲むお酢「庄実梨Vinegar」を完成させた。



香港輸出に向けた出荷・調整



完成を祝しての記念撮影



「庄実梨Vinegar」

成果

- 製造した果実酢のオンライン販売を開始。さらに、果実酢1本あたりの利益を算出し、日本梨の国内向けと輸出向け販売と併用とした場合の利益等を試算するなど、輸出・国内販売に向かない梨の有効活用について研究を実施。本取組の成果として、傷があるものや糖度が基準に満たず、輸出できなかった梨を酢に加工して販売するという新しい取組を提案することができた。

〒727-0013 庄原市西本町一丁目24番34号
0824-72-2151 shobara-h@hiroshima-c.ed.jp

関連情報はこちら ▶

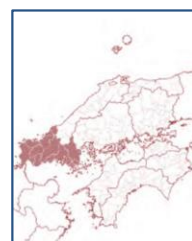
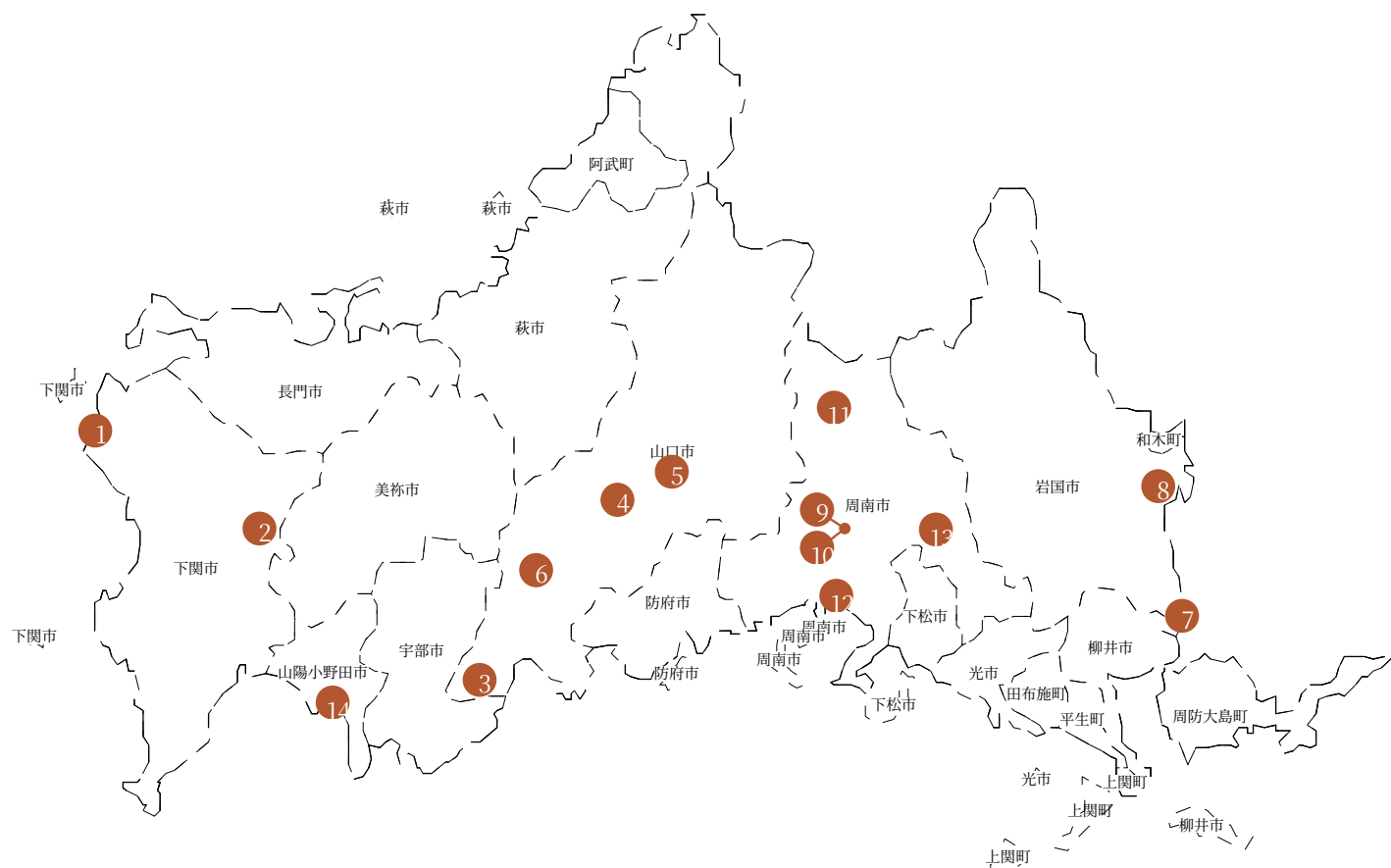


山口県

「ディスカバー農山漁村 むら」の宝」第12回選定）応募団体等 一覧（山口県）

No	選定 団体	部門	市町村	団体名/氏名	該当する取組		
①		団体	下関市	株式会社道の駅豊北	農業	地産地消	高齢者の活躍
②		団体	下関市	ホテル舟実行委員会	農村文化体験	農村環境・景観保全	
③		団体	山口市	株式会社あぐりてらす阿知須	農業	伝統の継承	教育機関との連携
④		団体	山口市	株式会社ときつ養蜂園	農村文化体験	食育・教育	農村環境・景観保全
⑤		個人	山口市	白木 美和	6次産業化	荒廃農地対策	食育・教育
⑥	地方 奨励賞	団体	山口市	八方原の環境を守る会	農業	農村環境・景観保全	その他
⑦		団体	岩国市	株式会社デナリファーム	農業	教育機関との連携	農福連携
⑧		団体	岩国市	企業組合 尾津っこ	6次産業化	地産地消	女性の活躍
⑨	地方 奨励賞	団体	周南市	大道理地区百笑倶楽部	棚田保全	農村環境・景観保全	関係人口の創出
⑩		団体	周南市	大道理をよくする会	地産地消	関係人口の創出	
⑪	地方 奨励賞	団体	周南市	「鹿野の風」プロジェクト	移住・定住	農村環境・景観保全	関係人口の創出
⑫	地方 奨励賞	団体	周南市	HOVCHA	荒廃農地対策	農福連携	関係人口の創出
⑬		団体	周南市	棚田清流の会	農村文化体験	棚田保全	関係人口の創出
⑭		個人	山陽小野田市	伊藤 徹一郎 AgleafZERO株式会社 代表取締役)	農業	6次産業化	地産地消

応募団体等所在市町図（山口県）



かぶしきがいしゃみち えきほうほく
株式会社道の駅豊北

みんなの笑顔が好きだから 〜いつもきれいに！〜いつもっさわやかに！

概要

- 平成23年5月、地元商工会などが、地域の農林水産物の小売や飲食、公共施設の維持管理業務を行うことを目的に設立。
- 平成24年3月、過疎化が進む下関市豊北町に市が整備した道の駅「北浦街道 豊北」の開業に伴い、指定管理者として施設の管理運営業務を担うとともに、地元産の農林水産物を原材料に加工品の開発・販売を行い、地域活性化と交流人口拡大を推進。
- SNSやマスコットキャラクター「ほっくん」を活用した情報発信・PR活動を積極的に展開。



オリジナル芋焼酎 角島「夢さき」



「ほうほく おこげせんべい」塩味・醤油味



オリジナルマスコット「ほっくん」

〒759-6121 下関市豊北町大字神田上314番地1
083-786-0111 info@michinoeki-houhoku.jp

関連情報はこちら ▶



ふねじっこういいんかい
ホタル舟実行委員会
日本初！船上から蛍が観賞出来る『ホタル舟』

概要

- 昭和32年、木屋川が天然記念物のゲンジボタル発生地として指定を受けたことを契機に、町でホタルの飼育を開始し増殖に成功。ホタルに関連した施設整備や行事開催の取組が進み、平成3年からは川下りしながらホタルを楽しむ「ホタル舟」を運航。今年で35回目を数える。また、同時期に「豊田のホタル祭り」も開催され、町に活気をもたしている。
- ホタルの住める環境維持を念頭に、自然と共存しながら地域活性化策作りに積極的に取り組む。



ホタル舟川下り

成果

- 「ホタル舟」は、「自然環境保全しながら原価0円の集客事業」として成功。6月の17日間、木屋川を下りホタル観賞を楽しむ人気イベントに成長し、予約は初日から殺到。期間中の「ホタル祭り」には約3万人が訪れ、県外や海外からの来訪も増加。豊田町は「日本一ホタルを愛する町」として知られるようになった。
- 町内の小学5・6年生は15年前からホタル舟清掃に参加し、自然への愛着を育み、将来の行事継承を目指している。



小学生のホタル舟清掃

〒750-0441 下関市豊田町大字中村876-4 道の駅蛍街道西ノ市 内
083-766-0031 info@toyotacho.com



かぶしきがいしゃ

あじす

株式会社あぐりてらす阿知須

阿知須特産品の「寒漬」を風景、文化とともに次世代へつなぐ

概要

- 山口市旧阿知須町を拠点とする農業法人。平成24年に創業者が北海道からUターン就農し夫婦で営農を開始、令和3年に法人化。現在は役員2名、正社員10名、パート5名で運営。
- 明治以前から大根を原料にした特産漬物「寒漬」が作られてきたが、15年前に地元大手漬物メーカーが廃業し供給が急減。高齢化やHACCP対応などの課題で個人農家も撤退が進む。
- 「地域の宝」を守るため、寒漬の生産風景と食文化を次世代へ継承すべく、寒漬づくりに取り組む。



樽に大根を吊るして3か月かけて天日干し



小学校で寒漬造りの出前授業



令和3年から販売している寒漬

成果

- 令和3年10月より寒漬の販売を開始し、道の駅やスーパー、百貨店などへ販路を拡大。令和5年には2万5千パックを販売。
- 地域食文化の継承に力を入れ、学校給食への提供を再開し、令和4年からは小学校で出前授業を開始。大根の種まきから加工まで体験し、寒漬の歴史も伝えている。令和7年はエリア内全小学生対象に拡大予定。
- 干し大根が並ぶ製造風景は毎年テレビや新聞で紹介され、全国ネットでも取り上げられるなど、阿知須の観光PRにも貢献。

〒754-1277 山口市阿知須1517-1
0836-65-2615 info@agriterrace-azisu.jp

関連情報はこちら ▶



かぶしきがいしゃ

ようほうえん

株式会社ときつ養蜂園

ミツバチが導く、農薬を使わない食といのちの未来

概要

- 平成27年創業、令和3年法人化。化学薬剤や農薬、除草剤を一切使わないケミカルフリーな環境を徹底し、残留農薬不検出の高品質なはちみつを一貫生産。農薬被害や熊被害、受粉不足といった地域課題に向き合い、古民家と園地を結ぶ循環型の場づくりを開始。
- 会員制とファンマーケットで需給を安定させ、AIによる事務効率化を推進。現場が養蜂や農作業、生命との対話に専念できる体制を構築。外国人インバウンドを積極的に受け入れ、地域連携を拡大。ミツバチ受粉が支える食料安全保障の公益性を、山口から世界へ発信。



県内外からミツバチ体験参加



地域の小学校の出前授業



ビーとぴあビレッジの構想図

成果

- 古民家を核に、ミツバチやヤギ、自然と人が響き合う理想の場を造成。「ビーとぴあビレッジ」でのCSA（地域支援型農業）による会員制を導入し、ファンとの絆を深めることで通年収益と安定した需給バランスを確立。
- 荒れた山を切り拓き蜜源を植え、ミツバチが喜ぶレンゲを肥料とした無農薬米の栽培を拡大。ミツバチ主体の環境づくりを通じて里山を再生し、新たな日本の農村文化を構築。安全性とはちみつのブランド価値を両立させながら、出前授業や見学体験を通じて次世代への地域教育を推進。

〒753-0303 山口市仁保下郷561-1
083-929-1688 info@beeslife-farm.com

関連情報はこちら ▶



しらき みわ
白木 美和

気候変動皆で生き抜くモリンガプロジェクト

概要

- 本プロジェクトに賛同する市内の小学校・学童・幼稚園を中心に、食育とSDGsをテーマに高温・少雨に強く、CO₂吸収能力が高いモリンガと一緒に栽培。特に小学校では地域課題にも目をむけて「小学生の私たちが今できること」を実践。
- 地元製茶組合と連携し、モリンガほうじ茶を商品化し販売開始。モリンガマコモ茶、モリンガ塩などラインナップを増やす。
- 超高齢化と人口減少が進む山口県瀬戸内海に浮かぶ祝島の今では米作りがわずかに軒となった棚田で、島民の若い世代の協力を得て、栽培や活用の取り組みを始める。

成果

- 製茶組合の働きかけで農業者によるモリンガ栽培が広がり、農薬不要の安全な野菜としても評価され、県内の道の駅などで販売されるまでに成長。
- プロジェクト映像をケーブルテレビやYouTubeで発信し、ワークショップを開催。モリンガパウダーを使った体験を通じ、多くの参加者にモリンガの親しみやすさを広める。



小学生が育て、収穫を迎えたモリンガの木



モリンガを育てながら地域の未来を考える



モリンガの商品化、生葉は野菜として販売

〒753-0301 山口市仁保上郷369
090-1013-6293 ma0ma1ya2@gmail.com

地方
奨励賞やかたばら かんきょう まも かい
八方原の環境を守る会

広報誌「やかたばら環境通信」で広がる共同の輪

概要

- 地域の農地、農業用水等の資源や環境を保全することを目的として組織を設立し、多面的機能支払の活動を開始した。
- 農業だけでなく、地域住民の協力が重要であるという認識から、組織の活動について知ってもらうための広報誌「やかたばら環境通信」を発行。

成果

- 平成19年の活動開始時から発信する広報誌「やかたばら環境通信」は、農業、防災、出来事など地域の問題を発信し、農家、非農家を問わず、自治会内全戸に配布を行ってきた。その結果、共同作業、地域の防災、保全活動に必要性を感じた方々が参加するようになり地域が一体となって活動を行っている。
- 近年では食農教育にも力を入れ、地元の小学校を対象に農地保全活動や農業を学べる機会を創出し、将来の後継者を育てている。



地域住民と協力して水路清掃



地元小学生の田植え作業の見学受入

〒754-0001 山口市小郡上郷4068
083-933-3423 kimura.takuya@pref.yamaguchi.lg.jp

関連情報はこちら ▶



かぶしきがいしゃ

株式会社デナリファーム

耕作面積拡大に農福連携でシナジーを

概要

- 令和元年に学生時代からの友人である元海上自衛官二人が設立。
- 「農業従事者の減少や耕作放棄地の増加問題」と「障害者の就労先の問題」の2つの課題を解決するため離農する農家から農地を借り受け規模を拡大。
- 地域に安定して働ける雇用場所を作ること、継続可能な農業経営をすることを目的に独自の雇用体系で地域の雇用に貢献。



小学生の課外授業の受入れの様子

成果

- 自由に働ける枠組みを作るためにシフトなしの自由出勤制度を導入し、働きやすい職場環境を提供する。
- 若い世代に農業へのアピールが必要と考え、農業を身近に感じてもらう取組として、学校との農業体験や職業講話を実施。また、イチゴのシーズンの毎月15日には地元の小学校に差し入れを行っている。



就労施設へ作業委託の様子

〒740-1432 岩国市由宇町神東1332番地2
0827-93-4037 denarifarm2018@gmail.com

関連情報はこちら ▶



きぎょうくみあい お づ

企業組合尾津っこ

地域を元気に！

概要

- JA岩国（現JA山口県岩国統括本部）女性部が閉業した活動の継続を目指し、平成28年に尾津っこグループを結成。
- 岩国地域の特産物である「れんこん」を余すことなく活用した、加工品づくりや地域で取れた果実を使ったジャム作り等を通じ、地産地消の推進や伝統野菜・伝統料理の継承、生産者の所得向上に取り組んでいる。
- 近年では、地域の福祉施設との農福連携の取組や小学校での食農教育にも力を入れている。



天日干しれんこん

成果

- 青果として扱われなかった小ぶりのもの、折れてしまったものなどの規格外品を利用して加工品を製造している。また、無農薬栽培したキウイやいちじくを使ったジャムを商品化し、地産地消や生産者の所得向上、環境負荷低減、若い人たちへの伝統料理の継承にも貢献している。
- 近年では、近隣小学校での調理実習に参加し、農業や地産地消の大切さを伝える食農教育にも力を入れている。



自社栽培のいちじくを加工したジャム

〒740-0032 岩国市尾津町3丁目5-50
0827-31-0295 ishitobi30@outlook.jp

地方
奨励賞

おおどおりちくひゃくしょうくらぶ

大道理地区百笑倶楽部

行ってみたい！住んでよかった芝桜の里

概 要

- 圃場整備が完了し、圃場数は減少したものの、高齢化が進んだ地域で急こう配で広い法面をどう管理するかということが課題として浮上。
- 草刈り作業の省力化を目的に、圃場法面に防草シートを張ることにしたが、労働力の問題や、真っ黒な防草シートは景観を損ねるために検討した結果、防草シートに「芝桜」を植栽することを思いついた。



「もちまき」も開催し、大賑わい

成 果

- 植栽をするにあたり、地域内外からのボランティアの募集したことや、絵文字等のデザインを地元のデザイン専門学校に依頼するなどにより、地域交流が生まれた。
- 毎年「芝桜まつり」を開催したことで、都市住民を呼び込むことに成功。「地域活性化」が推進され、更にまつりでは農産物や農産物加工品販売を行い、地域住民の所得拡大に貢献した。



ボランティアと芝桜を植栽

〒754-0242 周南市大道理1127
0834-88-1519 y-kanehira443@hotmail.co.jp

おおどおり かい

大道理をよくする会

元気！大道理ふるさとまつり

概 要

- 毎年春、夏、秋に「大道理をよくする会」が地域住民を対象に農業の知識の習得と技術向上を図る目的で野菜作りと稲作についての講習会を実施。
- 講習会では野菜の苗を地域住民に配布し、育てた野菜等は「ふるさとまつり」の品評会に出品され、賞を決定したり、出品された野菜等をセリ市を開催することで地域住民と参加者のコミュニケーションの場となっている。
- 「ふるさとまつり」を通して農業に触れてもらい農業の楽しさを知ってもらう取組を行っている。



出品された野菜等の審査、入賞札をつける様子

成 果

- 「ふるさとまつり」を通して地域住民が育てた野菜等を披露する場を提供することで住民同士の交流、地域の活性化の促進を行っている。
- 地元の中学生にイベントを周知するためのポスターデザインの依頼や、地元の徳山工業高等専門学校と共同で設置したピザ窯を使って地域の野菜をトッピングしたピザの販売等を行ったりと、地域全体で参加型の楽しめるイベントを通して地域の活性化を図っている。



出品された野菜のセリの様子

〒745-0242 周南市大道理1332
0834-88-1830 mukunosato@m2.ccsnet.ne.jp

地方
奨励賞かの かせ
「鹿野の風」プロジェクト

木漏れ日計画が里山に新たな価値と奇跡を生む

概 要

- ピーク時1万人でにぎわった町も今では2,500人を割り、美しい自慢の里山が年々壊れていく姿に、このままで本当にいいのかと危機感を覚えたことで、平成23年に新しい風を吹込む「鹿野の風」プロジェクトを結成。
- 山間部の弱みを強みに変える、里山まるごと「木漏れ日計画」をコンセプトに、地域資源の価値を高め料と町中に1本の雑木を植えたのが活動の始まりである。



オープンガーデン初会議後の記念撮影

成 果

- 「木製ベンチ」を51脚設置し来訪者の憩いの場を提供。また、10年目の平成27年には、地域の老人が残した希少植物約350種を保全する「生きた図鑑の森」保護活動や、令和2年には「里山オープンガーデン」を開催し直近では15,000人を集客。
- 令和5年には新しいコミュニティを目指し、庭造りやDIYをやりたい人が自由に参加できる「参加型わくわくガーデン」を開催し、大学や地元中学生との連携が始まった。



オープンガーデンの一コマ

〒745-0301 周南市大潮659-1
0834-68-4079 maruta@m2.ccsnet.ne.jp

関連情報はこちら ▶

地方
奨励賞ほうびちゃ
HOV I CHA

見捨てられた土地が、癒しの源に変わる。草をもう一度、宝に

概 要

- 山口県周南市の限界集落・苔谷で、耕作放棄地を活用し、よもぎを無農薬で栽培。
- よもぎを“飲む香り”として再価値化し、6次産業化による発酵和紅茶、乾燥葉及びオイル製造とブランド化を推進。
- 障害福祉サービス事業所 周南のぞみ会「望みの家」や高齢農家に葉の摘み取り作業などの農福連携により就労支援。

成 果

- 農地再生の取り組みは、県内3か所（周南市、山陽小野田市、周防大島町）に拡大。
- SNSやECサイトを活用し、都市部とのつながりを強化。健康志向の消費者によるノンカフェイン・無添加商品の支持を背景に、販路拡大を通じて地域への収益還元が進み、関係人口の増加や農作業の機会を創出。



農福連携・イベントで関係人口の増加



丹精込めて栽培しています



発酵和紅茶製造の様子

〒746-0012 山口県周南市政所2-1-21
090-8991-9518 yomogi.hovicha@gmail.com

関連情報はこちら ▶



たなだせいりゅう かい
棚田清流の会
くらしがいをみつけれられる郷づくり

概要

- 平成12年に行った集落点検により、予想以上に高齢者単独世帯や荒廃農地が増加している編実を改めて確認し、将来への危機感が高まったことから、将来の地域ビジョン「やすらぎの里づくり憲章」を策定したのが始まりである。
- ビジョンの実現には自治会で解決できない共通の課題に取り組む組織が重要と考え、全住民を会員とする「棚田清流の会」を発足。棚田を後世まで守っていくための関係人口創出活動を行っている。



農業体験交流会：内容説明

成果

- 第1回開催から20年を経過した農業体験交流会では、小学生のいる30家族（100名程度）向けに田植え、野菜苗植え、稲刈り、収穫祭を行っている。休耕田の有効活用を図っている。
- 棚田オーナー制度、棚田サポーターズ倶楽部、地域イベントの主催、出店する活動を通して地域を知ってもらい、次にその魅力を感じてもらう事で、地域の活動人口増加、移住促進を図ることを目標としている。



農業体験交流会：田植え

〒745-0511 周南市中須北260-7
090-5698-6521 gats.ishida@icloud.com

関連情報はこちら ▶



いとう てついちろう あぐりーふ ぜろ かぶしがいいしゃ
伊藤 徹一郎 (AgleafZERO株式会社)

農家発、利益対減価比率43.6%改善！新モデル

概要

- 昭和50年より露地野菜栽培を開始し、山口県菓子工業組合の契約農家として信頼を構築。平成22年より施設栽培を導入、県知事認定「エコファーマー」を取得、JA出荷を増やし売上向上。
- コロナ禍で存亡の危機に立たされるが、「なまけものCUBE®」を開発し、冷凍野菜製造工場を導入し自社ブランドを構築。
- 賞味期限を1日から1年に延長し、フードロス削減に取り組む。また、工場に出た皮を肥料に再利用し、循環型農業を実践。
- 創業者の高祖父が開発した酒米「穀良都」を復活、先祖の想いを受け継ぎ日本酒ブランド化に挑戦。

成果

- 「なまけものCUBE®」の開発により、フードロスの大幅削減効果として、平均利益率 43.6%改善、農業収益性向上。
- 地産地消の一環として、サッカー場に冷凍自販機設置。試合や熱中症対策や氷の代用として活用され、話題性を獲得。
- BtoCでは、SNS・EC活用で販路を全国へ拡大。共感型マーケティングで顧客獲得。
- BtoBでは、有名飲食店との取引が増加。エスコフィエ協会アンバサダーシェフから高評価を獲得し、自社のブランド価値が向上。



自社ブランド「なまけもの cube®」・E販売



「なまけもの cube®」の自動販売機



農家を作る酒「徹（TE-TSU）」

〒756-0057 山陽小野田市大字西高泊3613
0836-39-8423 agleafplus@zero-yasai.com

関連情報はこちら ▶

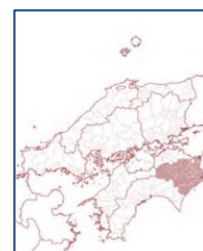
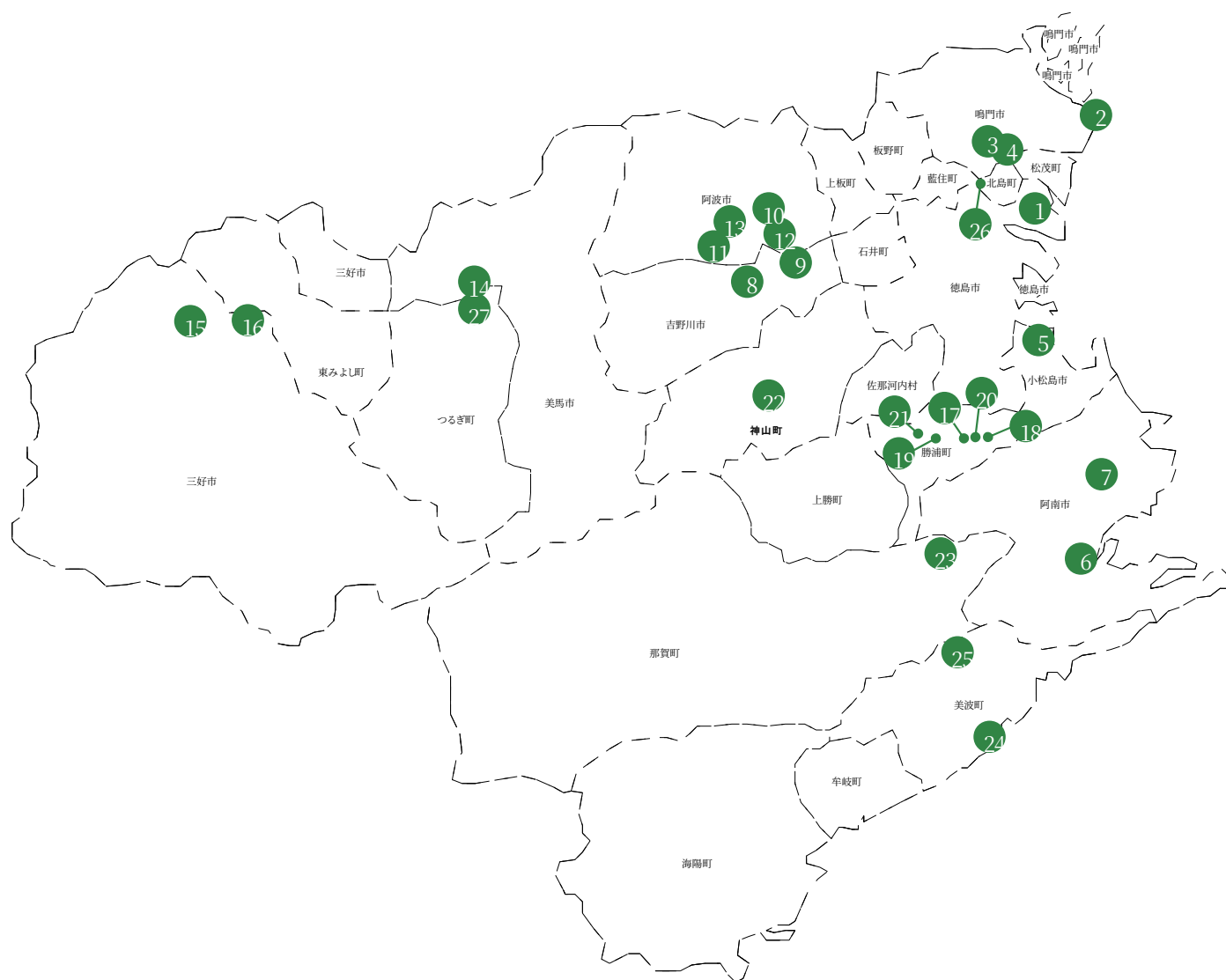


徳島県

ディスカバー農山漁村 むらの宝」第12回選定) 応募団体等 一覧 徳島県)

No	選定 団体等	部門	市町村	団体名/氏名	該当する取組		
①		団体	徳島市	株式会社農家ソム リエーズ	6次産業化	輸出	食育 教育
②	地方 奨励賞	団体	鳴門市	株式会社大塚製薬工場 総務部 社員食堂	地産地消	食育 教育	
③		団体	鳴門市	株式会社本家松浦酒造場	農業	輸出	地産地消
④	地方 奨励賞	団体	鳴門市	JA徳島県徳島北女性部	6次産業化	地産地消	女性の活躍
⑤		団体	小松島市	徳島県立小松島西高等学校 TOKUSHIMA雪花 菜工房	企業との連携	環境保全 農林水 産業・食品産業)	その他
⑥		個人	阿南市	黒川 喜美恵	農業	教育機関との連携	食育 教育
⑦	地方 奨励賞	団体	阿南市	緑のリサイクルソーシャルエコプロジェクトチーム 徳島 県立阿南光高等学校) & 刈草バイオマス工房 みらい	環境保全・景観保全	その他	
⑧		団体	吉野川市	合同会社 川島えがお倶楽部	農業	6次産業化	食育 教育
⑨	地方 奨励賞	団体	吉野川市	徳島県立吉野川高等学校	農業	林業	環境保全 農林水 産業・食品産業)
⑩		団体	阿波市	サロン美緑	農業	伝統の継承	高齢者の活躍
⑪		個人	阿波市	寺井 稔	農業	食育 教育	その他
⑫		団体	阿波市	特定非営利活動法人山の薬剤師たち	農福連携	高齢者の活躍	
⑬		団体	阿波市	野菜ソムリエコミュニティ阿波	地産地消	食育 教育	
⑭		団体	美馬市	こおざとまちづくり協議会	高齢者の活躍	関係人口の創出	その他
⑮		団体	美馬市 三好市 つるぎ町 東みよし町	一般社団法人そらの郷	農泊	農村文化体験	関係人口の創出
⑯	地方 奨励賞	団体	三好市	井川茜保存会 茜の杜」	教育機関との連携	その他	
⑰		団体	勝浦町	生名ロマンの会	環境保全・景観保全		
⑱		団体	勝浦町	特定非営利活動法人 阿波勝浦井戸端塾	伝統の継承	高齢者の活躍	関係人口の創出
⑲		団体	勝浦町	特定非営利活動法人 K-Friends	6次産業化	地産地消	食育 教育
⑳		団体	勝浦町	道の駅ひなの里かつうら再生プロジェクト	農業	農村環境・景観保全	関係人口の創出
㉑	地方 奨励賞	個人	勝浦町 上勝町	石川 美緒	農業	6次産業化	雇用
㉒		団体	神山町	徳島県立城西高等学校神山校 まめのくぼ」プロ ジェクトチーム	6次産業化	荒廃農地対策	農村環境・景観保全
㉓	地方 奨励賞	団体	那賀町	徳島県立那賀高等学校 地域探求同好会	環境保全・景観保全	食育 教育	学生 若者の活躍
㉔		団体	美波町	株式会社四国の右下木の会社	林業	伝統の継承	環境保全 農林水 産業・食品産業)
㉕		団体	美波町	特定非営利活動法人赤松煙火保存会	伝統の継承		
㉖		団体	北島町	はーとふる川内株式会社	6次産業化	教育機関との連携	農福連携
㉗		団体	つるぎ町	家賀再生プロジェクト	農泊	伝統の継承	農村環境・景観保全

応募団体等所在市町村図（徳島県）



かぶしきがいしゃ のうか
株式会社 農家ソムリエーズ
なると金時で世界中の食卓を幸せにします！

概要

- 「なると金時」は徳島県の砂地地域でのみ栽培されるブランドさつまいも。しかし、平成7年には1,330haあった作付面積が21年間で1,120haに減少し、販売単価も下落。このような状況に対し、地域農業の衰退を食い止め、収益向上を図るため、地域単位での産地形成と販売体制の構築を目的に、平成26年に「株式会社農家ソムリエーズ」を設立。
- その後の取組として、なると金時の輸出及び加工品（さつまいもチップス「おさっち。」）の開発・販売を推進し、さらに栽培体験を通じた食育の推進にも力を入れている。



海外プロモーション



輸出用梱包なると金時



おさっち。

〒771-0137 徳島市川内町平石若宮268-3
088-679-8661

関連情報はこちら ▶

地方
奨励賞

かぶしきがいしゃ おおつかせいやくこうじょう そうむぶ しゃいんしょくどう
株式会社大塚製薬工場 総務部 社員食堂

捨てられる「もったいない」を宝に。製薬会社が挑む、徳島発社員食堂の食と健康の循環モデル

概要

- 製薬会社の直営社員食堂として、社員の健康増進に寄与するメニュー開発に取り組む。特に、徳島県産の食材を積極的に取り入れ、栄養素などの健康情報をサイネージ（食堂内の掲示板）で発信。
- ブロッコリーの葉・茎を使用した自家製ドレッシングや、茶殻を使用したふりかけの開発などフードロスの削減に取り組む。
- 食材調達では、生産者への定期的な訪問や意見交換を行い、収穫状況に応じてメニューを柔軟に変更。



サラダバイキングで徳島県産食材を提供

成果

- 社員の「食」への関心が高まり、健康増進につながっている。地産地消の取組により、地域の農林水産業の持続可能性や発展に貢献。
- 規格外品やこれまで廃棄されていた部位を食材として活用し、年間約50kgのフードロスを削減。
- 生産者との直接取引件数は、令和2年度の11件から令和6年度には27件に増加。信頼関係の深化が、より質の高い食材の安定調達と、生産者の経営安定化という好循環を生んでいる。



可能な範囲で生産者を訪問

〒772-8601 鳴門市撫養町立岩字芥原115
088-685-1151

関連情報はこちら ▶



かぶしきがいしゃほんけまつうらしゅぞうじょう

株式会社本家松浦酒造場

人の集う酒蔵「ナルトタイの店」から世界に鳴門の酒を届け、
呑んだ人々が、世界から鳴門に歴史と文化を楽しみに来て貰う！

概 要

- 昭和61年から米国向けに日本酒の輸出し、英国、香港、韓国、シンガポール、豪州、スペインなど14か国に輸出を拡大。
- 平成5年にすだちのリキュールを開発に続き、ゆこう、柚子等の徳島県産の香酸柑橘や梅を使ったりキュール等を開発。
- 情報発信拠点として「ナルトタイの店」（直売所）開設や多言語の動画「鳴門酒蔵街道」をHPやSNSで発信、他の酒蔵や近隣の醤油蔵との連携イベントの開催等を開催。



酒米生産者との交流会

成 果

- 日本酒等の輸出先の増加とリキュール類の輸出により輸出額は増加傾向で推移。
- リキュールは、日本酒を好まない客を取り込み、売上げの45%を占める商品に成長。
- 「ナルトタイの店」への来客数は、令和6年度約4万人（うちインバウンドは10%）と大幅に増加し、直売所の売上は令和2年度の2倍超に増加。



ゆずリキュール

〒0779-0303 鳴門市大麻町池谷字柳の本19番地
088-689-1110

地方
奨励賞とくしまけん とくしまきた じょせいぶ
JA 徳島県徳島北女性部

お母さんたちの手作りれんこん葉茶で美と健康を

概 要

- れんこんの地下茎は食用として利用されているが、葉は収穫前に切られ廃棄されている。葉の有効利用と健康効果がある可能性への期待から、30年ほど前より地域資源を活用した商品開発に取り組み、「れんこん葉茶」として商品化。
- 部員が葉の収穫、乾燥、加工、袋詰めまで全て手作業で行い、れんこん葉茶を製造。
- 市場のニーズを反映した改良や販売促進活動のため、れんこん葉茶を直売所等で販売。



早朝5時かられんこんの葉を収穫

成 果

- れんこん葉茶の製造・販売活動を通じて、地元農家、JA、地域住民の協力する機会が生まれ、地域の活性化につながった。
- また、加工に携わる女性たちは、地域の課題解決やイノベーションの推進者として重要な役割を果たしており、リーダーシップを発揮できる場の創出につながっている。
- れんこん葉茶は鳴門市の「コウノトリおもてなし認証」を取得。認証取得は、地域全体の農産物のブランド向上につながり、他の特産品の販売促進にも寄与。



れんこん葉茶

〒779-0302 鳴門市大麻町大谷字八反田10番地1
088-689-1001 t_yagi@ja-tokushimakita.jp



とくしまけんりつこまつしまにしこうとうがっこう

徳島県立小松島西高等学校

とくしま おから こうぼう
TOKUSHIMA 雪花菜工房

藻場の再生で広がるネットワークとその探究活動について

概 要

- 高校生が主体となり、ステーキホルダーと協働し、未利用魚の活用と藻場再生活動を通じて地域経済と環境の両立を目指す。
- 徳島県南部では近年藻場の減少、磯焼けが深刻化し、漁業資源にも大きな影響が出ており、その原因の一つに食害魚である未利用魚（ブダイ）が挙げられる。この未利用魚を活用した商品の開発に取り組み、その売上を藻場再生に充てる活動を始めた。
- 藻場のCO₂吸収量を可視化・定量化するため、AI搭載の水中ドローンを用いて効率的な海洋調査を実施。



水中ドローンにて藻場モニタリング調査



未利用魚を使った商品の販売



ブダイを使った商品「金のブダイカレー」

〒773-0015 小松島市中田町字原ノ下28-1
0885-32-0129

関連情報はこちら ▶



くろかわ きみえ

黒川 喜美恵

子どもたちの1000時間の充実と、「できる」を増やす子どもの食堂

概 要

- 学区に学童保育がなかったことをきっかけに、子どもたちの放課後や長期休暇の「1000時間」を有意義に過ごす場として学童保育を立ち上げた。その中で、地元食材を活用した調理体験を通じて子どもたちの自立心や協働力を育む「子どもの食堂」を開始。
- 子どもたちが地元の旬の食材を使って調理・配膳・片付けまでを行い、地域の漁師や農家、高専・大学と連携して多様な体験を提供。



子どもたちの調理風景



豆腐作り、漁師さんに習う魚料理



地元食材で子ども達が作った定食

成 果

- 地元の漁師や農家、高専・大学と連携し、魚の三枚おろしや豆腐作りなど、地域資源を活かした多様な体験を提供することで、子どもたちの視野が広がった。
- 活動は地域住民との交流にもつながっている。子どもたちが地域の人々と顔見知りになることで、見守りの輪が広がり、防災面でも安心感が生まれた。
- 「子どもの食堂の」来場者数は令和5年度以降は毎回200人規模に拡大。地域に根差した継続的な活動として定着しつつあり、子どもたちの成長と地域のつながりを育む場となっている。

〒779-1510 阿南市新野町東山56
080-5869-7829 saikai3151@gmail.com

地方
奨励賞

みどり

緑のリサイクルソーシャルエコプロジェクトチーム

とくしまけんりつあなんひかりこうとうがっこう

かりくさ

こうぼう

(徳島県立阿南光高等学校) & 刈草バイオマス工房・みらい

考えよう未来の地球のために私たちができることを！

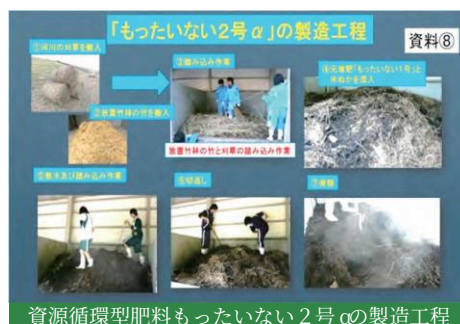
概 要

- 徳島県立阿南光高等学校と社会人等が組織する「刈草・バイオマス工房みらい」の2つの団体が協同して「緑のリサイクルソーシャルエコプロジェクトチーム」を運営。
- 「花いっぱい運動」を行う中で、河川や道路・公園等の維持管理で発生する刈草が毎年多額の経費をかけて植物廃材として焼却処分され、CO₂を排出していることを知り、刈草を堆肥として再利用することを発案。3年かけて2013年に資源循環型肥料「もったいない2号」を開発し商品化。



成 果

- 「もったいない2号」にアサガオやヒマワリの種を添えた「ミニ緑のカーテンセット」を環境教材として制作。市内や徳島駅前などで配布し環境問題の啓発に取り組んだ。
- 行政と連携しリサイクル施設を事業化、年間刈草16トンから8トンの資源循環型肥料を生産。地域の雇用創出にもつながり、持続可能な取組として全国でも先導的な事例となった。
- 大阪・関西万博会場の樹木の肥料に採用され国際博覧会の開催に貢献(協賛)。

〒774-0045 阿南市宝田町今市中新開10-6
0884-22-1408

ごうどうがいしゃ かわしま

くらぶ

合同会社 川島えがお倶楽部

地域へ笑顔で恩返し

概 要

- 地域の活性化や経済的効果を上げることを目的に、10数年ぶりに「川島ふるさと祭り」を開催。
- 3か月に1度のペースで、こども食堂を開催。子供やその両親並びに地域のお年寄り等に食事の提供やイベントを実施し、笑顔の絶えない楽しいひと時となっている。
- 地元のJR学駅では、入場券の表示が「入学」となることから合格祈願の縁起物として人気を集めていることに着目し、同駅とコラボし、地元産米を商品化した「入学米」の販売を開始。



成 果

- 毎年11月に開催する「川島ふるさと祭り」は、令和5年度には県内外10,000人を超える来場者となり、同市に経済効果をもたらすとともに、交流・関係人口の増加に寄与している。
- こども食堂は、好評を得ており多い時には100名程が参加するなど、世代を超えた交流の場となっている。
- 地元駅とコラボし販売した「入学米」は、人気を博し地域の特産品となった。

〒779-3301 吉野川市川島町桑村619-17
090-2892-5161 kawashima.egao@gmail.com

関連情報はこちら ▶



地方
奨励賞とくしまけんりつよしのがわこうとうがっこう
徳島県立吉野川高等学校

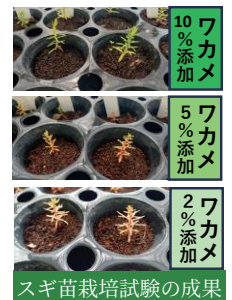
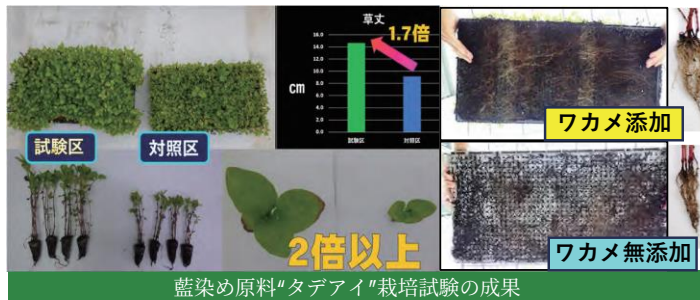
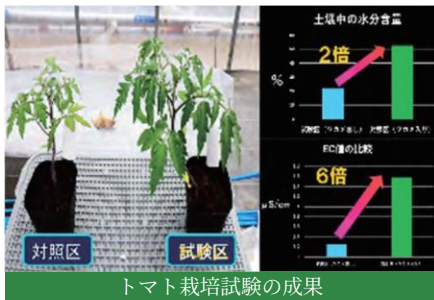
鳴門ワカメ、廃棄から再生へ～地域と環境をつなぐ新資源～

概 要

- 徳島県の特産品である鳴門ワカメの未利用部位を活用し、農業・林業資材「ワカメ資材」を開発し、効果を検証。
- ワカメ資材を牛糞堆肥代替として、トマト、藍の育苗試験を実施。強健な苗が育成されるなど、肥料としての有効性を確認。スギ苗コンテナ栽培では、保水性や根の成長促進効果を確認。
- 近隣の小学校と連携し、ワカメ資材を活用した草花栽培や、地球温暖化などの環境学習に関する出前授業を実施。

成 果

- ワカメ資材を活用することで、育苗会社が培養土に要する生産コストを年間10%削減。地産地消型の培養土開発は、海と山をつなぐ環境に優しい取組として、育苗会社から高評価を得た。また、ワカメ生産者の廃棄処分にかかる費用の削減も期待されている。
- 第1回みどり戦略学生チャレンジ中国四国ブロック優秀賞受賞。ディスカバー農山漁村の宝地方サミットin四国（令和7年3月開催）で事例発表し、活動を広く情報発信。



〒776-0005 吉野川市鴨島町喜来681-9

0883-24-2117 yoshinogawa_hs@mt.tokushima-ec.ed.jp

関連情報はこちら ▶



サロン美緑

安心安全な小麦でつなぐ、伝統食「たらいうどん」

概 要

- 令和3年5月、地域住民のサロン活動に取り組む「サロン美緑」を創設し、地域の名物で伝統食である「たらいうどん」を継承する活動を開始。
- 耕作放棄地の発生を防止するため、休耕田を活用。うどんに使用する小麦は、環境に配慮し、農業・化学肥料を使わない有機栽培で生産。
- たらいうどん作りの技術を継承するため、子ども会、子育てサークル及び老人会等と連携し「うどん打ち体験会」を開催。

成 果

- 休耕田を活用したうどん用小麦の栽培面積は、令和4年度30aから令和7年度は70aへと2倍以上に拡大。
- うどん打ち体験会の参加者は、令和3年度20名から令和6年度は225名と10倍以上に増加。
- 令和7年3月に御所のたらいうどんが文化庁の「100年フード」に認定されるとともに、地元新聞等を通じ活動内容が紹介されたことにより、たらいうどんの認知度が向上。
- 交流・関係人口が増加する等、地域の活性化に寄与。



〒771-1506 阿波市土成町土成南原24

hukku1192jp@yahoo.co.jp

てらい みのる
寺井 稔

農業が、何倍も楽しくなった理由（ワケ）。

概要

- 阿波市の農業後継者グループ「GOTTSO阿波」に平成27年に加入。「野菜の力でまちおこし」を目標に、野菜の出張販売や広報を幅広く行い、自らが「まちのPR隊」として活動。
- 県農業支援センターとも共同で「GOTTSO美～@ナス」を使った幼稚園や小学校での食育の出前授業を行い、野菜のおいしさや作物を育てることの楽しさを伝えている。
- 独自の流通ルートを確立し、単価向上を念頭に置いた商談を行い、市場価格に振り回されない生産・販売の開始。



県農業支援センターと共同食育授業



万博関連イベントでの販売



「阿波市特産品認証制度」ミルフィ～菜の認証式

〒771-1701 阿波市阿波町下喜来南174-7
090-3787-2756 gottsoawa@gmail.com

関連情報はこちら ▶

とくていひえいりかつどうほうじん やま やくざいし
特定非営利活動法人 山の薬剤師たち
長く続けるために

概要

- 担い手不足等による農業の衰退という地域課題に対し、農福連携により解決に取り組んでいる。
- 軽負担でマニュアル管理しやすい高床式砂栽培ハウスを導入し、葉物野菜を栽培。障がい者たちだけで管理する自立型農園をコンセプトに、障がい者の担い手を育成。
- 高齢者施設の入所者向け収穫体験など、レクリエーションや園芸療法として農業に触れ、明るく元気に暮らすきっかけを創出。



ベビーリーフ

成果

- 高床式砂栽培の導入により、幅広い障がい者に活躍の場を提供すると同時に、賃金アップによる障がい者の自立に貢献。また、農家の労働力不足軽減に貢献。
- 農福連携普及活動での交流人口は、67人（令和2年度）から198人（令和6年度）に増加。
- 老舗中華料理店や地域給食センターにチンゲンサイ、レストランやホテルにベビーリーフを提供し、質の高い野菜として好評を得ている。



チンゲンサイ

〒771-1401 阿波市吉野町柿原字原194-1
088-676-3380 tanagokorokoyadairanaruto@gmail.com

やさい あわ
野菜ソムリエコミュニティ阿波
育てよう！阿波ベジキッズ～新たな食育形成に向けて～

概 要

- 地域農業や地域福祉の発展を目的に、野菜ソムリエの育成とともに、各種セミナー、講習会などを開催しながら、阿波市産野菜・果物（阿波ベジ）をPR。
- 阿波ベジの魅力を伝えるため、阿波市内の小学生を対象に、『キッズ野菜ソムリエ』を育成し、農業体験、販売体験、料理実習などの食育活動を実施。



キッズ野菜ソムリエ任命イベントの様子

成 果

- 平成27年度から実施している「キッズ野菜ソムリエ」育成活動では、毎年50～80人を認定。子供たちが楽しみながら、阿波ベジにふれ、その魅力を理解。
- 農業体験を通じ、子供たちが阿波市の農業の豊かさを実感するとともに、食の大切さを理解し、食べ物への感謝の気持ちを育むことに寄与している。



阿波市産のレタスを使った調理実習の様子

〒771-1695 阿波市市場町切幡字古田201-1
0883-36-8720

きょうぎかい
こおざとまちづくり協議会
自分たちの地域は自分たちで守る

概 要

- 「自分たちの地域は自分たちで守る」を合言葉に、地域の住民が主体となり、廃校施設を有効活用し、地域の活性化と安全・安心な環境づくりの活動に取り組んでいる。
- 近隣農家等から提供された地元食材を調理した食事を住民に提供する地域食堂の取組やひなまつりや運動会等、季節ごとにイベントを開催し、地域住民の交流を促進している。
- 廻りおどりや秋祭り等の伝統行事を次世代に継承する取組や自主防災訓練等の安全・安心につながる取組を実施している。



農園における収穫体験と地域食堂の食事風景

成 果

- 地域食堂や季節ごとに開催する地域交流イベントは、コロナ禍が終息した令和5年度以降は回復し、地域内外から多数（多い年は700人超）の参加を得ている。
- 様々なイベントの開催を通じ、住民間の交流する機会が増え、地域の困りごと等の情報交換・共有の場になっている。
- 地域外からの参加者も増えており、地域住民との交流を通じ、関係人口の増加に寄与している。



伝統継承イベント（廻りおどり）の様子

〒771-2103 美馬市美馬町字玉振前1番地1
0883-63-2180 Kozato2017@gmail.com

関連情報はこちら ▶





いっぽんしゃだんほうじん

さと

一般社団法人 そらの郷

世界農業遺産を活用した農山村の活性化

概 要

- 世界農業遺産に認定された「にし阿波の傾斜地農耕システム」による伝統農法や急峻な農山村で育まれた食文化や歴史を観光資源として活用し農作業体験や共同調理などを取り入れた体験型教育旅行を実施。
- 体験型教育旅行の受入家庭の掘り起こしとともに、サービス品質向上のために、受入家庭向けの研修を実施。
- インバウンド対応として、急傾斜地の畑の散策や農家の庭先での餅つきなどの地域住民との交流を実施。



野菜の収穫体験（教育旅行）

成 果

- 体験型教育旅行は、令和2年度481人泊から令和6年度6,363人泊と増加。また、にし阿波地域への外国人旅行者の延べ宿泊者数は令和2年3,633人から令和6年30,347人に増加。
- 体験型教育旅行の参加者や外国人を含む観光客の増加により、地域の農業者や観光関連事業者の所得向上、雇用の創出・安定化、移住者の増加といった好循環を生み地域活性化に寄与。



地元農家との交流（餅つき体験）

〒778-0005 三好市池田町シマ995番地1
0883-76-0713

地方
奨励賞

井川茜保存会「茜の杜」

茜でつながる地域の輪

概 要

- 地域に自生している価値のある茜を保存のため、耕作放棄地を畑に復元し、茜栽培に取り組んでいる。一連の栽培・管理作業には会員が参加。
- 多様な素材で多様な色が発色する染め方法を研究し、顧客の要望に応えられる染色技術を備えている。
- 茜染めに親んでもらうため、地元の小中学生を対象に茜染め体験会を開催、地域の交流施設に茜染め製品を飾るなど、茜を活用した活動に取り組んでいる。



日本茜栽培の工夫 熱射よけ寒冷紗張

成 果

- 茜栽培を通じた会員間の交流は、地域活性化につながった。自生の茜の生育状況から、茜が生育しやすい環境づくりを考察し、試行するなど自然への理解を深めるきっかけとなった。
- 茜染め製品は、JR四国の観光列車で継続して販売され国内外の観光客に好評。「三好市ふるさと納税返礼品」「三好の逸品」や、にし阿波地域の魅力を発信するブランド「千年のかくれんぼ」にも登録され信頼度も高まり、茜染めの認知度の向上につながった。



「藍屋敷おくむら」での展示会



茜染め作品ストール

〒779-4801 三好市井川町辻60-1
090-3184-1023 gsmjap2hlf@gmail.com

いくな かい 生名ロマンの会

ボランティアでつくろう「生名ロマン街道」

概要

- 正木ダムの完成（昭和52年8月）後、生名谷川の改修工事竣工を記念し、生名区老人会らが両岸に桜を植栽。平成15年に両岸の管理道路が「ふれあいロマン街道」と命名され公園化されたことに伴い活動を開始。桜の美しさと自然の恵みを活かし、環境保全、地域コミュニケーション、安らぎの名所として地域の維持、活性化に取り組んでいる。
- 「勝浦さくら祭り」は平成16年から開催し、平成23年より舟下りやアマゴの釣り堀などのイベントを追加して規模を拡大。
- 年3回の清掃や草刈り、隔年での桜の剪定などを実施し、環境や景観の保全に取り組んでいる。



生名ロマン街道の桜並木



勝浦さくら祭り（舟下り）



ボランティアによる環境保全活動（年3回）

〒771-4303 勝浦郡勝浦町大字生名字山ノ神
090-8970-6728 kouryu@town.katsuura.i-tokushima.jp

関連情報はこちら ▶



とくていひえいりかつどうほうじん あわかつうらいどばたじゅく 特定非営利活動法人 阿波勝浦井戸端塾

グローバル・地球と結ぶ勝浦づくり

概要

- 昭和56年の寒凍害で基幹産業「貯蔵みかん」が壊滅的な被害を受けたことを契機に、地域の再生と活性化を目指して平成3年に「阿波勝浦井戸端塾」として活動を開始。
- 「地球と結ぶ勝浦づくり」を理念に、平成4年から日本一を誇る「ビッグひな祭り」を開催。家庭で飾られなくなった雛人形を全国から集め、ピラミッド型ひな壇、周辺を含め約500段などに約3万体の雛人形を展示。
- 平成6年には、町内での恐竜化石の発見を機に、「恐竜の里づくり」にも着手し、地域資源を生かした持続可能なまちづくりを推進している。



ビッグひな祭り メインひな壇



恐竜ウォークラリー 恐竜化石の解説



県立博物館 化石調査活動の協力

成果

- 「ビッグひな祭り」は、全国から集めた約3万体の雛人形を供養・展示する日本一の規模を誇るイベントとして定着し、令和6年度には約2万人の来場者を迎え、売上は1,216万円を記録。国際的にもリオ五輪と東京五輪で展示を行い、日本文化の発信に貢献。
- 町内で恐竜の化石が発掘されたことを契機に、「恐竜の里づくり」では、毎年ウォークラリーを開催。平成30年からは、徳島県が行う発掘調査を支援。イベント開催等ではインバウンド誘致等、補助金に頼らない持続可能な運営体制のもと、交流人口の拡大と地域経済の活性化に貢献。

〒771-4303 勝浦郡勝浦町大字生名字月ノ瀬35-1
0885-42-4334 hinanosato.k@gmail.com

とくていひえいりかつどうほうじん けいふれんず
特定非営利活動法人 K-Friends
 スポーツ×食育×恐竜＝農村を紡ぐ

概要

- スポーツ振興による地域活性化を目指し、スポーツと地元特産物の収穫体験をコラボさせたスポーツツーリズム事業等を実施。
- 令和3年から農産物商品加工ができる施設の管理受託をきっかけに、6次産業化へ取り組み、地元の農産物を使った商品を開発し販売。
- スポーツツーリズム、食育・地産地消、SDGs推進、恐竜イベントを柱に、地域の魅力を発信し交流人口の増加と地域活性化を目指している。



みかん収穫体験＆ウォーキングのスポーツツーリズム



熟成みかんジャム



食育教室

成果

- スポーツ振興イベントでの交流人口は、138人（令和2年度）から900人（令和6年度）へ増加。地産地消・食育教室等の参加者は、70人（令和5年度）から100人（令和6年度）へ増加。
- 6次産業商品化の取組は、「まんまいも」「まぜご飯の素」に加えて、規格外の地元の特産品である熟成みかんを使用したジャム等を商品化。商品の売上げは、取組開始初年度（令和3年度）の35万円から430万円（令和6年度）へ増加。

〒771-4307 勝浦郡勝浦町大字三溪字古川1番地1
 0885-42-3671 kfriendskss@gmail.com

関連情報はこちら ▶



みち えき さと さいせい
道の駅ひなの里かつうら再生プロジェクト
 住民が輝く地域再生の拠点づくり

概要

- 行政及び地域住民から、交流人口増加対策や耕作放棄地の景観問題解消の依頼があり、道の駅がハブとなり、808（やおはち）農園プロジェクトを企画。
- 協働体制の構築及び食育に資する体験農園とこども食堂（やおはち食堂）の運営。
- 地域資源のPRと消費拡大のため、808農園やマルシェ、防災フェス等のイベントを開催。また、交流人口拡大に資する観光ひまわり園・コスモス園を整備。

成果

- 約50aの管理不能農地を再生・有効活用し、景観維持を実現。延べ250名超の地域住民・学生・児童が協働し、地域交流とコミュニティ強化に貢献。収穫体験では100名の児童・こども食堂利用者などに農業体験・食育機会を提供。収穫物はフードバンクへ寄贈し、新鮮な農産物を提供することで地域福祉向上にも貢献。
- ひまわり園、コスモス園の整備に加え、夏野菜の無料配布、みちのえきマルシェ、防災フェスタ、恐竜フェスティバルなど、多様な集客イベントを開催。関係人口の獲得を通じ、周辺地域の活性化に貢献。



中学生と保育園児によるコスモス播種



保育園児の収穫を手伝う中学生



やおはち食堂 食事の様子

〒771-4303 勝浦郡勝浦町大字生名字月ノ瀬4-1
 0885-44-0112 hinanosato.k@gmail.com

関連情報はこちら ▶



地方
奨励賞

いしかわ み お

石川 美緒

山間の恵みをつかったジェラートで、地域の文化を未来へ紡ぐ

概 要

- 10年前、みかん農家を継ぐために東京から徳島県勝浦町へ夫婦で移住。
- 近年、気候変動の影響による不作のリスクが高まり、不安を抱えながらの農業経営が続いている。こうした課題に向き合いながら、培ってきた農業の経験と、地域に根ざした食材・文化資源を活かした新たな挑戦として、クラフトジェラートブランド「TONPUKU」を立ち上げた。
- 農閑期には古民家を改修した民宿を運営し、田舎暮らしを体験できる場を提供。



自社農作物をつかったジェラート

成 果

- 50aから開始したみかん栽培は、近所の高齢農家からの依頼で農地を借受け、現在では100aを管理。収穫期にはSNS募集を通じて県外から住み込みアルバイトを受け入れ、地域との新たな接点を創出。
- 規格外の柑橘類をジェラートに加工し、通年販売を実施。さらに地域の農産物や山菜等も活用し、地元農家の収益、やる気向上に貢献。
- ジェラートブランドは店舗販売に加え、オンライン販売やイベント出店等を行い販路を拡大。大阪・関西万博では、自治体ブースで出店し、1,550個が完売。地域の魅力を伝える商品として高評価を獲得した。



東京・コミュニティ施設前での出店

〒771-4307 勝浦郡勝浦町三溪林25

関連情報はこちら ▶



とくしまけんりつじょうせいこうとうがっこうかみやまこう

徳島県立城西高等学校神山校

「まめのくぼ」プロジェクトチーム

高校生が挑戦まめのくぼの再生プロジェクト

概 要

- 令和元年、神山創造学(学校設定科目)の授業で約20年間放置され耕作放棄地(通称で「まめのくぼ」という)となっていた棚田を発見。その一部を借り受け、土地の再生と作物の栽培に取り組む。
- 土地の再生には、石積みや伐採技術を活かした環境整備も実施。在来種の小麦(神山小麦)、そば、茶の栽培・加工販売による6次産業化にも取り組む。

成 果

- 令和7年4月時点で約25aの農地を再生。環境整備による農地の機能回復や、鳥獣被害防止の電気柵設置などの活動が認められ、「とくしま生物多様性活動認証」を取得。
- 在来小麦を用いたクッキーの製造、販売を通じて魅力を発信。また、神山校が取り組むJGAP認証スタチと「まめのくぼ」で栽培したトウガラシを使用した「すだち胡椒」が「とくしま特選ブランド」に認定された。



「まめのくぼ」全景



神山小麦の収穫



6次産業化への試み 商品開発

〒771-3311 名西郡神山町神領字北 399
088-676-0029

地方
奨励賞とくしまけんりつなかこうとうがっこう ちいきけんきゅうどうこうかい
徳島県立那賀高等学校 地域探究同好会

地域をつなぐ小さな力 ～内発的発展力を高めるために～

概 要

- 生産者の減少により放置されたゆず畑の整備を、地域の協力者と共に継続的に実施。収穫したゆずや果皮などを活用し、地元企業と連携し「ゆずコンフィ」を開発。商品化した「ゆずコンフィ」は食育推進全国大会やマルシェで販売。
- ヤマザクラの植樹や那賀川源流域の水源地を守る活動などを通じた自然環境の保全。郷土食づくりや伝統技術「太布織」研修を通じた地域文化の継承にも取り組む。
- 徳島大学地域実践研究会“NOROSHI”との連携による、地方創生を目指した活動を展開。



放置されたゆず畑での収穫



「ゆずコンフィ」の販売



ヤマザクラの植樹プロジェクトに参加

成 果

- 放置ゆず畑の整備が進み、地域の環境改善と協力体制の強化に貢献。
- 環境保全活動により水源地の保護や地域の自然環境の維持に寄与。地域文化の継承活動を通じて、住民との交流や伝統技術の継続が実現。
- 大学との連携により、若者の地域活動参加が促進され、イベントでの協働を通じて実践的な学びの場が拡充。

〒771-5209 那賀郡那賀町小仁宇字大坪179番地の1
0884-62-1151

関連情報はこちら ▶

かぶしきがいしゃしこく みぎしたき かいしゃ
株式会社四国の右下木の会社

里山から世界へー 樺木（こりき）林業が紡ぐ、循環と共生の未来モデル

概 要

- 伝統的な樺木林業を現代の技術と融合させることで、持続可能な「100年の産業」と「100年の森林づくり」の両立を目指し活動。
- ウバメガシを短期間で伐採し萌芽更新を促す、循環型の広葉樹林業を実践し、高品質な「樺木備長炭」などの製品を製造・販売することで、新たな収益を生み出し、その収益を森林の管理・再生に再投資するサイクルを確立。
- 製炭師の経験や感覚への依存が高い製炭工程を、IoTによる炭窯温度の可視化で、新規参入・技術継承しやすい体制づくりを構築。

成 果

- IoTによる製炭温度の可視化により、新規参入・技術継承しやすい体制づくりとともに、高品質で安定的な生産を実現。高度な技術と環境への配慮が評価され、国産備長炭の品不足を背景に、ブランド化された「樺木備長炭」を全国の有名飲食店やミシュラン店に供給。また、JETROと連携しヨーロッパ市場への輸出にも挑戦中。
- 製炭量は令和5年度に総量5トンから令和7年度（見込み）60トン、売上げは300万円から2,900万円、従業員数は5名から員14人に急増。
- 令和7年に樺木林業が日本農業遺産に認定され、地域では里山経済の再生や移住者の増加といった動きも進んでいる。



樺木林業の技法で薪炭林を伐採



IoTを導入した「樺木備長炭」



ウバメガシの再生・若返り

〒779-2305 海部郡美波町奥河内字弁才天54-5
0884-70-1779 info@treecompany.jp

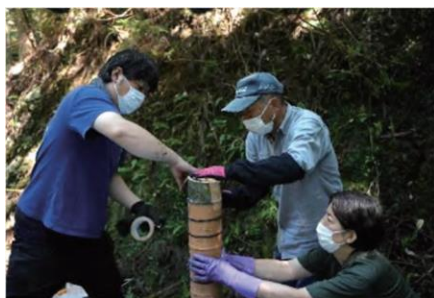
関連情報はこちら ▶



とくていひえいりかつどうほうじん あかまつえんかほぞんかい
特定非営利活動法人 赤松煙火保存会
 できたん、どしたん、吹筒花火

概要

- 徳島県南部の中山間地域に位置する美波町赤松地区（約200戸）は、過疎化、高齢化、人口減少が進行。このため、約200年続く伝統の吹筒花火の製造技法の衰退や神社への奉納ができなくなることが危惧されていた。
- 平成7年、赤松地区有志により「赤松煙火保存会」を設立し、その後、持続可能な組織とするため平成25年「特定非営利活動法人赤松煙火保存会」を設立。
- 令和4年、徳島県指定無形民俗文化財に指定。



吹筒を藁縄で化粧する作業



奉納吹筒花火の模様



「できたんどしたん」の掛け声とともに

成果

- 地域住民による手造り吹筒花火の製作は、共同の作業を通じて、住民相互のコミュニケーションの促進、地域の活性化につながっている。
- さらに活力ある村づくりとするため、「赤松地区農村RMO推進協議会」に参加。
- 令和5年から「全国花火師競技大会にし阿波の花火」に参加し、で伝統の吹筒花火を披露。伝統文化を広く発信することで、地域の活性化に寄与。

〒779-2301 海部郡美波町赤松字総屋敷146-1

かわうちかぶしきがいしゃ
はーとふる川内株式会社
 障がいと共に農業で働いて元気になる

概要

- 大塚製菓株式会社の特例子会社として、障がい者雇用農園を設立し、ハウストマトの生産・販売を行う。
- 地域の障がい者就労支援センターとドライトマトを開発し、農福連携・6次産業化を実現。
- とくしま安²農産物（安²GAP）認証を取得し、安全な職場整備と安心・安全なトマトを提供。障害者雇用優良中小事業主認定（もにす認定）、ノウフクJASを取得し、全国的な農福連携の啓発を推進。



農園で働く社員：職業人として成長



ドライトマト：障がい者就労支援センターと協働



はーとふるトマト

成果

- 障がい特性に応じた支援や指導を行い、障がい者就農人数は、平成26年度3名（知的障がい者）から、令和6年度8名（知的障がい者5名、精神障がい者3名）まで増加。
- ドライトマトの販売拡大により、6次産業化を更に推進。本年度からトマト（青果）を阿波市のふるさと納税返礼品に登録。
- 障がい者雇用に関わるロールモデルとしてセミナーや見学会等を積極的に行い、各職域での障がい者雇用を推進。

〒771-0283 板野郡北島町高房字居内1-1
088-678-5276

関連情報はこちら ▶



け か さいせい

家賀再生プロジェクト

桃源郷からの贈り物～未来へ紡ぐ家賀の藍～

概要

- 世界農業遺産の「にし阿波の傾斜地農耕システム」でカヤ、落葉などを活用し藍を栽培。食用としてパウダー化した藍粉を活用した商品を開発、販売。
- 令和4年にリース法人による農業参入支援として開設した「SAWAファーム」や貸し農地で世界農業遺産の農法を実施。
- 中高生の修学旅行や農業体験の受入れを行う。また、家賀再生プロジェクトと地元住民、支援団体が協働して宿泊施設「家賀の郷 清笹」を活用し、新たな客層を対象にツアー等を開催。



家賀の藍畑は、農薬・化学肥料不使用



SAWAファーム ※ANA・SB食品参入



採草地の維持管理 ※コエグロ

成果

- 「にし阿波の傾斜地農耕システム」はSDGsの取組に貢献し、カーボンニュートラル達成の手段として評価されており、多くの企業や団体、学識者が訪れ、プロジェクトを立ち上げた平成30年から農業体験、ツアー受入れ人数は年々増加。
- 藍の収穫量も年々増加。食用を始めとした様々な商品の開発・販売や農福連携の取組も進めており、関係人口の増加、地域の活性化につなげている。

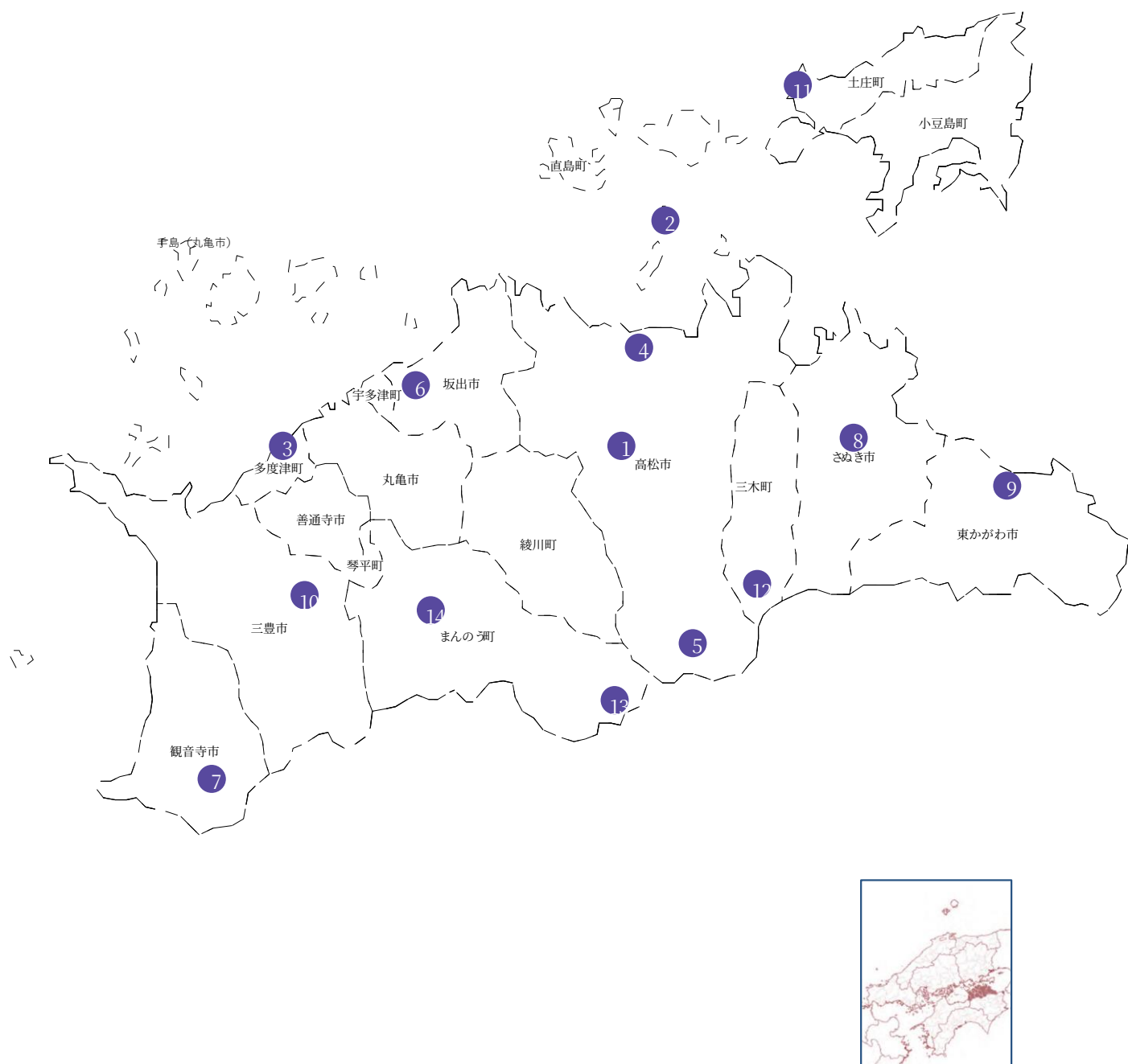
〒779-4101 美馬郡つるぎ町貞光字大須賀44-8
090-5144-4896 shinca@movie.ocn.ne.jp

香川県

ディスカバー農山漁村（むら）の宝」第12回選定）応募団体等 一覧 香川県）

No	選定 団体等	部門	市町村	団体名/氏名	該当する取組		
①		団体	高松市	大野豆プロジェクト	地産地消	伝統の継承	農福連携
②		団体	高松市	香川大学OGIJIMAプロジェクトここちから	農業	学生・若者の活躍	農村環境・景観保全
③		団体	高松市	香川大学たどつまちLabo	林業	官民共創	
④	地方 奨励賞	団体	高松市	香川大学Bonsai☆Grils Project	伝統の継承	教育機関との連携	学生・若者の活躍
⑤		団体	高松市	特定非営利活動法人 奥塩江交流ボランティア協会	農業	農村環境・景観保全	関係人口の創出
⑥		団体	坂出市	坂出第一高等学校 食物科	地産地消	食育・教育	学生・若者の活躍
⑦		団体	観音寺市	五郷里づくりの会	伝統の継承	関係人口の創出	その他
⑧		団体	さぬき市	香川県立石田高等学校 ワンダーフォーゲル同好会	農業	棚田保全	環境保全（農林水産業・食品産業）
⑨		団体	東かがわ市	三高みんなの食堂プロジェクト（香川県立三本松高等学校、農事組合法人福栄中央）	6次産業化	教育機関との連携	食育・教育
⑩	地方 奨励賞	団体	三豊市	麻環境保全会	農業	伝統の継承	農村環境・景観保全
⑪		団体	土庄町	小豆島陽当の里伊喜末	荒廃農地対策	農村環境・景観保全	高齢者の活躍
⑫		個人	三木町	岸田 智子	6次産業化	荒廃農地対策	その他
⑬		団体	まんのう町	島々峰の原風景を守る会	6次産業化	棚田保全	荒廃農地対策
⑭		団体	まんのう町	まんのうひまわり振興協議会	農業	6次産業化	関係人口の創出

応募団体等所在市町図（香川県）

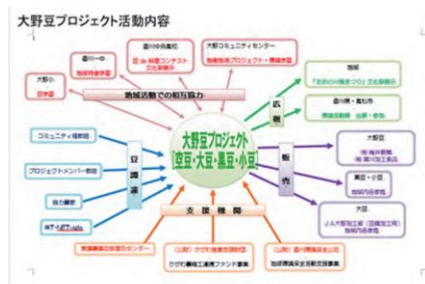


おおのまめ 大野豆プロジェクト

伝統野菜「大野豆」の復活と次世代への継承

概要

- 品種転換により消滅の危機に瀕していた伝統野菜の「大野豆」の生産復活を願う有志35名が集い休耕田を活用し、大野豆復活プロジェクトとしてスタート。
- 伝統野菜「大野豆」を主に多種の豆を栽培し、生産や販売を通じた地域活性化とデジタル技術を活かした「大野豆」復活と次世代への継承活動のPR。
- プロジェクトメンバーに地域農業団体も加わり、当初メンバーの高齢化を補い、活動の活性化を図る。



各支援機関・協力農家・学校と連携した活動



女性会による「押し抜き寿司」料理教室



地域イベントにおける「大野豆」販売

〒761-1701 高松市香川町大野1329-1
087-886-1960

関連情報はこちら ▶



かがわだいがく おぎじま 香川大学OGIJIMAプロジェクトここちから

名産品落花生で男木島を元気に！

概要

- 男木島は、担い手不足により耕作放棄地が数多く見られる。そこで耕作放棄地を活用してかつて島の名産品だった落花生を栽培することにより、島の伝統や食文化を継承するとともに、耕作放棄地の削減と景観保全により島のイメージ向上を目指す。
- 収穫した落花生を用いて島民向けイベントを開催するなど事業を継続して行うことにより、島内だけでなく島外の人々への認知度の向上を目指す。



耕作放棄地の草刈り作業

成果

- 男木島の地域活性化を図るとともに島民に活動を認知してもらう機会が創出でき、耕作放棄地の解消や食文化の継承等にも寄与。
- 島民と交流することにより、お年寄りから教わった獣害対策や土壌づくりに関する知恵は、農業未経験の学生が成長する貴重な機会になった。



落花生の定植

〒760-8523 高松市幸町2-1 香川大学経済学部古川研究室

関連情報はこちら ▶



かがわだいがく 香川大学たどつまちLabo らぼ

竹あかりで多度津を盛り上げたい！

概要

- 地域住民団体や多度津町役場と連携して、歴史的建造物が立ち並ぶ旧本町筋にて竹あかりを展示することを通して、旧本町筋が重要伝統的建造物保存地区に選定されることを目指す。
- 地域住民と連携して放置竹林の竹を定期的に伐採することにより、放置竹林問題の解消に貢献。

成果

- 多度津町を舞台に3種類のまちなりきリーフレットを作成し、情報の発信に寄与。さらには、重要伝統的建造物の概要や対象の建物を紹介する「重伝建マップ」を作成中。
- 地域未利用資源である放置竹林の竹を利用したワークショップの開催や作成した竹あかりを展示するイベントの企画・運営することにより、町の活性化を推進。



竹あかりワークショップの様子



竹炭実験



～たどつみの灯～の様子

〒760-8523 高松市幸町2-1 香川大学経済学部古川研究室
tadotsulabo@gmail.com

関連情報はこちら▶

地方
奨励賞

かがわだいがく 香川大学Bonsai☆Girls Project ぼんさいがーるずぷろじえくと

若者と高松盆栽を繋ぐ架け橋に！

概要

- 盆栽の生産地として知られる香川県高松市の魅力を、女子大生が普及しようと平成24年にプロジェクトが発足。
- 「男性・お年寄り・高価」といったイメージを持たれる盆栽を、真逆のイメージの「女性・大学生・お金持ちの印象がない」といった女子大生が、苔玉づくりワークショップやフリーペーパーの作成、SNSによる情報発信で高松盆栽の魅力を若い世代や女性をターゲットとし、認知度向上を目的に活動。

成果

- 盆栽園で盆栽の作り方や育て方を教わり、自身の技術向上に努め、習得した技術を用いて、高校生等の若い世代や女性をターゲットに盆栽教室や苔玉づくりワークショップを開催し、誇るべき地場産業を女子大生の新しい視点から効果的に発信。
- おすすめ樹種紹介や盆栽関連記事を掲載したフリーペーパー「ZINE」を作成し、市内各所で配布。
- SNSを使った積極的な情報発信により、盆栽に興味のある海外の人からのフォローが増加。



情報共有ミーティング



フリーペーパー「ZINE」



盆栽教室

〒760-8523 高松市幸町2-1 香川大学経済学部古川研究室

関連情報はこちら▶



とくていひえいりかつどうほうじん おくしおのえこうりゅう

きょうかい

特定非営利活動法人 奥塩江交流ボランティア協会

スローライフを楽しみながら持続社会に貢献するボランティア隊士

概要

- 茶畑が年々衰退していく様を見て、かつては阿讃交通の要所として賑わっていた地域を再び活性化させることを目的として、平成18年に奥塩江交流ボランティア協会を設立。
- 楽しみながら地域農業に貢献する「楽農人活動」、山村に賑わいをもたらす「山なみ交流活動」を実施。

成果

- 荒廃が進んだ畑や放置茶畑を再生。「天空の畑」として蘇った畑でソバや野菜、茶を栽培し、特に茶は無農薬栽培で一番茶だけを製品化、協会ブランド(大滝山、東山)として道の駅や産直などで販売するなど観光地塩江の活性化にも貢献。
- 会員は現在約100名。奥塩江の自然・風土が好きで「スローライフを楽しみ、持続社会に貢献する」を合言葉に地域内外から集まる仲間たちが活発な活動を展開。



楽農人活動(茶畑の管理)



モモの広場で交流イベント



天空の畑でそば刈り作業

〒761-1613 高松市塩江町上西甲77 モモの広場

関連情報はこちら ▶



さかいでだいいちこうとうがっこう しょくもつか

坂出第一高等学校 食物科

高校生が伝える生きた教材

概要

- 児童・生徒たちに「食」を通じて地域への理解を深めてもらうことを目的として、地場産物を活用した献立開発や食育授業を実施してきたが、子どもたちの食育を定着させるために家庭全体で健康的な食生活に取り組む必要があることから、保護者にも対象を広げ、地域の食育推進リーダーとしての役割を担うようになった。
- 子育て世代を対象にした食育ワークショップの開催や健幸レシピを作成した。

成果

- これまでの献立開発や食育授業に加え、これまで培ってきた経験を活かし、子育て世代を対象にした食育ワークショップを開催して、親子で調理体験をすることにより、参加者の食育意識の向上を図った。
- 地元食材を使った健幸レシピを考案して冊子にまとめ、市内小・中学校のほか公共施設に配布するとともに、坂出市のHPに掲載した。



健幸レシピ考案授業の様子



みかん共撰場 施設見学



食育ワークショップ

〒762-0032 坂出市駒止町二丁目1番3号
0877-46-2157

関連情報はこちら ▶



ごとうさと かい 五郷里づくりの会

GOGO 五郷！～文化は山から降りてくる～

概要

- 平成23年に、井関・内野々・有木・海老済・田野々の5つの地域からなる五郷の活性化を目的に、「できることから活動を始めよう」と五郷里づくりの会を発足。
- 「人が輝く里山づくり」を目指して、地域資源である「五郷の棚田(つなぐ棚田遺産認定)」の保全と地域の活性化を図る活動を実施。5月5日を「五郷の日」と定め、総会&記念行事実施。
- 五郷の独自性を大切にして、伝統行事・郷土料理の継承や関係人口創出に資する取り組みを実施。



五郷里づくりの会メンバー

成果

- 五郷水車、水車小屋、吾妻屋、ピザ石窯の建設を始め、蕎麦の栽培と蕎麦打ち体験、里山歩き、三世代交流のピザ作り体験やさつま芋の栽培と親子収穫体験会など幅広い活動を実施。
- 独自性を出すため、豊稔池堰堤(国の重要文化財)等の名所を活かした「里山歩き」は現在8コースの開設、梅狩り・みかん狩り・花炭づくり体験を絡めたグリーンツーリズムの実施。
また、11月29日、30日には「五郷の棚田ライトアップ」イベントを初開催した。



豊稔池の風景（ゆるぬき・雪景色）

〒769-1621 観音寺市大野原町井関696
0875-54-4489 携帯090-1324-8364（徳善）

関連情報はこちら ▶



かがわけんりついでこうとうがっこう どうこうかい 香川県立石田高等学校 ワンダーフォーゲル同好会

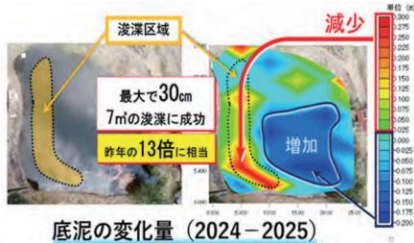
大人から教わる山仕事、僕らの青春。

概要

- 昆虫や水生生物の研究をしながら耕作放棄地だった里山を一人で耕作し、小さな生き物のために環境を整備していた卒業生が病により体力の限界と感じたことをきっかけに、高校の後輩生徒を誘い、棚田の耕作・生物調査・水源管理・下草刈り等里山保全活動を実施。
- ボランティア団体である「Gomyo倶楽部」の人たちに協力を得ながら、最新の科学技術と地域の大人たちの知恵を組み合わせ、無理のない方法で環境を守る。



サイフォンによる浚渫の様子



浚渫の成果

成果

- 五名地区の棚田での里山活動で、タガメやゲンゴロウ、カワバタモロコなどの絶滅危惧種、ユキモチソウやエビネなどの希少植物も見られ、自然の豊かさと命のつながりを実感。
- 池の水質改善と貯水量の向上を目指して底泥の浚渫を行う際、生物への影響を最小限に抑えるために、ポンプを使用せず自作のそりで回収することで、生物への影響を最小限に抑えることに。



棚田で御田植祭

〒769-2321 さぬき市寒川町石田東甲1065番地
0879-43-2530

関連情報はこちら ▶





さんこう しょくどう
三高みんなの食堂プロジェクト

かがわけんりつさんぽんまつこうとうがっこう、のうじくみあいほうじん ふくえちゅうおう
(香川県立三本松高等学校、農事組合法人 福栄中央)

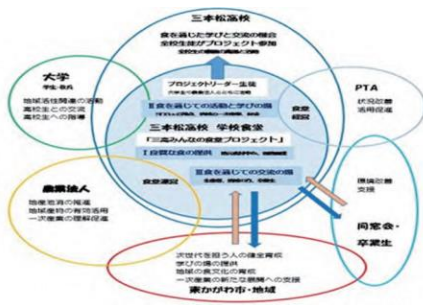
学食を地域食堂に、そして住み続けたいまちへ

概要

- 危機的な経営状況にあった高校の学食を、生徒の主体的な活動と地元農事組合法人の力で、地域の人との協働のもと復活。
- 高校生と生産者が地域の資源を生かし、食材の有効活用や地産地消等の取り組みで、学食が地域交流の場となり、生徒の育成と持続可能なコミュニティづくりを構築。
- 授業や部活動ではない、指示されることなく、自分で見つけて実行する自主活動プロジェクト。



校内の空地进行して、生徒が野菜づくり



プロジェクトのつながり関係図



マルシェでの地域の方々との交流

〒769-2601 東かがわ市三本松1500-1
0879-25-4147

関連情報はこちら ▶



地方 獎勵賞

あさかんきょうほぜんかい

麻環境保全会

子供たちの笑顔あふれる農村づくり

概要

- 少子高齢化の進んだ地域に活気を取り戻すため、農業者以外の住民も巻き込んだ地域コミュニティを土台として、農業啓発活動や農業用施設の維持管理、地域の環境資源や文化を後世に継承していくことを目指し、「麻環境保全会」を平成26年度に設立。
- 将来を担う子供たちへの啓蒙活動、地域の魅力のPR、農業用施設の修繕・更新の直営施工、美しい農村環境の維持・保全に取り組んでいる。



幼稚園児が田んぼでドロンコ遊び



直営施工による水路改修



ホタルの幼虫の放流

成果

- 子供たちに田んぼに親しんでもらうため、学校等と連携して泥んこ遊びや農作物の植栽・収穫体験に取組むとともに、メディアを活用して地域の魅力を積極的に情報発信。
- 腕に覚えのある住民らによる直営施工チームを組織して、農業用施設の修繕・更新を行うことにより、コストを縮減。
- コウノトリが飛来したり、ホタルが生息する清流があるなどやすらぎを提供する特徴的な農村環境を活かした地域づくりを実践。

〒767-0013 三豊市高瀬町下麻1305番地1

しょうどしまひあたり さと いぎすえ

小豆島陽当の里伊喜末

高齢者から若者へ、次世代につなぐ活気あふれる農村へ

概要

- 高齢化や鳥獣被害で増加した耕作放棄地に危機感を抱いた農業者数名が、かつての活気と景観を取り戻そうと農地の再生に乗り出し、それをきっかけに活動が開始。
- 島嶼部特有の不利な耕作条件のなか、耕作放棄地の発生を防止するため、伝統野菜の生産や食品加工企業等と連携して農地を永続的に利用。
- サツマイモの「芋づるの塔」等の伝統継承、祭りや地域コミュニティ活動への積極的な参加により、島内住民全体の交流及び関係人口の増加。



地域の風物詩 芋づるの塔

成果

- 当管理作業に参加し、地域初は農業者有志で始めた活動も、現在では青年団や消防団、農業者以外にも交流と協力体制が構築。
- 島内のオリーブ生産4法人の誘致、伝統野菜の生産や地元企業と連携した新規作物の契約栽培に取り組む等再生した農地を永続的に活用することが実現。
- 「小豆島産原料100%地ビール」製造の夢を叶えるため、大麦やホップ等の生産・供給を行い製造、販売に協力することかできた。



小豆島産原料100%のビール

〒761-4131 小豆郡土庄町伊喜末116-2

きしだ ともこ
岸田 智子

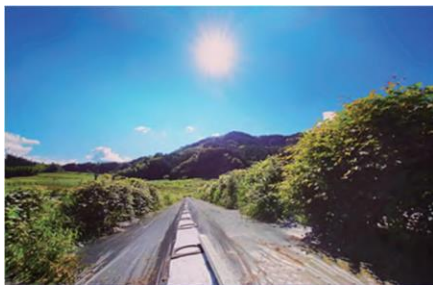
人・馬・農地をつなぐ“Restart with Legacy”

概要

- かつて地域の人たちだけでなく農耕馬や家畜の葉草として重宝されたウマブドウ（馬葡萄）に着目し、耕作放棄地を農地に戻して育てた葉草を、お茶などに加工し高付加価値化。
- ウマブドウと牧草の自然栽培を確立し、有機JAS認証を取得。地元で薬用植物専門店「葉っぱ舎」を運営。
- 育てた牧草に地域の食品残渣を加えアップサイクルする人、馬、農地の共生・循環型プロジェクトを推進。

成果

- ウマブドウ茶は全国約1,000世帯が登録するネット販売を中心に、オーガニックスーパー、デパート、空港免税店へと販路を拡大するとともに、ふるさと納税返礼品にも採択。
- ウマブドウ茶はノンカフェイン高ポリフェノールのため人気で、3ヵ月毎のリピート率は約60%。
- 馬牛用飼料は、ウマブドウと牧草に食品残渣（ビール粕、ワイン粕、柑橘皮など）を加えてアップサイクル。地域の観光牧場や乗馬施設と連携し、販売開始に向けた準備が最終段階。



荒廃農地を整備しウマブドウと牧草を栽培



リピート率の高いウマブドウ茶



ウマブドウの多色性 ギネスに挑戦予定

〒761-0612 木田郡三木町氷上1277番地6

関連情報はこちら ▶



しまがみね げんふうけい まも かい
島ヶ峰の原風景を守る会
初めて会った人達もいつか笑顔のソバづくり

概要

- 人口減少・高齢化により衰退し荒廃する農地の状況を憂いた同士が、この地の食文化や風景を「次世代に残したい」という想いで集まり、平成28年より荒廃地の開墾から始め、寒暖差を利用したソバ作りを開始。
- 開墾した農地の一部を利用して、ソバの栽培体験・そば打ち体験ができる『そば道場』を実施しており、加えて廃校跡地を利用してそばが食べられる食堂をオープン。



再生農地拡大中のソバ畑

成果

- 農地であった面影さえない荒地、狭小な道路、背丈よりも大きな草木。開墾は容易ではなく、農地として復活するのに約3年の歳月を要したが、最近では本地区に定住した元地域おこし協力隊の方や島ヶ峰の紫翠に魅了された若い人も活動に参加するようになり、活気があふれてきた。
- 約8年の歳月をかけて復活したソバ畑(約5ha)は県内外から注目を浴び、ソバ畑を一目見ようと多くの方が訪れるように。



食堂での様子・6次産業化のそば商品

〒766-0203 仲多度郡まんのう町川東2467

しんこうきょうぎかい
まんのうひまわり振興協議会
黄色い魔法のかかる町「まんのう」

概要

- 平成元年から地域で栽培されている「ひまわり」を、自治体と栽培農家が連携し「ひまわりの町まんのう」として全国に向けて発信するべく協議会を設立し、栽培部会や商品開発部会を組織化。
- ひまわり畑の景観を生かした「ひまわりまつり」の開催や「まんのうひまわりオイル」など、ひまわりを原料とした商品を開発、地域ブランドとして更なる認知度向上を図り、関係人口の創出を目指す。

成果

- 6次産業化として、ひまわりオイルをはじめドレッシング、焼酎など多数の商品を開発。また、種の搾りかすを活用した畜産農家などの協力を得て、搾りかすを活用した「まんのうひまわり牛」や肥料として活用した「ひまわり米」の生産。
- 観光振興として、日本一小さな香川県に壮大なひまわり畑が広がる景観を多くの人に楽しんでもらうことで「ひまわりと言えばまんのう町」のイメージを拡散、さまざまなブランド商品による知名度向上による流入人口増加と地域経済への刺激に寄与。



ブランド商品のひまわりオイルと石鹸



満開のひまわりと幸せの鐘



多くの来場者で賑わうひまわりまつり

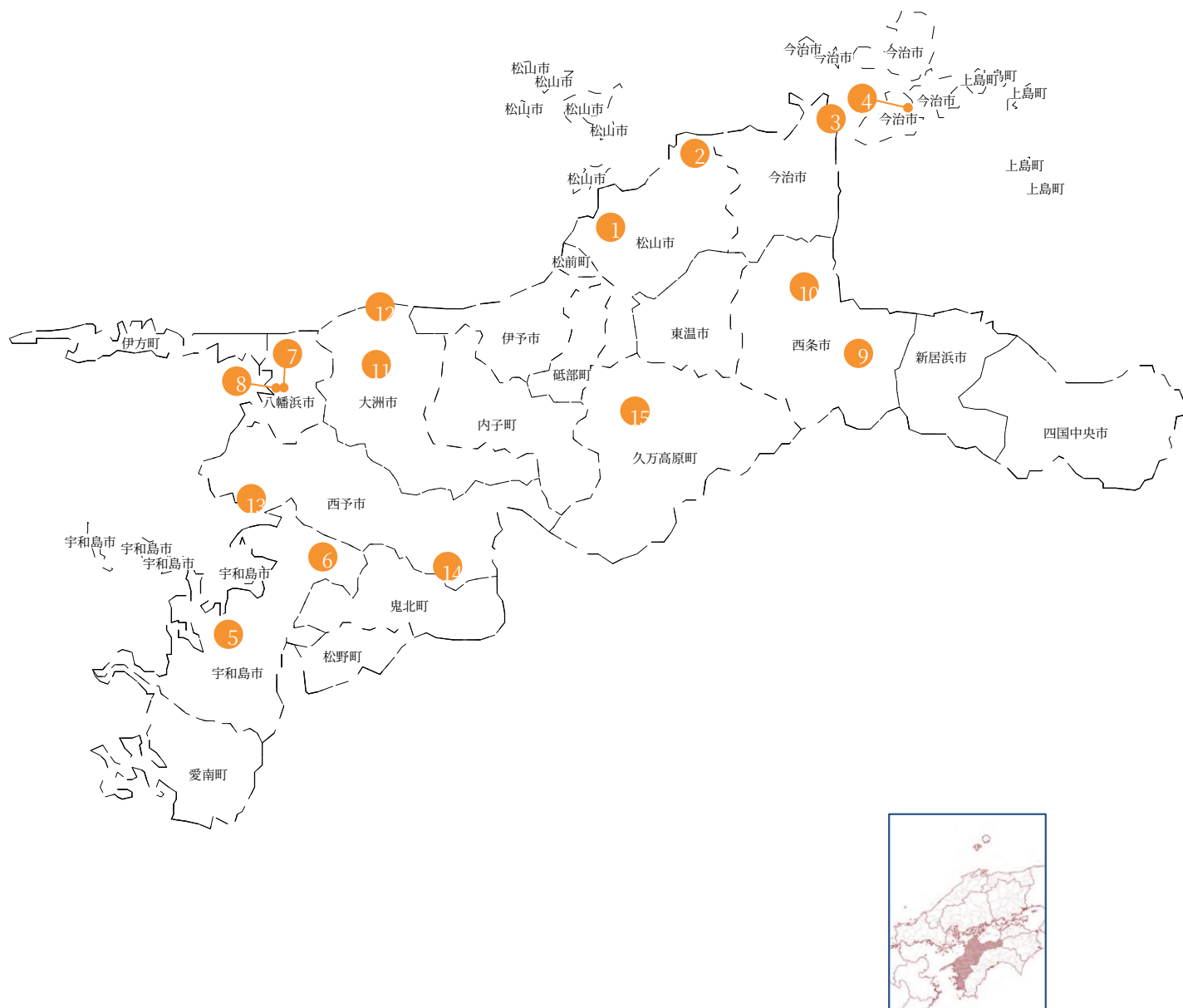
〒766-0022 仲多度郡まんのう町吉野下430番地
0877-73-0122

愛媛県

ディスカバー農山漁村 むらの宝」第12回選定) 応募団体 一覧 (愛媛県)

No	選定 団体	部門	市町村	団体名/氏名	該当する取組		
①	地方 奨励賞	団体	松山市	公益社団法人 松山市シルバー人材センター	農業	6次産業化	都市農業
②	地方 奨励賞	団体	松山市	HAPP (Hojo Agriculture Professional Production)	農業	企業との連携	移住・定住
③		団体	今治市	一般社団法人 ANT	農業	農村環境・景観保全	食育・教育
④		団体	今治市	NPO法人 能島の里	6次産業化	荒廃農地対策	女性の活躍
⑤		団体	宇和島市	アクセサリー工房「海花」(愛媛県立宇和島東高等学校津島分校)	水産業	学生・若者の活躍	その他
⑥		団体	宇和島市	愛媛県立北宇和高等学校三間分校 地域情報ビジネス部	食育・教育	学生・若者の活躍	関係人口の創出
⑦		団体	八幡浜市	愛媛県立八幡浜高等学校 商業研究部A★KIND	環境保全・農林水産業・食品産業)	教育機関との連携	学生・若者の活躍
⑧		団体	八幡浜市	ダルメインWorldマーマレードアワード&フェスティバル in Japan実行委員会	6次産業化	企業との連携	官民共創
⑨		団体	西条市	NOP法人 うちぬき21プロジェクト千町棚田チーム	農業	棚田保全	農村環境・景観保全
⑩		団体	西条市	愛媛県立丹原高等学校 Team KABOKU ～Growing Local Futures～	農業	荒廃農地対策	その他
⑪	地方 奨励賞	団体	大洲市	愛媛県立大洲農業高等学校	農業	企業との連携	農村環境・景観保全
⑫		団体	大洲市	長浜高校水族館部	水産業	食育・教育	学生・若者の活躍
⑬		団体	西予市	かりとりもさくの会	農村文化体験	移住・定住	関係人口の創出
⑭		団体	西予市	高川地域づくり会	移住・定住	関係人口の創出	その他
⑮		団体	久万高原町	愛媛県立上浮穴高等学校森林環境科「くまもるず」	農業	伝統の継承	食育・教育

応募団体所在市町図（愛媛県）



地方
奨励賞

こうえきしゃだんほうじん まつやまし

じんざい

公益社団法人 松山市シルバー人材センター

幸せになろう、農とつながる第二の人生

概 要

- 平成28年度に「まつやま郷土料理研究会」を発足。豊富な経験と知恵を持つシニア世代が生涯現役活躍できる場を創出。
- 伝統野菜「伊予緋蕪」の栽培から加工・販売までを一貫して行い、伝統文化を継承。
- 令和5年度に農園「シルバーFarm平井」を発足。会員だけでなく、地域のお年寄りや若い世代など、すべての人が関わりあうことで、ウェルビーイング（well-being）を推進。

成 果

- 「伊予緋蕪」の活動で、令和3年度に1名の就農者を輩出するなど、地域の雇用創出、伝統文化の継承、そして多世代が活躍できる社会づくりに貢献している。
- 土に触れ、作物を育てる屋外活動は、高齢者の心身の健康維持によいほか、活動の輪となり地域の活性化につながった。
- 農産物栽培アプリを導入・活用することで、初心者でも楽しみながら栽培技術を高めている。



地域マルシェでのジャガイモ販売



センターのSNS利用者に産地直接販売



伝統野菜「伊予緋蕪」の収穫

〒790-0808 松山市若草町8-3
089-933-7373 matuyamasc@sjc.ne.jp

関連情報はこちら ▶

地方
奨励賞はっぷ
HAPP

ほうじょう あぐりかるチャー ぷろふえっしょなる ぷろだくしょん
(Hojo Agriculture Professional Production)

挑戦者～畑に希望を蒔いた者たち～

概 要

- 松山市の北条地区で農業経営のプロを目指す組織として、資材業者、税理士等の他業種からも参加を募り活動している。
- 月1回開催の勉強会や、講師を招いた専門学習の場「HAPP農研ラボ」の開催、週1回の農業者向けラジオ番組「アグラジ」での情報発信の外、愛媛県「デジタル実装加速化プロジェクト」の実証等でスマート農業にも積極的に取り組んでいる。
- 新規就農者を地区に呼び込み、農地・空き家情報の提供や生活・経営サポートを行うプロジェクトを実施している。

成 果

- 定例会には毎月新たな農家が参加し、メンバー間での自発的な情報交換が活発化している。
- 認知度が高まっていることから、地元に縁がなくても「HAPPの一員」という信頼が後押しとなり、農地や機材の確保、地域との協力関係構築が円滑に進む。
- 令和3年度から毎年、1～3名が新規就農しており、令和7年度も3名が新規に就農した。



毎月の定例会と勉強会



HAPPのラジオ番組「アグラジ」



HAPP紹介パンフレット

〒799-2406 松山市中通781-1
090-6880-7086 happy.hoj@gmail.com

関連情報はこちら ▶



いっばんしゃだんほうじん あんと

一般社団法人 ANT

自分の住む地域を自分たちの力でより良くしていく

概要

- 高齢世帯の困りごとを代行する活動「おた助さん」を始めたが、農村部のためか、依頼の多くが、耕作放棄地の草刈や、管理困難な農地の相談であったため、耕作放棄地の整備、農作業の手伝い、竹林の伐採を行い、農業環境の整備活動を行う「波方地域ほぜん隊」活動を行っている。
- 農作物や加工物に興味を持ってもらい、農業を知るきっかけにするため、コミュニティショップ「ふらっと」を運営している。



力を合わせて波方の里山再生



コミュニティショップ「ふらっと」



地域の材を使った工作教室

成果

- 整備した耕作放棄地を新たに共同農地として活用して、初年度には玉ねぎを植え多くの収穫を得て、「ふらっと」の野菜バザーに出し、購入者の方に喜んでいただくことができた。
- 身近な野菜作りの相談窓口として聞かれることも増えてきた。
- 竹を伐採し景観を保つとともに、伐採した竹を活用した竹チップや、笹を塩の製造工場に持ち込み買い取ってもらうなどの活動を行った。

〒799-2101 今治市波方町波方甲2029
0898-41-9770

関連情報はこちら ▶



えぬピーおーほうじん のしま さと

NPO法人 能島の里

“黒いダイヤ”クロイチジクで6次産業化！

概要

- 市から宮窪石文化運動公園の食堂の運営を任されるにあたり、こだわりのメニューとして、糖度が高く、“黒いダイヤ”と称されるクロイチジクの栽培に挑戦。傷みやすい特徴からジャムとし、スイーツの製造・販売に展開していく目標を立てた。食堂もイチジクにあやかり“映日果”として食堂&カフェに再生。
- 令和元年度から宮窪町内の耕作放棄地を園地に整備し、徐々に面積を増やしており、現在は約50aで栽培を行っている。



映日果農園



クロイチジク狩りをする学生



ギフト用のジャム

成果

- 令和4年度は約100kg、翌令和5年度には約200kgを収穫しており、令和7年度も同程度を収穫する見込み。
- 初めての収穫を行った令和4年度は、カフェ「映日果」に女性会員10名が集まり、ジャムの瓶詰めを行った。
- 令和5年秋には、将来、調理師や栄養士を目指す今治明德短期大学の学生がクロイチジク狩りを体験した。

〒794-0073 今治市矢田甲688
090-4339-2294 onaru@meitan.ac.jp

関連情報はこちら ▶



こうぼう うみか
アクセサリー工房「海花」
えひめけんりつうわじまひがしこうとうがっこうつしまぶんこう
(愛媛県立宇和島東高等学校津島分校)

海と町に元気を届ける津島分校の挑戦！

概要

- 真珠養殖についての調査研究を進める中で、廃棄されるあこや貝の廃貝殻や規格外真珠を有効利用することが、環境問題の解決につながるのではないかと考え、令和5年度から、廃棄された貝殻や規格外の真珠を活用したアクセサリー作りに挑戦した。
- 市内の観光施設でアクセサリーの展示会を開き好評を得た後、令和6年度にはマーケティングの出張授業を受け、インナーブランディングの一環として「海花」というアクセサリー工房の社名を掲げて活動を開始した。

成果

- お守りキーホルダー「花南HANA」、つまみ細工のブローチ「あかり」などを制作し、令和6年度には地域のイベントで53個を販売した。
- 県教育委員会から商品や活動が評価され、令和7年度ソーシャルチャレンジグランプリにおいて、入賞者に授与する記念品として採用されることが決定した。
- 三浦保環境賞 実行委員会事務局から取組が評価され、同賞の候補に選ばれた。



社名「海花」と商品名「花南HANA」・「あかり」



えひめ地域づくりアワードユース2024で特別賞受賞



市観光物産協会での展示交渉・展示会の様子

〒798-3302 宇和島市津島町高田甲2469-1
0895-32-2304

関連情報はこちら ▶



えひめけんりつきたうわこうとうがっこうみまぶんこう
愛媛県立北宇和高等学校三間分校
ちいきじょうほう
地域情報ビジネス部

みまの名を全国へ！ みま米の普及継承と魅力発信プロジェクト

概要

- 宇和島市三間町では、人口の減少に歯止めがきかず、耕作放棄地の増加や竹林荒廃が増えている。その現状を打破するため、高校生が主体となり、地域を巻き込みながら地域を盛り上げるとともに、ブランド米「みま米」の普及継承をしたいとの思いから、産学連携を軸とするPR活動を行っている。
- みま米を用いた商品（MIMAライスバーガー・美沼フルーツミックス）の販売や、離島×三間、県外×三間など地域を巻き込んだPR活動を実施している。

成果

- みま米に付加価値を付け、広く認知してもらうにはどのような方法が最適かを考え、MIMAライスバーガーを三間町内外で628個販売するとともに、美沼フルーツミックス（冬場はイチゴ、夏場はキウイフルーツを用いた大福）を220個販売した。
- 駅前マルシェへの出店やパンプキンアートの設置などにより、人口減少で存続が危ぶまれているJR予土線沿線の活性化に協力することで、人口の流入につなげられた。



小学校とのライスバーガークッキング交流会



離島×三間 日振島大運動会にて



県外×三間 大分県でのクッキング体験

〒798-1115 宇和島市三間町戸雁764-3
0895-58-2031

関連情報はこちら ▶



えひめけんりつやわたはまこうとうがっこう しょうぎょうけんきゅうぶあきんど 愛媛県立八幡浜高等学校 商業研究部A★KIND

ごみかと思ったらスタートアップだった件

概要

- 商業研究部は、部活動として昭和45年に発足し、平成12年から「バーチャルカンパニーA★KIND（アキンド）」の名称で商工業や観光など色々な分野の活動を行っており、近年は、地域資源である農業と漁業を融合したビジネスプランや商品開発、環境問題について考えられる商品企画、ボランティア活動などを中心に地元で積極的に活動を続けている。
- 一昨年、八幡浜大島で行った海ごみの清掃活動をきっかけに、地元の塩や柑橘を使ったアイスクリームの商品開発、教育版マインクラフトによる大島の活性化などに取り組んだ。



海ごみのワークショップの様子



海ごみを使った商品・Sea Coaster



竹ツリー&海ごみオブジェの展示

成果

- 令和6年12月から、海ごみの牡蠣パイプを活用したオーナメントやヒンメリ作りのワークショップも月に1回程度行い、牡蠣パイプを使ったコースターやストラップの商品販売をしており、ワークショップの参加者が増えている。
- 海ごみ問題を周知するため、令和5年から年末年始に道の駅で竹林アートプロジェクトに取り組まれる森氏、フラワーデザイナーの西村氏、八幡浜工業高校とともに、放棄竹林の竹を生かしたイルミネーションに海ごみを合わせたオブジェを展示した。

〒796-0010 八幡浜市松柏丙654
0894-22-2570

関連情報はこちら ▶



わーど ダルメインWorldマーマレードアワード&フェスティバル いんじゃばん じっこういんかい in Japan実行委員会

マーマレードの聖地「やわたはま」へ

概要

- 英国ダルメインで平成18年から続く世界最大級のマーマレードコンテストの創設者が、日本からの出品数の増加とその品質の高さから、日本でも大会を開催したいとの意向を持つことを知り、日本有数の愛媛産・八幡浜産の柑橘ブランドの一層の向上を図るため誘致活動を行った結果、平成30年初頭に八幡浜市での日本大会開催が決定し、令和元年に日本で初開催された。
- フェスティバルでは、表彰式のほか、ステージイベント、農産物加工品販売ブース、受賞マーマレード販売ブースなどで、マーマレード・農産物のPRに繋げている。



第7回大会の審査会の様子



第7回大会出品マーマレード展示



第7回大会での駐日英国大使特別講演会

成果

- 本年（第7回）のマーマレードアワード&フェスティバルには、国内46都道府県に加え、海外では台湾、ドイツ、オーストラリアから、過去最多となる2,115作品の出品があった。
- 同大会で金賞を受賞した柑橘生産者の団体が企業化され、マーマレードを中心に農産物加工品を広く販売するほか、アマチュアの部の受賞者もプロとして店舗及びネットでの販売を事業化した。
- 『慈善事業を財政的に支援する』という理念のもと、アマチュアの部の出品料を全額寄附している。

〒796-8501 八幡浜市北浜1-1-1
0894-22-3111 marmalade@city.yawatahama.ehime.jp

関連情報はこちら ▶





えぬピーおーほうじん

にじゅういち

NPO法人うちぬき21プロジェクト

せんじょうたなだ

千町棚田チーム

つなぐ棚田遺産～千町棚田を後世に～

概要

- 平成12年にNPO法人うちぬき21プロジェクトが創設され、「西条市民の誇れる町づくり」を目標に、①西条のうぬき水の保全と環境美化、②芸術文化の創造と環境づくり、③市民が誇れる景観づくりの活動を中心に行っている。
- 令和3年からは千町棚田チームを結成し、地元の企業や団体、西条農業高校生とコラボし、米や野菜などの栽培から加工、放置竹林の解消、地域伝統文化（秋祭り）の継承も行い、3世代交流による地域活性化を目指している。



西条農業高校生と石垣修復活動



高校生レストランでの竹灯籠・器・山菜の提供



単管・竹を使った活動拠点(倉庫)製作

成果

- 西条市民や西条農業高校生と耕作放棄地の解消のため、水田及び山菜畑化に取り組んだ。
- 放置竹林の整備について、西条農業高校生と一緒に、令和3年度の1,542㎡から令和7年度には4,028㎡まで整備できた。
- 耕作放棄地や獣害による石垣崩壊が進み始めているため、12～3月にかけ、3枚の石垣修復を行った。
- 西条農業高校生が実施している高校生レストランでの食材の提供を始め、千町棚田再生の様々な啓発活動を図った。

〒793-0035 西条市福武甲2128-15
0897-53-8902

関連情報はこちら ▶



愛媛県立丹原高等学校 Team KABOKU

～Growing Local Futures～

地域の『母樹園』一花木栽培面積が7年間で11倍にまで成長した仕組みづくり

概要

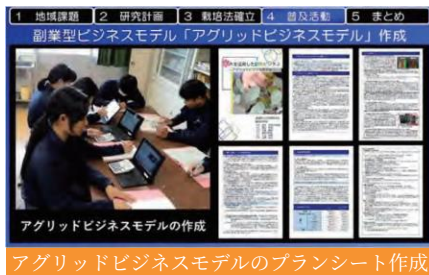
- 農家の高齢化が問題となる中、地域を担う高校生が、高齢者でも収益化が可能な副業ビジネスモデルを構築し、地域に導入するだけでなく、丹原高校産苗を地域に普及させることで地域農業を活性化させることを目的として、約7年前から研究活動を行っている。
- 農家が既存の農業形態に取り組みつつ、副業的に花木を用いたビジネスを展開するアグリッドビジネスモデルを構築した。

成果

- 同校独自の栽培法「密閉挿し」を応用し、新しい栽培法「Cell Tray Water Bath法」を開発。既存栽培法から大幅に発根率が上昇する花木栽培技術を確認した。
- メディア報道や花木挿し木技術伝承会などにより、地域農家から苗の注文が殺到し、丹原高校産の花木苗の出荷数が令和5年度から3年間で約16倍に増加する見込みである。
- 上記活動などにより、愛媛県東予地域の花木栽培面積は、令和元年からの7年間で約11倍にまで拡大した。



Cell Tray Water Bath法



アグリッドビジネスモデルのプランシート作成



花木の挿し木技術伝承会を実施

〒791-0502 西条市丹原町願連寺163番地
0898-68-7325

関連情報はこちら ▶



地方
奨励賞えひめけんりつおおずのうぎょうこうとうがっこう
愛媛県立大洲農業高等学校

「バショウ×Re:Design」～地域資源を再構築する農業と文化の挑戦～

概 要

- かつてはお盆飾りとして使われ、地域の文化に根ざしていたバショウだが、使用者が減り放置されることで、景観や農地環境が悪化していたことから、バショウの有効活用による地域資源の再生を目指し、取組を開始した。
- 令和6年度には企業と連携し、バショウと汚泥などの有機物を混合した肥料「coeru」を開発した。近隣果樹農家15軒に提供するとともに、ぶどうでの試験栽培を実施した。
- 多羅富来和紙と共同でバショウを原料とした和紙を開発し、障害者作業所ピースと連携して当該和紙で果実袋を制作した。



近隣農家にcoeruを贈呈し試験栽培開始



多羅富来和紙にバショウ和紙制作を依頼



ピースへ果実袋制作依頼、100枚納品

成 果

- coeru使用ほ場での生育調査では、新肥料使用区が対照区に比べ新梢長が5%増加、糖度は平均でグルコース6.3%、フルクトース3.0%上昇した。さらに土壌分析では可給態リン酸が10.9倍、EC値が2.7倍向上し、土壌の保水性・排水性が大幅に改善された。
- 多羅富来和紙と共同で開発した和紙は、クラウドファンディングや県内展示会を通じて22万円の売上を達成した。また、当該和紙を原料とした果実袋を100枚制作し、地域の雇用創出にも貢献した。

〒795-0064 大洲市東大洲15番地1
0893-24-3101

関連情報はここら ▶

ながはまこうこうすいぞくかんぶ
長浜高校水族館部
水族館部は救う、街も学校も！

概 要

- 長浜高校には、全国唯一の部活動「水族館部」があり、令和7年度は全校生徒156人中108人が入部している。
- 水族館一般公開で、生物の解説や様々な体験イベントを開催しているほか、教育目的の臨時公開や研究活動も充実している。
- 施設の老朽化や部員数の増加に伴い、令和6年4月、水族館は長浜水族館跡地の長浜保健センターに移転し、リニューアルオープンした。



来館者に部員が解説



令和7年度水族館部員



リニューアルオープンした長高水族館

成 果

- 部の活動は、地域に年間5,000人以上の交流人口をもたらしている。また、本年度、部所属の生徒のうち79人は寮生活を送ることで地域への流入人口を創出している。
- カクレクマノミがイソギンチャクに刺されない仕組みを研究し、令和6年度には卒業生を発明者として特許証が発行された。
- 漁協から養殖サツキマスの死亡率上昇の原因究明の依頼があり、養殖研究に取り組んだ結果、飼育密度と照度に原因があると仮説を立て、それを盛り込んだ養殖手法を漁協に提案した。

〒799-3401 大洲市長浜甲480-1
0893-52-1251

関連情報はここら ▶



かりとりもさくの会

心のパンツが脱げるまち～100年後も続く地域を目指して～

概要

- かりとりもさくの会は、西予市明浜町狩江地区の地域づくり活動のため、地区住民を構成員として平成23年に発足し、子育て支援団体や段々畑ガイドの会、景観保存会など約20の構成団体が活動している。
- 移住者受入れや地域外交流に注力しており、インバウンドを含む田舎体験観光客や修学旅行生の受入れ、ワーケーション企業や地域おこし協力隊の受入れ、地域食堂など多岐に渡る取組を行っている。



石垣修繕体験



段々畑ガイド



インバウンド客の魚捌き体験

〒797-0113 西予市明浜町狩江3-202-7
0894-65-0301

関連情報はこちら ▶



高川地域づくり会

来て見て感じて高川

概要

- 高川地域づくり会は、市の「せいよ地域づくり交付金」を活用して、地域が直面している多くの課題に対して主体的に自主・自立した地域づくりを実施するため、年間を通じて様々な活動を展開し地域内外の交流促進に取り組み始めた。
- 穴神鍾乳洞体験や四国初となるフットパス体験など、地域資源を生かした活動を実施している。ピザ焼き体験では、手作り石窯で地元食材をふんだんに使ったピザを食べることができる。また、絵本の新規発行も行った。



手作り石窯によるピザ焼き体験



SUIJI学生らによる現地研修



令和6年度に新規発行した絵本

成果

- 穴神鍾乳洞の絵本『ぼくらの穴神鍾乳洞発見物語』を1,000部発行し、書店や通販サイトでの販売や、ふるさと納税返礼品への登録、市内施設への無償配布などで、地域資源のPRにつながった。入洞の際に行った読み聞かせは、幅広い世代に好評であった。
- 穴神鍾乳洞体験の延べ人数は、令和2年度の406人から令和7年度には1,100人まで増加する見込みである。

〒797-1705 西予市城川町高野子75-1
0894-83-1001 takagawa.se@gmail.com

関連情報はこちら ▶



えひめけんりつ かみうけなこうとうがっこう しんりんかんきょうか

愛媛県立上浮穴高等学校森林環境科「くまもるず」

上高生が未来へ繋ぐ、天空の郷の地大豆・地雑穀

概 要

- 愛媛県立上浮穴高等学校（通称、上高（かみこう））には、全国でも珍しい林業・森林を専門的に学ぶ「森林環境科」があり、林業、自然、農業に興味を持つ生徒が全国から集まっている。
- 久万高原町の基幹産業である農林業は、担い手不足、郷土料理や在来作物の文化継承が課題となっていたことから、令和5年に地域資源復活プロジェクトチーム「くまもるず」を立ち上げ、在来作物である地大豆「久万大豆」や地雑穀の継承・普及、地域活性化を目指し、持続可能な農村づくりに取り組んでいる。



町内イベントでの販売・PR活動



地域自営者とのクマ式きびきびナンの開発



地元小学生との栽培交流

成 果

- とうきび粉を練り込んだナン生地雑穀カレー（たかきびを肉の代わりに使用したキーマカレー）を盛り付けた「クマ式きびきびナン」を町内のイベントで150個販売。
- 令和6年9月から販売を始めた、水を入れて20分煮詰めるだけで雑穀カレーが完成する「ぷちきびカレー」は、2,000個以上を販売しており、ふるさと納税返礼品にも採用された。
- 久万大豆の栽培を10年ぶりに再開し、150名以上の生産者に種子を配付し、地域への栽培継承と普及活動を実施している。

〒791-1206 上浮穴郡久万高原町上野尻甲486
0892-21-1205

関連情報はこちら ▶



高知県

ディスカバー農山漁村 むらの宝」第12回選定) 応募団体等 一覧 高知県)

No	選定 団体等	部門	市町村	団体名/氏名	該当する取組		
①		個人	高知市	井上 聖也	農業	食育・教育	多様な分野との連携
②		団体	高知市	土佐ベルガモット協議会	農業	6次産業化	企業との連携
③	地方 奨励賞	団体	室戸市	高知県立室戸高等学校	企業との連携	ジビエ	学生・若者の活躍
④		団体	室戸市	日南・大平集落活動センターひなたぼっこ	農業	6次産業化	高齢者の活躍
⑤		団体	安芸市	安芸 釜あげちりめん井」楽会	水産業	地産地消	食育・教育
⑥	地方 奨励賞	団体	安芸市	安芸市農福連携研究会	農業	農福連携	
⑦		団体	安芸市	入河内大根のこそう会	農業	地産地消	伝統の継承
⑧		団体	安芸市	有限会社はたやま夢楽	農業	6次産業化	雇用
⑨		団体	南国市	高知農業高等学校畜産総合科3年 加工班	農業	6次産業化	企業との連携
⑩		個人	南国市	斉藤 佳洋	農業	6次産業化	地産地消
⑪		団体	南国市	農家レストラン「まほろば畑」	伝統の継承	食育・教育	女性の活躍
⑫		団体	須崎市	株式会社山岸竹材店	6次産業化	伝統の継承	環境保全・農林水産業・食品産業)
⑬		団体	宿毛市	高知県立宿毛高等学校 すくもっともりあげ隊	伝統の継承	学生・若者の活躍	関係人口の創出
⑭	地方 奨励賞	団体	四万十市	高知県立幡多農業高等学校	農業	食育・教育	学生・若者の活躍
⑮	地方 奨励賞	個人	四万十市	山本 美加	農業	農泊	食育・教育
⑯	地方 奨励賞	団体	四万十市	りん	荒廃農地対策	教育機関との連携	食育・教育
⑰		団体	奈半利町	一般社団法人なはりの郷	農業	6次産業化	荒廃農地対策
⑱		団体	大豊町	集落活動センターそばの里 立川	移住・定住	学生・若者の活躍	関係人口の創出
⑲		団体	佐川町	特定非営利活動法人とかの元気村	移住・定住	農村環境・景観保全	関係人口の創出
⑳		団体	梼原町	ゆすはらジビエの里	ジビエ	鳥獣被害防止	移住・定住
㉑		団体	四万十町	JA高知県四万十エコ栽培米生産部会	農業	食育・教育	高齢者の活躍
㉒		団体	黒潮町	鞭地区資源保全クラブ	高齢者の活躍	農村環境・景観保全	

応募団体等所在市町村図（高知県）



いのうえ せいや
井上 聖也

Jリーガーが育てる本気の野菜

概要

- J3のサッカークラブチーム、高知ユナイテッドSCにゴールキーパーとして所属。
- 農業に親しみを持っており、自分が育てた野菜をチームメイトに食べてもらいたいとの思いから、サッカー選手をしながら家庭菜園「井上ファーム」を始め、独学で多品種の野菜を栽培。
- 栽培した野菜を高知ユナイテッドSCのホーム戦時に売り始めたところ好評で、販売イベントを複数回開催している。



井上ファームで収穫した野菜



ホーム戦時の販売イベント



幼稚園児とのじゃがいも掘り体験

成果

- 農園で幼稚園児とさつまいもやじゃがいも掘り体験を行うことにより、食育を実践している。
- 高知ユナイテッドSCのホームゲーム時に、栽培した野菜をサポーターに販売し、売り上げを伸ばしている。
- 毎年、栽培品種数を増やし、販売イベントの回数を増加させている。

soccerkg0625@gmail.com

関連情報はこちら ▶

と さ きょうぎかい
土佐ベルガモット協議会

高知を香りで呼べる地へ

概要

- 平成21年に柑橘農家（株）にしごみと加工事業社（スタジオオカムラ）により、ベルガモットプロジェクトを立ち上げ、イタリア原産のベルガモットの国産化を目指し、生産者は栽培技術の確立、加工事業者は商品ならびに用途開発に取り組む。
- 特に栽培技術に関して、高知県他産地での広がりも念頭におき、情報開示できるようきめ細かく記録をしてきた。特徴的な香りを持つ柑橘であることから天然香料としての価値創造も挑戦し、令和7年7月に協議会として組織化している。

成果

- 栽培技術の確立及び生産性の向上から10アールあたり1,000千円以上の生産所得を達成し、栽培希望者も増えたことから協議会を設立。栽培技術の開示と合わせて品質の安定、規格基準を定めた。
- 栽培面積も当初の40アールから令和7年現在150アールほどに拡大し、地域の宝物にするため「記憶に残る香り」の挑戦を続けている。



破棄ビニールハウスを整備して、栽培を開始



ハウス栽培と並行し、露地栽培を開始



土佐ベルガモット収穫祭のメディア取材

〒781-0302 高知市春野町弘岡中668
088-894-2531 mikan@nishigomi.com

関連情報はこちら ▶



地方
奨励賞こうちけんりつむろとこうとうがっこう
高知県立室戸高等学校

目指せ！ふるさとの未来を創るグローバルプレイヤー

概 要

- ユネスコ世界ジオパークを教育に活用し、市や大学と連携し地域の未来に貢献する人材を育成している。
- 生徒は、地質・自然・文化を調査し、観光客向けジオツアーの企画・ガイド、防災イベント、地域PR動画制作などの実践活動に取り組んでいる。
- 室戸岬に繁茂する侵略的植物であるウチワサボテンの除去と利活用でスムーズなど商品試作やジビエの商品開発に取り組んでいる。



生徒によるジオガイドツアー

成 果

- 防災リテラシーや自然科学の知見を生かした学びが深化し、市防災課と連携した地域住民向け防災教室など地域との協働も広がった。
- 活動は全国高等学校グローバル探究オンライン発表会で金賞を受賞するなど高く評価され、高校生による地域と世界をつなぐ新しい価値を創出するモデル校として、地域活性化と人材育成を同時に実現。



小学校対象の防災教室

〒781-7102 室戸市室津221
0887-22-1155 320102@ken.pref.kochi.lg.jp

関連情報はこちら ▶



ひなた おひらしゅうらくかつどう

日南・大平集落活動センターひなたぼっこ

幻の伝統野菜「ぼたなす」で日南・大平地区を元気に！

概 要

- 交流関係人口の増加を目的としている観光交流部会や、ぼたなすと田芋の生産者の増加や付加価値の向上を目的とした農林業部会に地域住民が所属し、様々な活動に取り組んでいる。
- 令和6年度に「ぼたなす倶楽部」を立ち上げ、幻の伝統野菜「ぼたなす」の集出荷事業をスタートさせ、県内外に出荷している。



モーニング

成 果

- 生産者にぼたなす倶楽部に加入してもらい、集落活動センターひなたぼっこが生産者から買い取った後、県内外へ出荷し、純利益を出荷量に応じて組合員へ還元する仕組みを作った。
- ハイブリットファーム（共同農園）では、ひなたぼっこで所有している土地を生産者ごとに区分けして栽培し、日替わりで水やりや消毒等の管理をしていることにより1人1人の負担を軽減し、生産することが可能となった。



ぼたなす出荷作業

〒781-6832 室戸市吉良川町甲1112
0887-25-3777 2023hinatabocco.life@gmail.com

関連情報はこちら ▶





あ き か ま ど ん が っ か い 安芸「釜あげちりめん丼」楽会

じゃこ食文化で郷土愛を育むじゃこ！！

概要

- 平成22年に設立し12団体21名で活動を開始。現在の構成員は25団体42名。安芸沖で獲れるシラス（ちりめんじゃこ）などの地域食材をPRすることにより、消費拡大や観光客の誘致につなげ地域産業の振興や郷土愛の向上を図る取組。
- 平成25年以降、じゃこサミットを開催し安芸市をじゃこの聖地として全国へPR。
- 出前授業・じゃこゼミナール・講演会を開催。



安芸市の小学校での出前授業

成果

- パンフレットなどの設置、配布、SNS等の活用により店舗を紹介。親子で楽しめるじゃこ文具等のグッズ作成、出店販売、着ぐるみ活動、出前授業、県外との交流も実施。
- 毎月15日を「じゃこの日」として制定。のぼりなどを作成。毎月15日には保育・学校でじゃこ料理を提供。



全国ご当地じゃこサミットの開催風景

〒784-0004 安芸市本町3丁目11-5 安芸商工会議所内 事務局
0887-34-1311 aki006@cciweb.or.jp

関連情報はこちら ▶



地方
奨励賞

あきしのうふくれんけいけんきゅうかい 安芸市農福連携研究会

全ての人が生きがいを持って自分らしく生活できる

概要

- 平成30年、福祉分野での就労受入れ先、農業分野での労働力不足の問題解決に福祉分野と農業分野が連携するため本研究会を立ち上げた。
- 市や県の農業及び福祉の担当部署、特別支援学校、医療機関、JA、その他関係機関がメンバーとして参加。
- 農業の労働力確保や農地等の維持活用、障がい者等の就労機会を確保し、支援体制と連携の確立がとれた取り組みを実施。



雇用に向けたゆず収穫体験

成果

- 農家は、障がい者等がいきいきと働く姿に好感をもち、障がい者等の堅実な仕事ぶりで収量の増加や面積の増加につながった。
- 地域農業にとって生きづらさを抱えた人や障がい者等の雇用が必要となってきた。
- 受入れ農家や同僚ともコミュニケーションがとれたことが自信となり一般就労につながった。



事例や課題を共有するサミット

〒784-0021 安芸市幸町1-16
0887-34-8325 aki-einokikaku@ja.-kochi.or.jp

にゅうがうちだいこん かい
入河内大根のこそう会
入河内大根で交流の輪を広げよう

概要

- 入河内地区に古くから伝わってきた「入河内大根」を保護、継承し地域活性化に資するため農家を中心に会を結成。
- 伝統野菜の入河内大根の収穫、販売等を通じて交流人口の拡大など地域の活性化に繋げる取り組みを行っている。
- 高知市、南国市での大型店舗による対面販売を実施し、消費者との交流を図っている。

成果

- グループや遠方から訪れる人々も徐々に増え、収穫体験などの交流を通じて地域活性化に貢献している。
- 短大・大学生と連携した圃場（約1㍔）での栽培を通じて学生達との交流を継続している。定期的な交流により、地域の人々が元気をもらっている。
- 「入河内大根定食」をメニュー化、高知市内のホテル等でもメニュー化され「入河内」地域の認知度も高まった。



収穫した入河内大根



学生の収穫体験



こまどり温泉の入河内定食

〒784-0272 安芸市入河内588（東川公民館内）
0887-32-3031 norino01@city.aki.lg.jp

関連情報はこちら ▶



ゆうげんがいしゃ むら
有限会社はたやま夢楽

人口20人の限界集落に年間1,700人を呼ぶ土佐ジロー

概要

- 高知県の地鶏「土佐ジロー」を肉用として飼育・加工し、全国の飲食店や個人消費者へ販売。平成16年から行政所有の温泉宿を指定管理し、令和4年には自社で宿泊施設を建設。
- 取引希望者に産地や特徴を知ってもらった上で、納品する仕組みを構築。
- 焼き鳥店店主を対象とした土佐ジロー合宿（鶏種や育て方の講和、実食など）の開催を経て、常時提供できる講座付きの宿泊プランを開設。

成果

- 令和4年、自社で宿泊施設を開業してからは、より土佐ジローに特化した宿泊プランを展開。
- 関係者と連携した料理、森林浴各種等イベント、インターン生の受入、県内外からの移住者の雇用も実施している。
- 全国や海外からの誘客に成功している。



土佐ジロー合宿



婚活イベントを開催



地域資源とヨガを組み合わせイベントを開催

〒784-0063 安芸市畑山甲1001-2
090-4787-0413 hatayamamura@gmail.com

関連情報はこちら ▶





こうちのうぎょうこうとうがっこうちくさんそうごうか ねん かこうはん
高知農業高等学校畜産総合科3年 加工班
 畜産農家を救えプロジェクト

概要

- コロナ禍により外食需要が激減し、地元産地鶏の在庫が大量に残る事態に、困窮する畜産農家を助けた高校生たちが、鶏肉の消費促進を目指し、商品開発と販売活動を開始。
- この経験を契機に、「畜産農家を救えプロジェクト」が立ち上がり、活動が継続されている。
- 畜産を学ぶ高校生が中心となり、畜産物を活用した商品開発、食育活動、普及啓発、地域との協働など、多角的なアプローチで畜産農家支援を展開。



百貨店にてカフェを開催

成果

- 地鶏を利用したカレーパンは5万個を販売。小学校での牛乳教室やマラソン大会でのミルクスープ配布などを通じて、地域の食育や畜産物への理解が深まった。課題研究としても高い教育効果を発揮し、キャリア教育として文部科学大臣賞を受賞。
- 牛乳や卵を使ったスイーツ、規格外野菜を加えたソーセージ、赤身肉の有効活用など、畜産物を活かした新たな商品を複数開発。地域企業との連携により販売にもつなげ、生産現場の収益向上にも貢献している。



ソーセージ製造



ミルクスープを配布

〒783-0024 南国市東崎957-1
 088-863-3155 yoko8715@g.kochinet.ed.jp

関連情報はこちら ▶



さいとう よしひろ
斉藤 佳洋

シバが主体でコストを下げ、地域密着で副産物を利用し、さらにその先の持続可能な山地酪農を目指す。

概要

- 昭和62年に山路酪農を愛する会を発足。以降低温殺菌ノンホミジナイズ牛乳の生産に取り組む。
- 飼料がシバ主体の中で、冬場のシバが足りないところを副産物（カブ加工物残渣や四方竹残渣）を産廃ではなく資源として活用し究極なまでの乳飼比削減を目指した取り組みを実施。

成果

- 飼料はタケノコの皮（4企業）、カブ加工品残渣、高知の特産四方竹の皮、くず米、米ぬか、酒粕、ビール粕など関連企業から提供を受け、資源として利用し、経費を圧迫しない低コストな酪農を実現。
- コスト低減により持続可能な山路酪農を目指していく。
- 令和6年、南国斉藤牧場の山路酪農牛乳が楽天市場で上位となる。



山地酪農はシバが主食です



カブ加工品残渣を食べてます



第7回オーガニックフェスタ出品

〒783-0058 南国市白木谷3100
 090-3787-1961 MAH02163@nifty.ne.jp

関連情報はこちら ▶



のうか ばたけ
農家レストラン「まほろば畑」

うちの農家レストランは地産地消ぜよ！

概要

- 毎月1回「農家レストランまほろば畑」を開催。旬の野菜をふんだんに使い工夫した料理や昔から受け継がれてきた郷土料理などのメニューを用意し、バイキング形式で料理を提供。
- 南国市産野菜の認知度アップと地域野菜の消費拡大を図るため、農家レストランでおいしく食べてもらった料理を家庭でも作ってもらえるようにおすすめレシピを数種類作成。

成果

- 平成22年10月にオープンした農家レストラン「まほろば畑」は、令和5年7月には来店者数7万人を達成。旬の野菜をふんだんに使った料理を提供することで、南国市産野菜の認知度アップと地域野菜の消費拡大に貢献。生産者と消費者をつなぐとともに地域の活性化にも寄与している。
- 当レストランの食の技術を生かした土佐田舎寿司を販売することで、料理に対する親しみや愛着を持ってもらい、幅広い層への伝承を行っている。



農家レストランのオープン時の様子



作成した料理レシピ集など



販売した土佐田舎寿司

〒783-0004 南国市大桶甲2301 (南国市役所農林水産課)
088-880-6559 n-chisan@city.nankoku.lg.jp

関連情報はこちら ▶



かぶしきがいしゃやまぎしちくざいてん
株式会社山岸竹材店

日本唯一の虎竹を次の100年へ

概要

- 明治27年（1894年）に創業。竹材・竹製品製造卸業として131年の歴史を持つ。
- 独特な虎模様が特徴の日本唯一の虎斑竹（とらふだけ）を育む。
- 竹の老舗、竹の専門店ならではの「虎竹のある暮らし」を提案。虎竹を守り次世代へ繋いでいくために、竹林の育成管理、商品開発・販売、情報発信など積極的な取り組みを続けている。

成果

- 竹林の育成（1次産業）、製品の加工・製造（2次産業）、実店舗やECサイトでの販売（3次産業）を一貫して行い、地域の雇用創出や経済の活性化にもつなげている。竹端材等も、自社の伏せ窯で竹炭に加工し、販売。竹材を無駄なく活用し、循環型社会の実現にも貢献。
- 竹は、樹木より多くのCO2を吸収する環境にやさしい素材で、農薬・化学物質不使用の自然に負荷をかけない竹林管理を行っている。虎竹文化を未来へ繋ぐため、持続可能な社会の実現に向けて、竹林保全と循環利用に取り組んでいる。



自社の伏せ窯で焼いた竹炭



竹トラッカー、REIWA-125号、虎竹アーマー



虎竹よさこい地方車「虎竹号」

〒785-0024 須崎市安和913-1
0889-42-3201 info@taketora.co.jp

関連情報はこちら ▶



こうちけんりつすくもこうとうがっこう

たい

高知県立宿毛高等学校 すくもっともりあげ隊

次世代へつなぐ宿毛の輝き

概要

- 高校生と自治会との連携、地域イベントの関係人口の増加、伝統文化の継承。
- 地域課題の解決を目指し、総合的な探究の時間でグループ活動に取り組む。高校生が地域の祭りに企画運営から携わることで、地域の活性化、持続可能な伝統文化の継承につながることを目標に活動。

成果

- 企画運営から携わった「大島盆踊り」のポスターを市内の量販店に持参し掲示。
- 近年なかった出店を企画、準備。当日の盆踊りは、「ヨーヨー釣り」「スーパーボールすくい」「宝石すくい」の運営に加え、アナウンス、盆踊り、お菓子配りを担当した。祭りは近年にない盛り上がりを見せ、主催者や参加者から感謝や労いの言葉を多くいただいた。



祭りの歴史を含めての事前打合せ



市内量販店に掲示したポスター2種



屋台運営の様子

〒788-0008 宿毛市与市明5-82
0880-63-2164 320122@ken.pref.kochi.lg.jp

関連情報はこちら ▶

地方
奨励賞こうちけんりつはたのうぎょうこうとうがっこう
高知県立幡多農業高等学校

幡多っこ食育プロジェクト～食で育む地元愛～

概要

- 四万十市からの相談を元に令和4年11月から幡多農業高校で作った農産物を小中学校の給食に提供する取組を開始。
- 食材の安全・安定供給のため、GAP認証やICT管理を活用。
- 地産地消と食育を目的に持続可能性を重視した供給システムを構築。園芸システム科をはじめ全4学科が参画し、米、野菜、マーマレード等を共同生産。

成果

- トマト・メロンのGAP認証取得やIPM・自然素材活用の安全・環境配慮型農業を実現し、ICT管理で作業進捗と品質を共有・可視化。これら体験を通し生徒の農業経営力等を育成。
- 地産地消の推進により、地域内での循環型経済を促進し、地域活性化に寄与。
- 食育交流活動で小学生と交流し農業理解と地域愛を醸成。累計80,000食を超える給食を提供。



はたのう給食



食育活動や成果発表



全校で食材を納品

〒787-0010 四万十市古津賀3711
0880-34-2166 320126@ken.pref.kochi.lg.jp

関連情報はこちら ▶



地方
奨励賞やまもと みか
山本 美加

農業に未来を 若者に農業を

概 要

- 平成9年の夫のUターン就農数年後に就農。平成13年の米価下落を機に野菜栽培に転換。現在はナバナ、ラッキョウ、青ネギを約20haで栽培。
- 「農業に未来を 若者に農業を」をスローガンに、若者や女性が働きやすい環境づくり、園児から高校生を対象に農業や農家の暮らしの魅力を伝える活動を推進。
- 農業のPRに向けた学生への出前授業や民泊の受入に取り組む。



ナバナの定植作業体験



小学校での出前授業



作業スタッフとの旅行

成 果

- 福利厚生充実、環境整備（男女別トイレ設置、休憩室整備、作業ごとの手順書作成、作業の見える化等）、グローバルGAPに取り組み、若者の雇用につなげた。
- 地元の保育園児や小中学生を対象に、出前授業や農作業体験を実施し、農業は自分の取組が結果に結びつく職業であることを伝えた。首都圏の小中学生や高校生を民泊で受入れ、農作業体験や地域食材使用の調理実習で、高知の食の魅力を伝えた。
- 令和6年からはInstagramで農作業の様子を情報発信。令和6年度の雇用は、女性30人、若者3人。

〒787-0019 四万十市具同5131-1
080-5661-3206 farmyamamotomika@gmail.com

関連情報はこちら ▶

地方
奨励賞

りん

人と自然との調和～ここから繋がる笑顔の輪～

概 要

- 令和5年設立のまちづくりグループ。多業種の民間事業者が集まり、子どもたちが自然と触れ合える場の提供や文化伝承、休耕地を活用した体験型子供向け食育活動を実施。
- 平日は地元幼稚園と連携し、休日は一般の方向けに企画を実施。
- 種まきから収穫、料理、販売、コンポストの一連の循環を、多業種のメンバーで企画ごとに専門性を生かして実施。
- 栽培方法は、環境保全や持続可能な循環型の方法を考慮し、無農薬・減農薬栽培。

成 果

- 休耕地の解消。
- 運営資金は子どもたちが野菜を直接販売し調達した。
- 圃場管理や企画スタッフが年々増加している。一年を通して子どもたちの笑顔と成長の姿が見られた。
- 地域との絆を深め、支え合う関係性を構築。
- 令和6年度の食育体験参加人数は増加し320人となっている。



店頭での販売体験



種まきから始める切り花体験



自分で収穫したトウモロコシ

〒787-1443 四万十市蔵岡乙1951-2
090-2785-1173(代表 西村光平) natural.rin410@gmail.com

関連情報はこちら ▶



いっばんしゃだんほうじん

さと

一般社団法人なはりの郷

40年の歴史が育てた、未来へつなぐひと粒。

概 要

- イチジクの生産や販売、加工品の開発を行うことにより、不耕作地の解消や地域住民の雇用の拡大に取り組み、一次産業の振興を図る。
- 農業部門と直販部門が連携して収穫から販売までの行程をルール化したことにより販売量の増加を目指す。
- イチジクの売上向上と観光への波及につながる取り組みを実施。

成 果

- 高齢化や後継者不足により生産者が減少し、不耕作地が増加していたが、令和2年度には28a、令和6年度には46aまで栽培面積を拡大。不耕作地の解消に一定の成果を上げている。
- 地域住民を雇用することで、地域内での就労機会を創出している。また、作業後の交流などを通じて従業員間のつながりも深まり、地域コミュニティの活性化にも寄与している。
- イチジク栽培は、着実に売上を伸ばしており、有数の生産規模に成長し、奈半利町の観光入込数や観光消費額の増加にもつながっている。



8月下旬に生成期を迎えるイチジク



完熟前のイチジク



朝5時から収穫

〒781-6402 安芸郡奈半利町乙1670
0887-30-1816 naharinosato@mc.pikara.ne.jp

関連情報はこちら ▶



しゅうらくかつどう

さと たじかわ

集落活動センターそばの里 立川

立川地区の里山保全のための移住・関係人口の拡大

概 要

- 大豊町立川地区は、高齢化率が85%となっており、高齢化が進む大豊町内でもさらに高齢化が進んでいる地区になっている。
- 立川地区では、地域内の担い手が減少し、地域内のマンパワーだけでは足りず、地域外のマンパワーも活用する必要があるため、移住・関係人口の拡大に取り組むことになった。

成 果

- 高知大学の留学生を受入れ、春と秋に、茶つみと餅つき体験を行い、自然豊かな立川地区の暮らしへの理解を深めている。
- 高知県立大学の学生団体「おおよ探検隊」が、令和4年から立川地区で活動を行い、広報誌作成や手作りお菓子の販売など、地域住民と協力して立川地区の活性化に取り組んでいる。
- 令和5年にInstagramを開発。立川地区の美しい風景に関心がある人が多く、フォロワー数は、170人ほどになっている。立川地区に住んでいないが、立川地区に関わりがある人を「関係人口」とし、関係人口住民票を発行している。



高知大学留学生受入れの様子



高知県立大学「おおよ探検隊」集合写真



立川住民票のデザイン

〒789-0427 長岡郡大豊町立川下名493
090-1605-9596 stnutt6669@ma.pikara.ne.jp

関連情報はこちら ▶



とくていひえいりかつどうほうじん げんきむら

特定非営利活動法人とかの元気村

『わかもの交流会』で次世代を担う若者を呼び込む!!

概要

- 「特定非営利活動法人とかの元気村」は、佐川町斗賀野地区人口約3千人のエリア全体をカバーし、地域づくりのため、地域の核となる施設「とかの集落活動センターあおぞら」（農村RMO）を拠点とする活動組織。
- とかの元気村の中核メンバーは、60～80代が中心。次の世代にバトンを渡すため、子育て世代を中心とした地域の若者とおしの交流の場を演出し、同じ世代の横のつながりと元気村メンバーとの縦のつながりを深めるため、イベントを企画している。

成果

- 屋外でBBQによる交流を図る「わかもの交流会」を開催し、役割分担を持たせながら、飲食やゲームによる参加で交流し、参加者同士や地域の人とのつながりを深めている。
- イベントでの交流を通じて、元気村の会員になった者や元気村の主催する様々なイベントへの参加者が増え、次世代の人材発掘という当初の目的が達成されつつある。



第4回クイズ大会



第5回ゲーム大会



第6回BBQ会場

〒789-1232 高岡郡佐川町東組2692
0889-20-9860 qqkm3xy9k@beach.ocn.ne.jp

関連情報はこちら ▶



さと

ゆすはらジビエの里

山から里に生命が絆をつなぐゆすはらジビエ8年目の円環へ

概要

- イノシシやシカの肉を自家消費する動きに「『ジビエ』をお金に換える仕組み」という視点を加え、地域資源を有効活用した活力ある地域づくりを目指しNPO法人を設立し活動を開始。
- 猟友会との連携によるイノシシ・シカの年間を通じた安定供給、移動式解体処理車（ジビエカー）の導入による搬入行程の安定化、積極的な新商品（加工品や革製品等）開発及び販路開拓等の創意工夫に取り組む。

成果

- 町補助金の給付期間が満了し人件費補助が支払われなくなった令和5年以降も、キャッシュフロー上の収支はプラスの状態を達成。補助金や交付金を受けずに黒字を維持できている計算になり、自立経営を確立しつつある。
- 梶原小中学校共同調理場の管理栄養士や梶原町教育委員会等との連携により、町内の学校給食に月1回程度梶原町産ジビエを提供。食育支援の観点からも地域に貢献することができている。



ジビエカーでの解体、施設内での精肉・梱包



給食で提供されたジビエハンバーガー



梶原学園生徒へのジビエについての授業

〒785-0644 高岡郡梶原町広野171
0889-65-0850 yusuharagibier@gmail.com

関連情報はこちら ▶



こうちけん しまんとう さいばいまい せいさんぶかい

JA高知県四万十エコ栽培米生産部会

部会員みんなで協力し日本一おいしい米を作ろう!!

概要

- 平成17年に生産者組織「エコ栽培米生産部会」の活動を開始。四万十町(旧窪川町)で米を栽培する農家で構成されており、現在14名で活動中。地元ブランド米である「仁井田米」と差別化をした「JA高知県四万十厳選米」を栽培し、「産地の米価格の維持向上」により、「生産者の安定した所得確保」に努めている。
- 特別栽培の基準に則った環境に負荷の少ない栽培を行う。栽培期間中は毎月現地検討会を行い、栽培期間中以外も栽培検討会や反省会などを開催。生産者間の交流と栽培技術の向上を目指す。



米コンテスト金賞受賞



現地検討会



親子で田植えイベント

成果

- 食味の向上を図るために、栽培期間中は毎月生産者、事務局、指導員及び普及所で圃場を巡回。病害虫の早期発見と対策及び、栽培技術も共有し、新規部会員が入ってもすぐに栽培技術が向上する体制となっている。
- 毎年、お米コンテストへ選抜したお米を出品し、他産地と比較される場へ出すことによって、向上心を持ち続けている。
- 県内の消費者家族に田植えと稲刈りの交流イベントを例年実施するほか、ブランド化を進めている産地への視察等も行い、SNSを通じて情報発信している。

〒786-0027 高岡郡四万十町東大奈路字丸山513

0880-22-3586 kos-shi-hanbai-beikoku@ja-kochi.or.jp

関連情報はこちら ▶



ぶちちく しげんほぜん

鞭地区資源保全クラブ

多様な人々が築く、豊かな地域の未来

概要

- 本組織は、高知県西南部幡多地区の東部に位置し、農作物の育成が旺盛な地域で、過疎化や高齢化を背景に地域資源の維持管理が困難になってきたため、平成19年に活動を開始。
- 現在は、農業者・非農業者合わせて10名で構成され、多様な人材の参画により、景観形成活動及び地域コミュニティ維持、活性化に携わる活動に取り組んでいる。

成果

- 地域の共同活動に加えて、地域のお祭りや老人会イベントによる交流も行われた。草刈りや植栽活動を通じて、地域の景観が美しく保たれ、住民にとって魅力的な環境が整備されている。
- 多様な人材の参画によって地域内のつながりが一層深まり、コミュニティ全体の結束力を高め、地域の活性化に寄与している。



婦人会 植栽活動



地元議員団 農道草刈り



農村文化の夏祭り

〒789-1911 幡多郡黒潮町浮鞭1914

090-5915-6558 pirikaradon90@iwbk.ne.jp



ディスカバー農山漁村の宝



【お問い合わせ先】 中国四国農政局

鳥取県拠点地方参事官室

〒680-0845 鳥取県鳥取市富安2-89-4

鳥取第1地方合同庁舎

☎0857-22-3131

島根県拠点地方参事官室

〒690-0001 島根県松江市東朝日町192

☎0852-24-7311

岡山県拠点地方参事官室

〒700-0927 岡山県岡山市北区西古松2-6-18

西古松合同庁舎3階

☎086-899-8610

広島県拠点地方参事官室

〒730-0012 広島県広島市中区上八丁堀6-30

広島合同庁舎2号館6階

☎082-228-9676

山口県拠点地方参事官室

〒753-0088 山口県山口市巾着町6-16

山口地方合同庁舎1号館3階

☎083-922-5412

徳島県拠点地方参事官室

〒770-0943 徳島県徳島市中昭和町2-32

☎088-622-6131

香川県拠点地方参事官室

〒760-0019 香川県高松市サンポート3-33

高松サンポート合同庁舎南館5階

☎087-883-6502

愛媛県拠点地方参事官室

〒790-8519 愛媛県松山市宮田町188

松山地方合同庁舎

☎089-932-1177

高知県拠点地方参事官室

〒780-0870 高知県高知市本町4-3-41

高知地方合同庁舎4階

☎088-875-7236

農村振興部農村計画課

〒700-8532 岡山県岡山市北区下石井1-4-1

岡山第2合同庁舎

☎086-224-4511